

講 義 概 要

シラバス

| | |
|------------------------|--------|
| 共通科目 | P. 141 |
| 専門科目(英語観光学科) | P. 177 |
| 専門科目(心理こども学科) | P. 245 |
| 教職に関する科目(英語観光学科) | P. 297 |

現代人間学部
共通科目

| | | | | | |
|--------------|-------|-------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教入門 | ET/PC | 11101 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 尾崎 秀夫 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、K A I S E I パーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画

1. はじめに 宗教とは
2. 世界の三大宗教(仏教)
3. 世界の三大宗教(イスラム教)
4. 創造神話
5. アブラハム
6. 出エジプト
7. カナンへの帰還
8. 王国の成立と発展
9. 王国の分裂
10. バビロン捕囚
11. ユダヤ教の成立とメシア待望
12. ナザレのイエス—その生涯
13. イエスの宣教
14. イエスの裁判、十字架上の死と復活
15. キリスト教の成立と発展

授業の方法

講義、発問、討議

準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新共同訳であればどの版でも構わない。)

参考図書

井瀬文児『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』(PHP研究所)

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかり学んで欲しい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|-----------------|-------|-------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 聖書概論 | ET/PC | 11105 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Emmanuel Poppon | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探究し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

授業計画

1. 聖書を読むということ—聖書について
2. イエスの告げた福音
3. イエスのもたらした解放—新たな出発
4. イエスの人との接し方—人を立ち上がらせる
5. リフレクション
6. ゆるしと愛—神の心
7. 神の国(天の国)—山上の説教
8. 祈り—「主の祈り」
9. イエスの力ある業—悪の克服
10. リフレクション
11. 最後の晩餐—永遠のいのち—いのちの糧
12. イエスの誕生—クリスマス(降誕祭)
13. イエスの苦しみと死—受難と十字架の死
14. エマオの弟子たち—復活—希望の保証
15. リフレクション—全体のまとめ

授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

準備学修

『聖書』(新共同訳)の最初、創世記1章~11章まで、およびテキスト「根本問題をつかめ!」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行
「イエス登場!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書
「根本問題をつかめ!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書

参考図書

『旧約聖書』図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
『聖書 Q & A』和田幹男監著 女子パウロ会
『聖書読解へのアクセス 50のポイント』湯浅俊治著 教友社

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート(大きさは自由)を毎時間持参すること。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教海外研修 | | | 11109 | I | 集 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 尾崎 秀夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アジアを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではI（国際性）に重点を置く。

授業の概要
 中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回—イエスの生涯を中心に—
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回—フランシスコの生涯と思想—
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目:関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目:ミラノにて大聖堂、聖アンブロジーオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目:フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目:アジアの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目:サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目:アジアにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目:サンダミアノ修道院へ
11. 研修の日程6日目:ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目:バチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目:サンピエトロ大聖堂
14. 研修の日程8日目:日本に向けて出発

15. 研修の日程9日目:関西空港着

授業の方法
 事前の講義と研修旅行。

準備学修
 イエスやアッシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法
 事前の講義の出席、研修旅行での態度、事後のレポートなどを総合的に評価。

テキスト
 川下勝「アッシジのフランシスコ」清水書院、2004

参考図書
 j.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳「アッシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988
 チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第一伝記」あかし書房、1989

留意事項
 研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先
 ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|-----------------|-------|----|-------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 聖書と現代 | ET/PC | | 11113 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Emmanuel Poppon | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の説教、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業はKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を学ぶクラスである。

授業の概要
 現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどうのように生きていこうかを見つけるのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問われている。キリスト教は現代社会が直面する様々な問題にどのように取り組み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序—現代を生きるキリスト教
2. I. 人間—真に人間らしく
 - ①「男と女」—新しい関係を求めて
 - ②「家庭」—危機と再生
 - ③「生と死」—生命倫理をめぐって
5. リフレクション①
6. II. 社会—価値多様化と多文化共生を目指して
 - ④「戦争と平和」—平和の作り方
 - ⑤「民族主義と差別」
 - ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界—グローバル化の進退の中で
 - ⑦「富・貧・欲望」
 - ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望—希望を抱いて
 - ⑨「不幸・不公平」—人間の苦しみと神の義の問題

14. ⑩「世の終わり」と希望」
 15. リフレクション④

授業の方法
 講義と受講生によるディスカッションを組み合わせで行う。

準備学修
 現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト
 【聖書】（新共同訳（旧約統編つき））日本聖書教会（新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書
 芦名定道、土井健司、辻学【現代を生きるキリスト教—もう一つの道から】 教文館。
 教皇庁正義と平和協議会【教会の社会教説綱要】 カトリック中央協議会。

留意事項
 テキストの【聖書】を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

| | | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教と文化 | ①/② | 11117 | Ⅲ | 春／秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 尾崎 秀夫 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

| | | | | | |
|--------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習Ⅰ | | 11201 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 各学科教員 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
- (2)クラスでの自己紹介
5. (1)言語4
- (2)授業の受け方
6. (1)社会1
- (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
- (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
- (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
- (2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学1
- (2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学2
- (2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学3
- (2)リサーチの方法(レポートの作成)
13. (1)数学4
- (2)簡単なプレゼンテーション

14. (1)確認試験1
- (2)マナー
15. (1)確認試験2
- (2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと(課題あり)。準備学修には20時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|---------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 基礎 <基礎> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習Ⅱ | | | 11205 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 各学科教員 | 必修 | 1 | | | | |

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出し、欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)言語1
(2)オリエンテーション
- (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索)
- (1)言語3
(2)レポートの書き方1
- (1)言語4
(2)レポートの書き方2
- (1)社会1
(2)レポートの書き方3
- (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
- (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
- (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
- (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
- (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
- (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)
- (1)数学4
(2)ディスカッションの進め方(個人発表)
- (1)確認試験1

- (2)ディスカッション1
- 14.(1)確認試験2
(2)ディスカッション2
- 15.(1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること(課題あり)。準備学習には20時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|---------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 基礎 <基礎> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 海星学Ⅰ | | | 11206 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 各学科教員 | 必修 | 1 | | | | |

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の精神や歴史についての理解を深め、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について各自の考えをもつ。それに加えて社会に向かう姿勢としてキャリアについて学ぶ。

授業の概要

本学の出発点であるマリアの宣教師フランシスコ修道会の理解を含め、本学の建学の精神とその歴史等について学ぶ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉をグループでの討論や研究をとおして理解し、自分の言葉で表現する力を身につける(クラスでのプレゼンテーションをする)。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでひとつのことを作り上げることを、それを発信していく力をつけていく。同時に他者の意見に耳を傾ける力(傾聴力)を養い、新しい世界を共に発見することを目指す。

授業計画

- ポートフォリオ(学生カルテ)
- 海星の歴史 真理と愛に生きる
- 設立母体「マリアの宣教師フランシスコ会」キリスト教との関係
- 海星の建学の精神、マリアの姿、アッシジのフランシスコの存在
- 海星の教育目標 大学は何をすることか 人間としての成長
- 校歌と聖堂
- KAISEIパーソナリティと社会人基礎力、学士力との関係
- 思いやり 人との共感
- 自律 これまでの自己の歴史をとおして
- 知性 耳を傾け、自ら考える
- 奉仕 他者と自己との関係
- 倫理 現代の日本社会を考える
- 国際性 ポータレスの世界 前に踏み出す力
- 海星についての理解を振り返る
- ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義と個人作業、グループディスカッション、プレゼンテーションの2つの方法をとる。

準備学修

KAISEIパーソナリティの6つの言葉と関連のある新聞記事、エッセイ、書物等を読むこと。またある時はそれについて自分の意見を1000字程度にまとめる作業もすること。eラーニングで学ぶこと。(単位取得の必須条件)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%
教学カルテも評価対象とする。

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 海星学Ⅱ | | | 11207 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 各学科教員 | 必修 | 1 | | | | |

授業の到達目標

本学の建学の精神と歴史を土台としてKAISEIパーソナリティの6つの言葉について理解し、同時に社会との関係についても学んだ（春学期）。このクラスではその6つの言葉と関連のある課題を見つけ、自分で考え人と意見を交わし、調べて発表することでKAISEIパーソナリティの理解を一層深める。

授業の概要

最初に企業研究をすることで社会との関係について一層の自覚をもつ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉についてすでに一応の理解をしているが、ここでは各自が6つの言葉と関係のある課題を見つけ、いくつかの方法（書籍、インターネット等）を使って調べ研究し、自分の言葉でまとめる。その個人作業をもとに、同じ課題研究の人とチームを組み、発表の枠組みを構築していく。図表や、パワーポイント等を使いながら、研究発表をする。この方法をいくつかの課題について繰り返す。最終的に全科の学生の前で研究を発表する（段階的にまとめたものでも一番良いと思うものでもよい）。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
3. テーマについての確認と個人作業
4. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
5. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表①
6. テーマについての確認と個人作業
7. 働き方について考える(キャリアセンター)
8. 卒業生の就職先に関する業界研究(キャリアセンター)
9. 卒業生によるピア・サポート①(キャリアセンター)
10. 卒業生によるピア・サポート②(キャリアセンター)
11. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
12. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表②
13. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
14. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

個人作業とチームでの作業を重視し、グループでひとつの課題を研

究し、発表することでプレゼンテーションの力をつける。

準備学修

6つの言葉と関連のある課題を発見するために本を読むこと。eラーニングで学ぶこと。（単位取得の必須条件）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%
 教学カルテも評価対象とする。

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------|-------|----|-------|------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 人間学Ⅰ | ET/PC | | 11209 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 尾崎 秀夫 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. この1年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのよ

うな話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------|-------|----|-------|------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 人間学 2 | ET/PC | | 11213 | Ⅲ | 秋／春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 岡村 祥子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティの要素もてがかりに、人間として、女性としての存在を認識していく。このクラスではKAISEIパーソナリティ全体についての理解を深める。

授業の概要

まず、人間存在について地球上の空間的な存在と、過去からの遺産を受け継ぐ歴史上の時間的な存在を確認する作業からはじめていく。次に人間を取り巻く環境を、家族、地域社会、国家等との関係で理解を深めていく。さらに、生きることは何か、人間らしい人間とは何かなどを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけでなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけをとりあげていく。

授業計画

1. 序 人間学について
2. 自己への問いかけ
3. 他者との関わり
4. KAISEIパーソナリティとの関係
5. 自然との関係
6. 地球上での存在
7. 地球環境の意識
8. 歴史の中の人間(人類の遺産) 1
9. 歴史の中の人間(人類の遺産) 2
10. 家族、社会の中で(国際社会)
11. 人間存在の神秘
12. 人間らしい人間とは
13. 超越者との出会い
14. 再びKAISEIパーソナリティとの関係
15. あらためて人間とは

授業の方法

講義とディスカッションを土台とし、討論に基づいた発表の時間もとる。また、グループでの課題研究とプレゼンテーションに取り組む。

準備学修

各時間に配布または指示されるテーマについて資料を集めて調べ、レポートにまとめる作業をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%とする。平常点には出席点と毎週提出するレポートあるいは授業内での提出物、発表も含む。

欠席について

出席点(100点満点)を全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点する。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

加賀乙彦『不幸な国の幸福論』集英社新書
 姜尚中『あなたは誰、私はどこにいる』、『悩む力』集英社新書
 野田正彰『共感する力』みすず書房

留意事項

自己と他者に関心を持ち、世界の出来事に興味を持ち、現代社会を注視すること。また日本と世界の歴史について理解し、人生に対する自らの姿勢を意識すること。

教員連絡先

okamura@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キャリアデザイン入門 | ET | | 11301 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 箕野 聡子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

学びの中で就業力をあげる。コミュニケーション能力の育成を行い、共同作業・発表の機会を通し対人関係の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とを養う。

授業の概要

コミュニケーション能力の育成を重視する。グループワークの時間を多く設け、各自のライフデザインを構築する時間とする。キャリアを考えるとは、今を生きる力を身につけるということである。この問題を、キャリアセンターの教員と職員が協力して発信、提案していく。

授業計画

1. フィールドワーク① 街を知る、地域を知る、自分を知る
2. フィールドワーク② 青谷を知る、灘区を知る、神戸海星を知る
3. 適性検査「キャリアマップ」実施
4. グループディスカッション 青谷観光化計画
5. グループワーク 街にでよう
6. グループワーク 街と共に考える
7. グループワーク 青谷をプレゼンテーション①
8. グループワーク 青谷をプレゼンテーション②
9. 雑談力を磨く(相手の興味を引き出そう)
10. 「キャリアマップ」ライフデザイン解説&ワーク
11. コミュニケーション技法①
12. コミュニケーション技法②
13. コミュニケーション技法③
14. 学びのデザインシート
15. KAISEIパーソナリティを学ぶ

授業の方法

グループワークを行う。ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

地域と大学とがどのように関わって成長していけるかを考える。実

際に街に出て、問題発見をし、それに組み込む準備をする。(予習復習にかかる時間:1回の授業につき4時間)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キャリアデザイン入門 | PC | 11301 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 箕野 聡子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

学びの中で就業力をあげる。コミュニケーション能力の育成を行い、共同作業・発表の機会を通し対人関係の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とを養う。

授業の概要

コミュニケーション能力の育成を重視する。グループワークの時間を多く設け、各自のライフデザインを構築する時間とする。キャリアを考えるとは、今を生きる力を身につけるということである。この問題を、キャリアセンターの教員と職員とが協力して発信、提案していく。

授業計画

1. 雑談力を磨く（相手の興味を引き出そう）
2. ビブリオ・バトル①（本の紹介を通して自己表現を行う）
3. 適性検査「キャリアマップ」実施
4. ビブリオ・バトル②（本の紹介を通して自己表現を行う）
5. ウエディングプラン 冠婚葬祭の基礎知識と理想の友人パーティー
6. ビブリオ・バトル②（本の紹介を通して自己表現を行う）
7. ディスカッションの仕方、司会の仕方
8. ディベートとは何か。理解と練習。題材の選び方
9. キャッチコピーを作る（自分を強みを見つけよう）
ライフデザイン（10年後の自分）
10. 「キャリアマップ」ライフデザイン解説&ワーク
11. コミュニケーション技法①
12. コミュニケーション技法②
13. コミュニケーション技法③
14. 学びのデザインシート
15. KAISEIパーソナリティを学ぶ

授業の方法

グループワークを行う。ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

常に、自分と向き合う時間を設けるようにする。スピーチを行う時は事前調査や準備を充分に行うように。（予習復習にかかる時間：1回の授業につき4時間）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 文学入門 | | 11309 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 箕野 聡子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文学へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1) 神隠しとは。
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2) タブーをおかす。異界をひらく道。
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3) 山姫と山爺。異界をつくる者たち。
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4) 異界からの帰還。現実との接点。
5. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1) 止まった時間。固定されぬ空間。
6. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その2) 物語を紡ぐ。
7. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」 猫になる人間たち。錯覚と理想郷。
8. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1) 迷信の近代。
9. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2) 文明の近代。
10. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その1) 語られぬ自己。
11. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その2) 男装の麗人。東洋における女性の地位。
12. 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」 自分のあるべき場所とは

13. 中島敦「李陵」と「バケモノの子」 強きものへの賛辞
14. 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」 道を究めるとのこと
15. 物語に生まれる異界とは何か。その役割とは。まとめと試験

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

あらかじめ作品を読んでおくこと。授業で紹介した関連映像については、各自復習して視聴しておくこと。（予習復習にかかる時間：1回の授業につき4時間）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、あくまで、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。文学に興味がある学生の受講を望む。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 情報活用の基礎知識 | | | 11313 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 埴岡 忠清 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEI パーソナリティー」の知性と自立を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 心理学概論 | | | 11317 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習や認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉える上で、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのような事であるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら外観する。

授業計画

1. オリエンテーション 心理学が誕生するまで
2. 行動主義と学習理論 1
3. 行動主義と学習理論 2
4. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
5. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
6. 発達心理学
7. 認知心理学 1
8. 認知心理学 2
9. 動機付け・情動
10. 社会的行動理論
11. 人格の形成
12. 人格の評価
13. 臨床心理学 1
14. 臨床心理学 2
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

心や脳に関する話題は、新聞、テレビ等でよく話題にされるので関連特集などに注目して視聴してください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき3点の減点の対象とします。欠席5回を超えた場合は不合格となります。

テキスト

末田啓二編著『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

授業中に配布する「学習のまとめ」や小テストをしっかりと復習しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 統計学入門 | | | 11321 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 埴岡 忠清 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI(知性)を養う。

授業の概要

情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

- データの整理～度数分布表
- 1次元データの統計基礎①～代表値
- 1次元データの統計基礎②～分散・標準偏差
- 分布の形
- 正規分布①
- 正規分布②
- ランダムな標本と平均①
- ランダムな標本と平均②
- 母集団の推定①
- 母集団の推定②
- 母集団を調べる①
- 母集団を調べる②
- 母集団を調べる③
- 相関と回帰
- まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

森棟公夫著『教養 統計学』（新世社）

留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| ジェンダー論 | | | 11325 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画

- ジェンダーとは
- 「女らしさ」と性別役割
- 「男らしさ」と性別役割
- 教育とジェンダー
- 労働とジェンダー
- ライフコースの多様化
- 結婚・離婚とジェンダー 1
- 結婚・離婚とジェンダー 2
- 主婦と家事
- 子育てとジェンダー
- ケアとジェンダー
- 暴力とジェンダー
- ジェンダー政策
- 国際化の中の女性問題・男性問題
- まとめ

授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

教科書を読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

教員連絡先

yumi@kaisei.sc.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 日本国憲法 | | | 11329 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅野 宜之 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

この講義を通じて、学生はニュース報道などで断片的に見聞きする「基本的人権」や「統治機構」とは憲法上いかなるものであるのか、系統的に理解できるようになる。国会が制定する法律や、政府の遂行する政策には時に憲法に違反する疑いのあるものもみられる。これらについて、批判的に検討することができるようになる。KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養うことになる。

授業の概要

この講義では、法律について専門的に学んだことがないという前提の下、日本国憲法に関する基礎的な知識をつけることを目的とする。講義では教科書のほか、パワーポイントとこれにもとづく資料プリントを使用する。まず日本国憲法の原理と制定過程について学んだ後、基本的人権について重要なものを取り上げ、解説する。続いて、統治機構についてそれぞれの組織を取り上げながらその活動の概要を学ぶ。

授業計画

1. 憲法とは何か、立憲主義、日本国憲法の基本原理
2. 平和主義
3. 人権総論、私人間効力
4. 人権の享有主体（子ども、外国人の人権）
5. 法の下での平等、幸福追求権
6. 思想・良心の自由、信教の自由
7. 表現の自由、二重の基準論
8. 経済的自由
9. 社会権総論、生存権
10. 教育を受ける権利、労働者の権利
11. 人身の自由
12. 統治機構総論、国会
13. 立法過程、内閣
14. 裁判所
15. まとめ、確認

授業の方法

教科書とともにパワーポイントと資料を使用して講義を進める。

準備学修

日常的にテレビ、新聞、インターネットなどでニュースにふれること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

正当な事由あるときは、必ず連絡をすること。

テキスト

『憲法実感！ゼミナール』（法律文化社）

参考図書

『ポケット六法』有斐閣

教員連絡先

必要な場合は事務室を通じて連絡するようにしてください。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 健康科学 | | | 11333 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 柳本 有二 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

受講生および重要な他者（保護者など）が、望ましい健康観や健康行動を獲得できるように、ウェルネス的健康観を主体とした基礎的知識を習得することを目指す。

さらに、現代社会において検討すべき、高齢化および少子化に伴う諸問題を解決する糸口を、ヘルスプロモーション的な実践活動と科学的理論から探る能力を養成する。この授業では、KAISEIパーソナルのK（思いやり）およびI（知性）を養う。

授業の概要

講義形式で行うが、適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う。

Health in All Policies（全ての政策の中に健康という視点を取り入れる）という視点から、日常生活、災害時等の緊急対応および地域活性などの中に、すべて「健康」という概念を取り入れた政策を目指すための知識を学ぶ。そして、これからの健康づくりには、どのような活動が重要かを考えていく。

なお、毎授業ごとに授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

授業計画

1. オリエンテーション. 授業の進め方を説明. グループで「論」と「学」の違いについて話し合いをする。
2. 一日一万歩の意義、ウォーキングと健康について講義とディスカッションをする。
3. Health in All Policiesという視点から、大震災時当時と現在から健康を考える。
4. 健康づくりとして、骨の重要性について、運動、栄養および生活習慣による骨質の低下予防について。
5. 肥満と糖尿病について、最新の予防医学から検討する。
6. 子供たちの健康づくり（発育発達）について最新の科学的根拠から検討する。
7. 少子化や認知症など現代の諸問題についてその解決策を検討する。
8. ウェルネス的健康観から「よりよく生きる」という意味を考える。

授業の方法

毎授業ごとに授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

準備学修

日常や社会における健康づくりについて、新聞やメディアなどを通じて意識し、まとめておく。

課題・評価方法

レポート試験とする。課題は、授業最終に提示する。

テキスト

身体が心が嬉しくなるノルディック・ウォーク（メイツ出版）

教員連絡先

yyuji2004@yahoo.co.jp

| | | | | | | |
|---------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 健康スポーツ 1 | ①/② | | 11337 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 後藤 磨也子／片岡 安美子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

心とからだのトータルヘルスの視点から、身体の機能面での能力である体力などを身につける。また、各種スポーツの特性を理解し、日常生活にスポーツ活動が習慣化するために必要な能力や態度を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

- ・ニューススポーツの実践からその意味と種目の意義について理解する。
- ・ダンスや各種トレーニング方法などを通じて、健康づくりとしての身体活動の重要性を理解する。
- ・個人の体力づくりを目指しつつ、グループ活動における協力や個々の役割について考える。

授業計画

1. オリエンテーション(チーム分けなどを含む)後藤担当、片岡担当のクラスに分ける。
2. 後藤:エアロビクスダンスやリズム運動の基本の動きを学ぶ。片岡:アジャタ競技の説明とルールの理解。
3. 後藤:基本パターンを反復、各筋肉や運動強度を理解する。片岡:用具のセッティング方法習得と投球練習。
4. 後藤:ウォーミングアップとクールダウンについて理解する。片岡:投球技術の習得とゲーム
5. 後藤:各種トレーニングの構成方法を学ぶ。片岡:投球練習と審判方法の理解と実践。
6. 後藤:グループ学習、日常で継続できるエクササイズ作成。片岡:投球練習とチームでの実践。
7. 後藤:グループで作成したエクササイズの指導方法について考える。片岡:投球技術の習得とチームでの実践。
8. 後藤:オリジナル・エクササイズの完成とグループ発表。片岡:記録会(コート準備、計測、集計)
9. 後藤:エアロビクスダンスやリズム運動の基本の動きを学ぶ。片岡:アジャタ競技の説明とルールの理解
10. 後藤:基本パターンを反復、各筋肉や運動強度を理解する。片岡:用具のセッティング方法習得と投球練習。
11. 後藤:ウォーミングアップとクールダウンについて理解する。片

岡:投球技術の習得とゲーム

12. 後藤:各種トレーニングの構成方法を学ぶ。片岡:投球練習と審判方法の理解と実践。
13. 後藤:グループ学習、日常で継続できるエクササイズ作成。片岡:投球練習とチームでの実践。
14. 後藤:グループで作成したエクササイズの指導方法について考える。片岡:投球技術の習得とチームでの実践。
15. 後藤:オリジナル・エクササイズの完成とグループ発表。片岡:記録会(コート準備、計測、集計)

授業の方法

できるだけ、身体を動かすが、理論も学ぶためのアクティブラーニングを行う。

準備学修

日常から、体調管理に努める。

課題・評価方法

日常の平常点(60点) および実技レポート(40点)などを実施する。

欠席について

欠席はマイナス評価の対象とする。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 日本文化史 | | | 11353 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 箕野 聡子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 「古事記」と荻原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 横光利一『日輪』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新から 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
9. 年中行事(正月について) 「枕草子」を読む
10. 年中行事(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
11. 年中行事(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 平家滅亡 「平家物語」・小泉八雲「耳なし芳一」を読む
14. 鎌倉時代 義経逃亡 斎藤洋『白狐魔記・源平の風』を読む
15. 歴史とは、書き残されたものこと。文化とは、人々の生活に息づくものこと。

まとめと試験。

授業の方法

講義中心の授業である。各時代ごとに小レポートの提出を課す。

準備学修

毎回取り上げる図書は、すべて図書館の指定図書コーナーでも閲覧

できる。あらかじめ読んでおくことが望ましい。(予習復習にかかる時間:1回の授業につき4時間)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 簿記会計学 | | | 11357 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 埴岡 忠清 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」の知性と国際化と自立を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画

1. 簿記の基礎
2. 仕訳①～商品売買
3. 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
4. 仕訳③～手形
5. 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
6. 仕訳⑤～その他の債権債務
7. 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
8. 仕訳⑦～租税公課と資本金
9. 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
10. 決算①～帳簿への記入
11. 決算②～試算表の作成
12. 決算③～伝票制度
13. 決算④～精算表と財務諸表
14. 決算⑤～帳簿の締め切り
15. まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 現代家族関係論 | | | 11365 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得し、現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI(知性)を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族関係の基礎的概念 1
3. 家族関係の基礎的概念 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族の危機
8. 子どもの養育と家族関係 1
9. 子どもの養育と家族関係 2
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 現代家族の諸相
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れる。

準備学修

教科書を読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会福祉論 | | | 11369 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 加藤 雅典 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

高齢化と少子化が同時に進行している社会状況にあって、保育、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。その中で、福祉の専門分野に携わる人材として、時代の要請に応え得る、社会福祉の理念、制度や援助などに関わる資質を広い視野から育む。これからの社会福祉を主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは、主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

社会福祉の概論で基本項目を学習するとともに、最新のデータや資料によって、わが国の社会福祉の動向と課題等を、身近なテーマとして理解する。指定する教科書の構成に従って講義を進めるが、社会が抱える問題やキーワードとなる内容については、討議をしながら深めていく。社会福祉の実施に関わる知識と姿勢を積極的に修得することを旨とする。

授業計画

1. 社会福祉の意義
2. 現代社会における生活問題
3. 社会福祉のしくみ
4. 社会福祉施設と従事者
5. 社会福祉の分野 その1 こども家庭福祉(1)
6. 社会福祉の分野 その2 こども家庭福祉(2)
7. 社会福祉の分野 その3 障がい者(児)福祉(1)
8. 社会福祉の分野 その4 障がい者(児)福祉(2)
9. 社会福祉の分野 その5 高齢者福祉(1)
10. 社会福祉の分野 その6 高齢者福祉(2)
11. 社会福祉の分野 その7 公的扶助
12. 社会福祉の分野 その8 地域福祉、医療福祉
13. 社会福祉における相談援助
14. 社会福祉における利用者保護
15. 社会福祉の動向と課題

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションを取り入れる。

準備学修

テキストを事前に読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

履修要項による

テキスト

小林育子・一瀬早百合共著「社会福祉と私たちの生活－保育を学ぶ人のために」 萌文書林2016年初版 必要に応じて資料を配布する。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 人権教育論 | | | 11373 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 堀 正人 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティI（知性）を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK（思いやり）の諸能力を生かす。

授業の概要

毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画

1. 人権とは(人権感覚、考え方)
2. 偏見と差別
3. 人権・同和教育とは
4. 人権尊重の教育
5. 子どもの人権Ⅰ(虐待、体罰、子どもの安全)
6. 子どもの人権Ⅱ(いじめ、不登校、権利条約)
7. 学校における人権学習Ⅰ(学習権、個性)
8. 学校における人権学習Ⅱ(複数指導、生活科)
9. 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10. 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11. 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム、ロールプレイ)
12. 阪神淡路大震災と人権
13. 人権学習のコラム
14. 諸外国の人権教育事情
15. 人権教育の課題、課題テスト

授業の方法

講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践する。

準備学修

世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練する。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会科学概論 | | | 11377 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 尾崎 秀夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

時事問題を取り上げつつ、政治、経済、歴史、社会についての基礎知識を身につけ、自分自身の考えをまとめられるようにする。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかなければならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。受講生はそれぞれの問題について自分の意見を述べることが求められる。

授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. 1月頃の時事問題

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

日々、新聞などのニュースに関心を持って情報を集めておくこと。また現代の問題について書かれた本を探して、読んでおくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

随時プリントを配布する予定。

参考図書

とくに指定しない

留意事項

単に時事用語を覚えるだけでなく、自分の考えをまとめることを常に心がけること

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 家政学概論 | | | 11381 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につけ、実践的能力を養う。

授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義、目的、対象、方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1
10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

高等学校までの家庭科を復習する。準備学習のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 総合科目〈総合科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| オーストラリア幼稚園実習 | | | 11383 | Ⅱ | 集 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

2020年度、小学校英語は教科化され、グローバル化に対応した英語教育改革が実施される。小学校中学年では学級担任が中心、高学年では、英語指導力を備えた学級担任+専科教員が指導することになっている。現在、幼稚園でも約6割の園で英語教育が実施されている。多文化社会オーストラリアの藤国際幼稚園（Fuji International Kindergarten）で、グローバルな視野と行動力を持った幼稚園教諭・保育士育成のための保育実習を体験し、幼稚園・小学校英語教育指導者の育成を図る。

授業の概要

授業計画に示す通り、藤国際幼稚園で子供達と関わる体験実習を行い講義を受ける。さらに、ホームステイで英語でのコミュニケーション能力の育成を図る。

授業計画

- 事前研修(1)
- 事前研修(2)
- オリエンテーション オーストラリア文化体験学習(1)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(1) 講義&ワークショップ(1)、英会話(1)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(2) 講義&ワークショップ(2)、英会話(2)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(3) 講義&ワークショップ(3)、英会話(3)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(4) 講義&ワークショップ(4)、英会話(4)
- フィールドワーク・野外活動研究 ホストファミリーと過ごす
- フィールドワーク・野外活動研究 ホストファミリーと過ごす
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(5) 講義&ワークショップ(5)
指導準備 活動案教具作成
- フィールドトリップ「野外活動研究」英会話「子供に教える動物語彙と表現」
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(5) 「保育指導実習」講義とまとめ(5)
- 修了書授与 帰国

- 事後研修(1) ポートフォリオ作成
- 事後研修(1) ポートフォリオ作成
プレゼンテーション

授業の方法

観察実習&体験実習、講義、レポート作成のアクティブラーニング

準備学修

実習授業準備、英会話など幼稚園実習で必要だと思われること

課題・評価方法

事前学習、実習報告、事後報告、プレゼンテーションを評価する。

欠席について

原則として幼稚園実習すべてに参加すること。

テキスト

ハンドアウト

留意事項

参加型の研修なので、健康に留意すること

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 日本語〈日本語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 日本語表現法 | ET | | 11401 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 箕野 聡子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

- 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
- 「敬語」尊敬語と謙譲語(その1)プリント配布。
- 「敬語」尊敬語と謙譲語(その2) 「敬語表小テスト」
- 「敬語」まちがいやすい敬語 「敬語小テスト」
- 「敬語」待遇表現(その1)「敬語小テスト」
- 「敬語」待遇表現(その2)「敬語小テスト」
- 「修辭法と慣用句」比喩法・変化法、慣用句ことわざ 「敬語まとめテスト」
- 「文中の誤りを正す」推敲の仕方を学ぶ。「冠婚葬祭」の常識 「敬語総まとめテスト」
- 「メールの書き方」プリント配布
- 「履歴書とエントリーシート」
- 「手紙とはがき」一般的な形式と表現
- 「手紙とはがき」礼状
- 「案内状の作成」種類と内容
- 「誤用文と推敲」修飾句の位置・副詞の呼応
- 「文章の構成」まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。

準備学修

敬語は使わなければ身に付かない。日頃から意識して正しい敬語を使う努力をする。毎回、授業の始めに、前回の授業内容を復習する小テストを行う。

(予習復習にかかる時間：1回の授業につき4時間)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 日本語〈日本語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 日本語表現法 | PC | | 11401 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を習得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や随筆等の学修を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. スピーチの仕方
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6. 話し方①
7. 話し方②
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写①
14. 書写②
15. まとめ

授業の方法

書く活動やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

次回の授業範囲を予習し、学修内容を把握しておくこと。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 日本語〈日本語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 日本語文章構成法 | | | 11405 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 箕野 聡子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

1. 〈評論文〉(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. 〈評論文〉(2) 映画評を書く。アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. 〈評論文〉(3) 文中の誤りを正す。推敲の仕方を学ぶ。
4. 〈評論文〉(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. 〈評論文〉(5) 書評を書く。序論・本論・結論の順に記述を進める。引用の規則を守る。
6. 〈新聞検索〉 新聞記事の検索を行い、次回にレポートを書く資料準備を行う。
7. 〈意見文〉 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。特に自説の証明を学ぶ。客観的根拠を3例以上あげ、自説を証明する。
8. 〈意見文・説得文〉 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9. 〈意見文・説得文〉 新聞投稿を行う。結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10. 〈小説〉 語り手の位置を学ぶ。
11. 〈小説〉 テーマにそった短編小説を書く。
12. 〈エントリーシート〉 キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13. 〈エントリーシート〉 ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. 〈エントリーシート〉 標語の作り方を学ぶ。プレーンライティング法を学ぶ。
15. 〈エントリーシート〉 「10年後の私」という題で自分について書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

て書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

授業の方法

演習が中心の授業となる。新聞投稿などをおして、社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

漢字のテストを毎回行う。課題をあたえるので、復習をしておく。新聞の読者投稿の欄は、毎日目を通しておくように。（予習復習にかかる時間：1回の授業につき4時間）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

レポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|-----------|-------|-------|------|-----|------|
| 情報<情報> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 情報リテラシー 1 | ET/PC | 11501 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 米田 里香 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験 2 級の資格取得を目指す。

授業計画

1. コンピュータの基礎知識／ウィンドウズの基本操作
2. コンピュータの基礎知識／文字入力、編集
3. コンピュータの基礎知識／ワード基本操作
4. コンピュータの基礎知識／ワード基本操作
5. ワード基本操作
6. ワード基本操作
7. ワード基本操作まとめ
8. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
9. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
10. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
11. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
12. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
13. 図形練習
14. プレゼンテーションソフトの基本
15. 確認演習

授業の方法

知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

入力練習と授業で学習したことを復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト noa出版
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

| | | | | | |
|-----------|-------|-------|------|-----|------|
| 情報<情報> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 情報リテラシー 2 | ET/PC | 11505 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 米田 里香 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

現代ビジネス社会に必要な必要とされるパソコンとビジネスデータを活用し、問題解決や発表、経営上の意識決定ができる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

はじめに、データ処理に必要な数学の割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータの処理のために必要な数式をたてる練習を行う。またビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ、その表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化が行えるように指導する。学習の動機付けとして、表計算技能標準試験 2 級の資格取得を目指す。

授業計画

1. 割合の計算
2. 割合の計算
3. エクセル基本操作
4. エクセル基本操作
5. エクセル基本操作
6. エクセル基本操作
7. エクセル基本操作まとめ
8. 表計算技能標準試験 3 級対策
9. 表計算技能標準試験 3 級対策
10. 表計算技能標準試験 3 級対策
11. 表計算技能標準試験 2 級対策
12. 表計算技能標準試験 2 級対策
13. 表計算技能標準試験 2 級対策
14. 表計算技能標準試験 2 級対策
15. 確認演習

授業の方法

実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

授業で学習した操作の復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト noa出版（情報リテラシー 1 受講者は購入必要なし）
表計算技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 情報 < 情報 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| オフィス情報処理 1 | ①/② | | 11509 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 米田 里香 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 ビジネス文書をワープロソフトで作成する能力を養成すること、入力技術だけでなく、ビジネス文書作法、コンピュータのしくみなどの理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 情報リテラシー1で学習したことを元にさらに応用的なビジネス文書の編集を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（文書作成）の取得を目指す。文書作成の対策を行い、資格取得を目指す。

授業計画

1. ワードの基本操作確認
2. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認
3. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認
4. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認
5. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認
6. 図形演習
7. まとめ
8. 日商PC検定3級文書作成実技対策
9. 日商PC検定3級文書作成実技対策
10. 日商PC検定3級文書作成実技対策
11. 日商PC検定3級文書作成実技対策
12. 日商PC検定3級文書作成実技対策
13. 日商PC検定3級文書作成実技対策
14. 日商PC検定3級文書作成実技対策
15. 確認演習

授業の方法
 日商PC検定3級（文書作成）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修
 授業で学習したことを必ず復習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。。

テキスト
 日商PC検定試験文書作成3級公式テキスト&問題集(ver2013対応) FOM出版

留意事項
 テキストを必ず持参すること。

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 情報 < 情報 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| オフィス情報処理 2 | | | 11513 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 米田 里香 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 ビジネス実務に必要なとされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 情報リテラシー2で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画

1. エクセルの基本操作確認
2. 四則演算復習
3. 関数練習
4. 関数練習
5. 集計について
6. 集計について
7. まとめ
8. 日商PC検定3級データ活用対策
9. 日商PC検定3級データ活用対策
10. 日商PC検定3級データ活用対策
11. 日商PC検定3級データ活用対策
12. 日商PC検定3級データ活用対策
13. 日商PC検定3級データ活用対策
14. 日商PC検定3級データ活用対策
15. 確認演習

授業の方法
 日商PC検定3級（データ活用）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修
 授業で学習したことを復習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
 日商PC検定試験データ活用3級公式テキスト&問題集(ver2013対応) FOM出版

留意事項
 情報リテラシー2を受講していること。テキストは必ず持参すること。

| | | | | | |
|----------|-----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 1 | a | 11601 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

2020年度、小学校英語は教科化される。2016年学習指導要領改訂、2018年度から段階的に、グローバル化に対応した英語教育改革が実施される。小学校中学年では学級担任が中心、高学年では、英語指導力を備えた学級担任+専科教員が指導するとされている。日本の小学校外国語（英語）教育を担う教員養成が必要とされている。本講義では、幼稚園や小学校現場の指導者の英語力の基礎の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

授業では、

- (1) 実際の授業場면을体験、
- (2) 授業者として必要な語彙と表現を学習、
- (3) 実際に、学生が、簡単な教室英語と、目標表現及び目標語彙を使って、園児・児童・生徒が楽しめる授業を行う。

従って、教師として、子供に英語を教える授業で、実際の現場で使う基礎英語を習得することを目指す参加型の授業である。授業では、手遊びや振り付きの英語の歌・チャンツなどの発表も行う。

授業計画

1. Let me introduce myself! 自己紹介とクラスルーム・イングリッシュ(1)
多読・速読トレーニング(1)
2. Let me introduce myself! 自己紹介とクラスルーム・イングリッシュ(2)
多読・速読トレーニング(2)
3. Let's sing a song. (1)
多読・速読トレーニング(3)
4. Let's sing a song! 英語の歌(2)
プレゼンテーション
5. Let's Enjoy Games! ゲームを楽しむ英語(1)
多読・速読トレーニング(4)
6. Let's Enjoy Games! ゲームを楽しむ英語(2)
プレゼンテーション
7. Team Teaching with ALT ティームティーチング(1)
多読・速読トレーニング(5)
8. Team Teaching with ALT ティームティーチング(2)
プレゼンテーション
9. Let's Enjoy TPR and Chants! リズムと動作を楽しむ英語(1)
多読・速読トレーニング(6)
10. Let's Enjoy TPR and Chants! リズムと動作を楽しむ英語(2)
プレゼンテーション
11. Let's Enjoy Story Telling 絵本を楽しむ英語(1)
多読・速読トレーニング(7)
12. Let's Enjoy Story Telling 絵本を楽しむ英語(2)
プレゼンテーション
13. Let's Enjoy Story Telling 絵本を楽しむ英語(3)
多読・速読トレーニング(7)
14. Let's Enjoy Events 行事を楽しむ英語(1)
多読・速読トレーニング(8)
15. Let's Enjoy Events 行事を楽しむ英語(2)
プレゼンテーション

授業の方法

学習した基礎英語を使って、学生自身が、主体的にプレゼンテーションを行う。

準備学修

語彙・英語表現を暗記し、プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、毎回の発表が評価される。必ず出席すること。

テキスト

Bright and Early Classroom English for Teachers of Children 「子どもに英語を教えるための教室英語」
カレイラ 松崎 順子 南雲堂 ISBN978-4-523-17628-2

留意事項

子供に英語を教える授業で、教師として現場で使う基礎英語を習得すること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 1 | b | | 11601 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 釜須 久夫 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標
 将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要
 テキストに沿って、様々なシーンを一回1ユニットづつ授業を進める。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしていく。

授業計画

1. Pre-unit Please Speak More Slowly
2. UNIT 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
3. UNIT 2 Where Is the Multi-purpose Room ?
4. UNIT 3 Good Morning, How Are You Today ?
5. UNIT 4 What Color Do You Like ?
6. UNIT 5 There's a Ladybug on the Leaf
7. UNIT 6 It's Time to Play Outside
8. UNIT 7 She Is Allergic to Eggs
9. UNIT 8 You Should Go to the Bathroom
10. UNIT 9 We Made Masks Today
11. UNIT 10 If It Rains, What Happens ?
12. UNIT 11 What Shall We Do Today ?
13. UNIT 12 I Feel Feverish
14. UNIT 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
15. UNIT 14 Thank You Very Much for Everything

授業の方法
 テキストに沿って毎回1ユニットづつ進めていく。

準備学修
 必ず指定された個所を予習してくること。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト
 Happy English for Childcare 土屋麻衣子著 金星堂

留意事項
 必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先
 sam@alohawalker.net

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 2 | a | | 11605 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 入江 和子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標
 世界で古くから親しまれてきた名作を通して物語そのものの面白さを味わうとともに、物語を楽しんで英語に慣れ親しみ自然に英語を身につけることを目指す。このクラスでは、KAISEI I パーソナリティーのIn (国際性)を養い、K (思いやり)を考える。

授業の概要
 子供のころに言葉を吸収したように、物語を聴いて、読んで、音読して英語のリズムに慣れ、物語に対する関心を高めていく。さらに語彙や内容理解を確認するさまざまなアクティビティを通して総合的な英語力を向上させる。

授業計画

1. Introduction, Pre-Unit Jack and the Beantalk
2. Unit 1 Sindbad and the Sailor
3. Unit 2 Hansel and Gretel
4. Unit 3 Puss in Boots
5. Unit 4 Sleeping Beauty
6. Unit 5 The Three Spinners Part 1
7. Unit 6 The Three Spinners Part 2
8. Review, Mid-test
9. Unit 7 Alice in Wonderland Part 1
10. Unit 8 Alice in Wonderland Part 2
11. Unit 9 Aladin and the Lamp Part 1
12. Unit 10 Aladin and the Lamp Part 2
13. Unit 11 Ali Baba and the Forty Thieves Part 1
14. Unit 12 Ali Baba and the Forty Thieves Part 2
15. Review

授業の方法
 テキストに沿って進み、発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修
 本文の音読練習と指示された課題に取り組む。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 履修要項に沿って行う。

テキスト
 Atsuko Uemura *English Cradle—Classic Tales from around the World* CENGAGE Learning

参考図書
 授業中、必要に応じて指示する。

留意事項
 ・毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる ・英語辞書必携

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 2 | b | | 11605 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 木下 奈美 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

世界で古くから親しまれてきた数々の名作を英語で聴いたり読んだりして物語を楽しみ、これらの作品を通して多様なものの見方ができるようになることを目指す。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの頃に言葉を吸収したように、物語を聴いて、読んで、テキストのtaskを通して語彙や内容を理解し、物語への関心を深める。異文化への理解が深まり、新しく身につけた語彙が英語の読解や表現の幅をひろげ、英語の絵本の音読がうまくなる。

授業計画

1. Introduction and Course Orientation
2. Unit 1: Sinbad the Sailor
3. Unit 2: Hansel and Gretel
4. Unit 3: Puss in Boots
5. Unit 4: Sleeping Beauty
6. Unit 5: The Three Spinners PART 1
7. Unit 6: The Three Spinners PART 2
8. Unit 7: Alice in Wonderland PART 1
9. Unit 8: Alice in Wonderland PART 2
10. Unit 9: Aladdin and the Lamp PART 1
11. Unit 10: Aladdin and the Lamp PART 2
12. Unit 11: Ali Baba and the Forty Thieves PART 1
13. Unit 12: Ali Baba and the Forty Thieves PART 2
14. Unit 13: Pinocchio PART 1
15. Unit 14: Pinocchio PART 2
- Conclusion and Review

授業の方法

テキストに沿って進める。原則として、前週の復習テストを行う。

準備学修

本文の音読練習を行い、分からない単語の意味と発音を調べてから

授業に臨むこと。予習復習に、1回の授業につき合わせて1時間の自宅学習を要する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って評価に反映する。

テキスト

Atsuko Uemura, English Cradle - Classic Tales from around the World. CENGAGE Learning

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

英語辞書は必携である。初回到座席を指定する。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 3 | | | 11609 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 入江 和子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

幼稚園や保育園の現場でよく使われる英語表現・語彙を習得するとともに、4技能（聞く、話す、読む、書く）の運用に必要な基本的文法事項を身につけて実用的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

保育の現場で欠かせない日常の出来事や行事を題材にしたストーリーを読み進めながら、重要表現や語彙を学ぶ。そしてさまざまなアクティビティーを通して生活感のある英語コミュニケーション力を身につけ、保育に対する知識を広めていく。

授業計画

1. Introduction, 1 The School Year Begins
2. 1 The School Year Begins
3. 2 Arrival
4. 3 Playtime in the Classroom
5. 4 In the Sandbox
6. 5 In the Playground
7. 6 Lunch Time
8. Review, Mid-test
9. 7 Changing Clothes and Story Time
10. 8 Nap Time
11. 9 Blowing Bubbles
12. 10 A Sick Child
13. 11 Preparation for the Sports Day
14. 12 The Sports Day
15. Review

授業の方法

テキストに沿って順に読み進めていく。発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

指定された範囲を予習する。また随時課題に取り組む。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

森田和子著 『新・保育の英語』 English for Nursery Schools and Kindergartens (revised) 三修社

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

・毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる ・英語辞書必携

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 4 | | | 11613 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 木下 奈美 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

テキストの精読および、これを題材とする実習を繰り返して、英語を「読む、書く、聴く、話す」の4技能を高めることを目標とする。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を考える。

授業の概要

図書館という身近な空間を扱った英語の絵本をテキストとして読み進めながら、音読、ブレインストーミング、テキストのretelling（絵の情景や登場人物の気持ちを簡単な英語で説明したり、要約したりすること）、トピックに関するディスカッション等の実習（activities）を繰り返し、英語コミュニケーションへの関心を高め、英語運用能力が自然に身につくように試みる。

授業計画

1. Introduction
2. Text reading (1) - One day
3. Text reading (2) - The next day
4. Activity (1) - Brainstorming
5. Activity (2) - Comparing library rules
6. Activity (3) - Retelling English text (1)
7. Text reading (3) - One day
8. Text reading (4) - The next day
9. Midterm review
10. Activity (4) - Retelling English text (2)
11. Text reading (5) - One evening
12. Text reading (6) - The next day
13. Activity (5) - Discussion on rule-breaking
14. Activity (6) - Drafting your summary
15. Conclusion and Review

授業の方法

講読の際には、文意の理解に加えて正しく音読できることを目指し、実習の際には、各自のアイデアを英語で表現できることを目指す。

準備学修

意味や発音の不明な語を調べてテキストを読み、理解しておくこと。予習復習に、1回の授業につき合わせて1時間の家庭学習を要する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って出欠・遅刻を判定し、評価に反映する。

テキスト

Michelle Knudsen, Library Lion, Candlewick Press

留意事項

英語辞書は必携である。初回に座席を指定する。

| | | | | | | |
|-----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 5 | a/b | | 11617 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Tina D. MATHERS | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Architecture
3. Unit 1 Architecture
4. Unit 2 Psychology
5. Unit 2 Psychology
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Behavioral Science
10. Unit 3 Behavioral Science
11. Unit 4 Game Studies
12. Unit 4 Game Studies
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam20%
Tests and Quizzes10%
Presentations40%
Class Participation20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Q: *Skills for Success: Listening and Speaking 2*. 2nd edition. Margaret Brooks

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

| | | | | | |
|----------------|-----|-------|------|-----|------|
| 外国語 < 外国語 > | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 6 | a/b | 11621 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 石原 敬子 / 國本 恵理香 | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introductions
2. Ch 1 Sleep
3. Ch 1 Sleep
4. Ch 2 Homestay in London
5. Ch 2 Homestay in London
6. Ch 3 Not Black and White
7. Ch 3 Not Black and White
8. Mid Term
9. Ch 4 Helping Others
10. Ch 4 Helping Others
11. Ch 5 Generation Z
12. Ch 5 Generation Z
13. Ch 6 Being Successful
14. Ch 6 Being Successful
15. Review

授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

準備学修

Be familiar with the textbooks

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*. 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *New Yorkers Short Stories* by O Henry retold by Diane Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| | | | | | |
|--------------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 外国語 < 外国語 > | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 7 | a/b | 11625 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Tina D. MATHERS / Kevin MUNSON | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5 Sociology
3. Unit 5 Sociology
4. Unit 6 Business
5. Unit 6 Business
6. Review
7. Midterm
8. Presentations
9. Unit 7 Environmental Studies
10. Unit 7 Environmental Studies
11. Unit 8 Public Health
12. Unit 8 Public Health
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点 30%、定期試験 70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success: Listening and Speaking 2*. 2nd edition. Margaret Brooks

参考図書

To be announced.

留意事項

This course will be taught entirely in English. Active participation in class is essential.

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英語 8 | | | 11629 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 8 Live Forever?
3. Chapter 8 Live Forever?
4. Chapter 9 Baseball Fans
5. Chapter 9 Baseball Fans
6. Chapter 10 Mobile Phones
7. Chapter 10 Mobile Phones
8. MidTerm
9. Chapter 11 A Musician
10. Chapter 11 A Musician
11. Chapter 12 A day in the life
12. Chapter 12 A day in the life
13. Chapter 13 Love at first Sight
14. Chapter 13 Love at first Sight
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be Familiar with the textbooks Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*. 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *Anne of Green Gables* by L. M. Montgomery

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| フランス語 1 | | | 11633 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn (国際性) に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. オリエンテーション(授業の運営法、テキスト、評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識
2. フランス語とフランスに関する基本的な知識、挨拶
3. 職業・身分を言う、国籍を言う
4. 職業・身分を言う、国籍を言う
5. 職業・身分を言う、国籍を言う
6. 住んでいる所を尋ねる・言う、話せる言語を言う
7. 住んでいる所を尋ねる・言う、話せる言語を言う
8. 住んでいる所を尋ねる・言う、話せる言語を言う
9. 家族について話す、年齢を尋ねる
10. 家族について話す、年齢を尋ねる
11. 家族について話す、年齢を尋ねる
12. 好みを言う、理由を尋ねる・言う
13. 好みを言う、理由を尋ねる・言う
14. 好みを言う、理由を尋ねる・言う
15. フランス映画鑑賞

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2015 駿河台出版社)

参考図書

必要場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| フランス語 2 | | | 11637 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. オリエンテーション(授業の運営法、テキスト、評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識
2. フランス語とフランスに関する基本的な知識、挨拶
3. 職業・身分を言う、国籍を言う
4. 職業・身分を言う、国籍を言う
5. 職業・身分を言う、国籍を言う
6. 住んでいる所を尋ねる・言う、話せる言語を言う
7. 住んでいる所を尋ねる・言う、話せる言語を言う
8. 住んでいる所を尋ねる・言う、話せる言語を言う
9. 家族について話す、年齢を尋ねる
10. 家族について話す、年齢を尋ねる
11. 家族について話す、年齢を尋ねる
12. 好みを言う、理由を尋ねる・言う
13. 好みを言う、理由を尋ねる・言う
14. 好みを言う、理由を尋ねる・言う
15. まとめ

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2015 駿河台出版社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| フランス語 3 | | | 11641 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で使われる簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話すこと）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う
2. 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う
3. 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う
4. 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
5. 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
6. 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
7. 移動について説明する、交通手段を言う
8. 移動について説明する、交通手段を言う
9. 移動について説明する、交通手段を言う
10. 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
11. 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
12. 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
13. 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
14. 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
15. フランス映画鑑賞

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2015 駿河台出版社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1及び2のどちらかを履修していなければ3及び4は履修できない。フランス語3とフランス語4はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| フランス語 4 | | | 11645 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で使える簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話すこと）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う
2. 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う
3. 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う
4. 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
5. 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
6. 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
7. 移動について説明する、交通手段を言う
8. 移動について説明する、交通手段を言う
9. 移動について説明する、交通手段を言う
10. 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
11. 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
12. 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
13. 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
14. 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
15. まとめ

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2015 駿河台出版社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1及び2のどちらかを履修していなければ3及び4は履修できない。フランス語3とフランス語4はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| フランス語 5 | | | 11649 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。具体的なコンテキスト（自己紹介、各種登録、アンケート、買い物、スポーツなど）の聞き取りや文法を通して、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. オリエンテーション(授業の運営法、テキスト、評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識、Enchanté!
2. A l'université
3. A l'université
4. Dans la classe
5. Dans la classe
6. une enquête
7. une enquête
8. une enquête
9. Dans un magasin
10. Dans un magasin
11. Dans un magasin
12. Quelle famille!
13. Quelle famille!
14. Quelle famille!
15. フランス映画鑑賞

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PAS A PAS (2017 三修社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語5、6を履修するには次の条件が必要（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）である。フランス語5とフランス語6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| フランス語 6 | | | 11653 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。具体的なコンテキスト（自己紹介、各種登録、アンケート、買い物、スポーツなど）の聞き取りや文法を通して、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. オリエンテーション(授業の運営法, テキスト, 評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識, Enchanté!
2. A l'université
3. A l'université
4. Dans la classe
5. Dans la classe
6. une enquête
7. une enquête
8. une enquête
9. Dans un magasin
10. Dans un magasin
11. Dans un magasin
12. Quelle famille!
13. Quelle famille!
14. Quelle famille!
15. まとめ

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PAS A PAS (2017 三修社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 5, 6 を履修するには次の条件が必要（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）である。フランス語 5 とフランス語 6 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| フランス語 7 | | | 11657 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。具体的なコンテキスト（カードを書く、起点や目的地、丁寧な物言い、アドバイス、旅行の計画、バカンスなど）の聞き取りや文法を通して、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. En stage
2. En stage
3. En stage
4. On fait les courses?
5. On fait les courses?
6. On fait les courses?
7. Bonjour docteur!
8. Bonjour docteur!
9. Bonjour docteur!
10. Vive les vacances!
11. Vive les vacances!
12. Vive les vacances! フランス映画鑑賞
13. Alors, ces vacances?
14. Alors, ces vacances?
15. Alors, ces vacances?

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PAS A PAS (2017 三修社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 5, 6 のうちどちらか1科目を履修していなければフランス語 7 及び 8 は履修できない。フランス語 7 と 8 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| フランス語 8 | | | 11661 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 平田 淳子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。具体的なコンテキスト（カードを書く、起点や目的地、丁寧な物言い、アドバイス、パカンスなど）の聞き取りや文法を通して、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかかりとする。

授業計画

1. En stage
2. En stage
3. En stage
4. On fait les courses?
5. On fait les courses?
6. On fait les courses?
7. Bonjour docteur!
8. Bonjour docteur!
9. Bonjour docteur!
10. Vive les vacances!
11. Vive les vacances!
12. Vive les vacances! フランス映画鑑賞
13. Alors, ces vacances?
14. Alors, ces vacances?
15. まとめ

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PAS A PAS (2017 三修社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語5,6のうちどちらか1科目を履修していなければフランス語7及び8は履修できない。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 中国語 1 | ①/② | | 11665 | I | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 坂口 文馨 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

中国は世界の政治や経済に影響力を持つ大国の一つに発展してきた。そのため中国語は益々重要になり、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず発音から始まり重要な語彙を習いその使い方を説明しさらに使えるように短文の読み書きを練習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導し、各単元で習ったことを身につけるように練習する。

授業計画

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音の練習)
3. 日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 请多关照!
5. 第一課 请多关照!
6. 第二課 你去哪儿?
7. 第二課 你去哪儿?
8. 第三課 这是什么?
9. 第三課 这是什么?
10. 第四課 你有课吗?
11. 第四課 你有课吗?
12. 第五課 你家在哪儿?
13. 第五課 你家在哪儿?
14. 第六課 暑假做什么了?
15. 復習1 自我介绍

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする。その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は発音の仕方に注意を傾け声を出して練習する。私語は慎むこと。

授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、語彙や文を暗記するように。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 中国語 2 | ①/② | | 11669 | I | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 沈 竑 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 1. 自己紹介
6. 1. 自己紹介
7. 1. 自己紹介
8. 2. これは何ですか
9. 2. これは何ですか
10. 2. これは何ですか
11. 3. これはいかがですか
12. 3. これはいかがですか
13. 3. これはいかがですか
14. 4. 買い物
15. 4. 買い物

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 中国語 3 | | | 11673 | I | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 坂口 文馨 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、さらに多くの語彙や文を学び、会話や文作りに応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の語順や表現の仕方を正しく理解し丸暗記した上で、書いたり話したりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

本授業では重要な語彙の発音をよく練習したうえで、使い方や語順を説明し実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中には友達同士や先生との会話ができるように、たくさん話す練習を行い、充実した授業にしたい。

授業計画

1. 第七課 祝你生日快乐!
2. 第七課 祝你生日快乐!
3. 第八課 你会打乒乓球吗?
4. 第八課 你会打乒乓球吗?
5. 第九課 味道怎么样?
6. 第九課 味道怎么样?
7. 第十課 我家离学校不太远。
8. 第十課 我家离学校不太远。
9. 第十一課 你在干什么呢?
10. 第十一課 你在干什么呢?
11. 第十二課 你都准备好了吗?
12. 第十二課 你都准备好了吗?
13. 第十三課 你是什么时候到的北京?
14. 第十三課 你是什么时候到的北京?
15. 復習 我很喜欢北京。

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法や語順を説明し訳する。その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語と会話の短文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 1) 常にテープを聴き文を読むこと。
- 2) 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるよう心がけること。
- 3) 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 4) 私語を慎むこと。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 中国語 4 | | | 11677 | I | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 沈 竑 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

本授業は「中国語 2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 復習・5. どこにありますか？
2. 5. どこにありますか
3. 5. どこにありますか
4. 6. 何がありますか
5. 6. 何がありますか
6. 6. 何がありますか
7. 7. ホテルにチェックイン
8. 7. ホテルにチェックイン
9. 7. ホテルにチェックイン
10. 8. 何時に行きますか
11. 8. 何時に行きますか
12. 8. 何時に行きますか
13. 9. タクシーに乗る
14. 9. タクシーに乗る
15. 9. タクシーに乗る

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 中国語 5 | | | 11681 | II | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 坂口 文馨 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読み、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

授業前に予習してもらう。授業後は、習ったテーマについて自分の実際の状況で会話に使う短文を書く練習をする。添削後、その会話を発表してもらう。このようにして同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聴くことができる。会話に求められる聴く力と話す力を養う。文化や習慣、または様々な事情を教科書を通して学ぶ。

授業計画

1. 第一課 成龙是演员。
2. 第一課 成龙是演员。
3. 第二課 中国的饮食文化
4. 第二課 中国的饮食文化
5. 第三課 我喜欢喝茶。
6. 第三課 我喜欢喝茶。
7. 第四課 熊猫欢欢在北京。
8. 第四課 熊猫欢欢在北京。
9. 第五課 和曹操一起过生日。
10. 第五課 和曹操一起过生日。
11. 第六課 不到长城非好汉！
12. 第六課 不到长城非好汉！
13. 第七課 吃北京烤鸭
14. 第七課 吃北京烤鸭
15. 復習

授業の方法

新出単語の発音を確認して、その意味と使い方を説明する。文章についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認する。最後に繰り返し会話を練習する。

準備学修

習った単元の単語と文章を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。私語を慎むこと。

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 中国語 6 | | | 11685 | Ⅱ | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 沈 竑 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 導入・復習
2. 1. 北京に到着
3. 1. 北京に到着
4. 1. 北京に到着
5. 2. 道を尋ねる
6. 2. 道を尋ねる
7. 2. 道を尋ねる
8. 3. 買い物
9. 3. 買い物
10. 3. 買い物
11. 4. バスに乗る
12. 4. バスに乗る
13. 4. バスに乗る
14. 5. 新しい友達
15. 5. 新しい友達

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『2年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 中国語 7 | | | 11689 | Ⅱ | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 坂口 文馨 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

自信を持ってもっとと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い聴いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうために、聴くことと話すことの練習をする。また、書いた作文を添削した後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし習ったものを定着させ、翻訳の力を養う。

授業計画

1. 第八課 故宫
2. 第八課 故宫
3. 第九課 世界奇跡
4. 第九課 世界奇跡
5. 第十課 最后的女儿国
6. 第十課 最后的女儿国
7. 第十一課 AA制度
8. 第十一課 AA制度
9. 第十二課 福到了!
10. 第十二課 福到了!
11. 第十三課 找工作
12. 第十三課 找工作
13. 第十四課 祝贺
14. 第十四課 祝贺
15. 総復習

授業の方法

新出単語の発音を確認し、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を繰り返し練習する。

準備学修

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の

単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、もっと聴ける話せるように努力すること。
解らない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 中国語 8 | | | 11693 | Ⅱ | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 沈 竑 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 復習
2. 6. 外食
3. 6. 外食
4. 6. 外食
5. 7. 約束
6. 7. 約束
7. 7. 約束
8. 8. 友達に電話する
9. 8. 友達に電話する
10. 8. 友達に電話する
11. 9. 郵便局
12. 9. 郵便局
13. 9. 郵便局
14. 10. 医者に行く
15. 10. 医者に行く

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『2年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 韓国語 1 | | | 11697 | I | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 宋 京珠 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

韓国語1では、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では「KAISEIパーソナリティ」のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、習ったことを身につけ実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語についての基本的な説明（「ハングルで自分の名前を書こう！」）
2. ハングルの基本母音
3. ハングルの基本子音
4. ハングルの合成母音（複合母音）
5. ハングルのパッチム
6. ハングルの基本のまとめ
7. 辞典の引き方、発音変化について、『中間テスト』
8. 第1課：『～は、～です。』
9. 第2課：『～が、～ですか？』
10. 第3課：『～ではありません。～ではありませんか？』
11. 第4課：『います／あります。いません／ありません。』
12. 第5課：『～します／しますか？ 何？』
13. 第6課-1：『へヨ体(します/しますか？/あります/ありません)』
14. 第6課-2：『へヨ体(します/しますか？/あります/ありません)』
15. 授業のまとめ

授業の方法

出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修

テキストの予習

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復復習は重要）。

| | | | | | | |
|-------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語 < 外国語 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 韓国語 2 | | | 11701 | I | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 宋 京珠 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

韓国語 2 では、韓国語を学習した経験がある学生、あるいは韓国語 1 を履修しながらもう少し深く授業を受けたいと思う学生を対象に、更に韓国語の幅広い基礎を身につけ、それを活用して多様な日常生活が可能になることを授業の目標とする。この授業では“K A I S E I パーソナリティ”の A (自律) と I n (国際性) を養う。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、習ったことを身につけて実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語の概要説明
ハングルの基本母音について
2. ハングルの基本子音について
3. ハングルのパッチムについて
4. ハングルの合成母音について
5. ハングルの基本のまとめ、 『中間テスト』
6. 第 1 課: 私は～です。
7. 第 2 課: ～ではありません。
8. 第 3 課: ～は何ですか。
9. 第 4 課: ～があります。
10. 第 5 課: ～はどこにありますか。
11. 第 6 課: ～には何をしますか。
12. 第 7 課: ～くありません。
13. 第 8 課: いつ行きますか。 / 漢数詞
14. 第 9 課: ～までどうやって行きますか。
15. 第 1 0 課: 何時からですか。 / 固有数詞 / 授業のまとめ

授業の方法

出席重視。補助資料視聴 (DVD 映像など)。ペアでの会話練習。

準備学修

テキストの予習

課題・評価方法

平常点 70%、定期試験 30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

できる韓国語初級 I / 新大久保語学院、李志暎 著 / DEKIRU 出版
できる韓国語初級 I ワークブック / 新大久保語学院、李志暎、辛昭静 著 / DEKIRU 出版

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること (反復練習は重要)。

| | | | | | | |
|-------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語 < 外国語 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 韓国語 3 | | | 11705 | I | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 宋 京珠 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

韓国語 3 では、同韓国語 1 で学習した内容を踏まえた上で、更に多様な韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高めることを授業の目標とする。この授業では“K A I S E I パーソナリティ”の A (自律) と I n (国際性) を養う。

授業の概要

学生の自主参加により韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「習った学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語 1 のまとめ復習、
第 7 課-1: 『ハムニダ体 ～です/ます』(1/2)
2. 第 7 課-2: 『ハムニダ体 ～です/ます』(2/2)
3. 第 8 課: 『へヨ体: ～です/ます』、『～しに』
4. 第 9 課: 『へヨ体: ～です』、『漢数詞』
5. 第 10 課: 『固有数詞』、『漢数詞と固有数詞の比較練習』
6. 第 11 課: 『尊敬語』、『へヨ体敬語』、『敬語の特殊例』
7. 第 12 課: 『用言の否定形』、『～するといひです』
8. 『中間テスト』、第 13 課-1: 『過去形』(1/2)
9. 第 13 課-2: 『過去形』(2/2)
10. 第 14 課: 『～しましょう/～しよう/何の～』
11. 第 15 課: 『～しています/～してください(1)』
12. 第 16 課: 『～できる/～できない』
13. 第 17 課: 『～したい/～してください(2)』
14. 第 18 課: 『～してもいい/～しないでください』
15. 第 19 課: 『～しなければならない』、『意志の表現』
- 第 20 課: 『～と思います/～するつもりです』、『授業のまとめ』

授業の方法

出席重視。補助資料視聴 (DVD 映像など)。ペアでの会話練習。

準備学修

韓国語 1 の復習

課題・評価方法

平常点 70%、定期試験 30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級 (改訂版) / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること (反復練習は重要)。

| | | | | | | |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語〈外国語〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 韓国語 4 | | | 11709 | I | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 宋 京珠 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

韓国語 4 では、韓国語 2 を学習した学生か、あるいは韓国語 3 とともにもう少し深く授業を受けたいと思う学生を対象に、更に韓国語の幅広い基礎を身につけ、それを活用して多様な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では「KAISEI パーソナリティ」の A (自律) と In (国際性) を養う。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、習ったことを身につけて実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. おさらい / 漢数詞と固有数詞比較練習
2. 第 1 1 課: 過去形表現
3. 第 1 2 課: 尊敬形表現
4. 第 1 3 課: 尊敬の過去形表現
5. 第 1 4 課: ~けど、~でしょう?
6. 第 1 5 課: ~したいです。
7. 『中間テスト』 / 第 1 6 課: ~ので~します。
8. 第 1 7 課: ~してもいいですか。 / ~すればいいですか。
9. 第 1 8 課: ~ましょうか。
10. 第 1 9 課: ~していただけますかか。
11. 第 1 9 課: ~してください。
12. 第 2 0 課: 可能形と不可能形
13. 発音の変化
14. 文法のまとめ
15. 短文作りと発表

授業の方法

出席重視。補助資料視聴 (DVD 映像など)。ペアでの会話練習。

準備学修

韓国語 2 の復習

課題・評価方法

平常点 70%、定期試験 30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

できる韓国語初級 I / 新大久保語学院、李志暎 著 / DEKIRU 出版

できる韓国語初級 I ワークブック / 新大久保語学院、李志暎、辛昭静 著 / DEKIRU 出版

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること (反復復習は重要)。

現代人間学部 英語観光学科

専門科目

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | a | 13101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 有村 理 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

このゼミでは観光産業の中核を担う今日の航空業界を中心に「観光立国に向けて航空業界とツーリズムが果たす役割」をメインテーマに置きます。春学期では各自がゼミのメインテーマを念頭に置いてまず航空業界と観光の基礎知識を学び観光立国について考える。全体の目標としては毎年12月に募集がある関空発の航空機を使い「学生が企画するツアー」の募集コンテストへの企画立案ができるように準備もする。

このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まずゼミ生全員が基本の知識を持てるように日本と世界の代表的な航空会社を紹介する事から始める。次に航空業界と現代のツーリズムの現状や各自が興味をもつ事柄について調べ発表していく。具体的には関空発の代表的な航空会社や成長著しいLCCを比較研究し、方面別に海外ツアー企画の立案準備もしていく。このプロセスの中で航空会社のサービス比較、世界遺産などの海外の観光資源も調べ、ツアー企画に何が求められるのかを考える。4年次の各自の研究テーマを見つける基本を養うと同時にプレゼンテーションの発表演習を行う。ツアー企画立案の参考になる場合はフィールドワークも取り入れる。

授業計画

1. 演習についてのガイダンス
2. 今日の航空業界と世界の航空会社を知る その1
3. 今日の航空業界と世界の航空会社を知る その2
4. 関空発着の航空会社を調べる
5. 代表的なLCCについて調べる
6. 観光立国とツーリズムの現状を考える その1
7. 観光立国とツーリズムの現状を考える その2
8. 観光立国とツーリズムの現状を考える その3
9. ツアー企画立案のテーマを考える
10. チームで方面別のツアー企画の情報を収集する その1
11. チームで方面別のツアー企画の情報を収集する その2
12. チームでツアー企画の情報をまとめてプレゼン作成
13. チームでツアー企画の情報をまとめてプレゼン作成
14. ツアー企画プレゼン発表と課題の発見
15. まとめと夏休みの課題について

授業の方法

個人発表とチームで航空会社を選定し方面別に独自の海外ツアー企画立案を考える。個人発表とチームでのプレゼン作成と発表演習に力点を置く。

準備学修

日本と世界の航空会社や海外の観光資源を調べ興味を持った事をまとめる。関連の旅行会社のパンフレットや参考文献を事前に読み出席する事。図書館で日本経済新聞に目を通す事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は特別な理由が無い限り必ず出席する事。その他は大学の学則に従う。

テキスト

適宜指示する。

参考図書

『新・観光立国論』デービッド・アトキンソン（2015）東洋経済新報社
『図解これからの航空ビジネス早分かり』戸崎 肇（2010）中経出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所編（2012）東洋経済新報社

留意事項

発表当番日は必ず出席の事。ゼミではチームワーク、自発性、積極性、協調性などが重要事項になり評価の対象にする。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | b | | 13101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

効果的な外国語学習法とは何か？この演習では、英語が苦手な日本人の立場から、ことばの習得と教授法を考察する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語学習には、学習の開始年齢、環境要因、習得順序、日本語と英語の言語間距離、動機づけ等など、様々な要因が影響を及ぼしている。演習Iでは、それぞれがことばに関するテーマを選んで調査した結果をまとめて発表し、討議を行う。

授業計画

1. イントロダクション 言語習得
2. 母語獲得 (1)
3. 母語獲得 (2)
4. 母語獲得 (3)
5. 母語獲得 (4)
6. 母語獲得 (5) 発表とディベート
7. 第2言語習得 (1)
8. 第2言語習得 (2)
9. 第2言語習得 (3)
10. 第2言語習得 (4)
11. 第2言語習得 (5) 発表とディベート
12. コミュニケーションのための言語能力(1)
13. コミュニケーションのための言語能力(2)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

授業の方法

講義、口頭発表、ディスカッション、まとめレポート提出形式で行う。

準備学修

次のテーマについて、テキスト、参考図書を読み、ディベートができるように準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

- (1)欠席や遅刻は、必ずメールにて福智 (fukuchi@kaisei.ac.jp) に連絡をすること
- (2)欠席をした場合、授業内容及び課題の有無を確認し提出すること。提出が遅れた場合は減点する。

テキスト

後日連絡する。

参考図書

コミュニケーションのための言語教育 H.G.Widdowson
 ナチュラル・アプローチ
 スティーブン・D.クラッシュェン、トレーシー・D・テレル
 外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か(岩波新書) 新書
 白井 恭弘 (著)
 外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待(岩波科学ライブラリー) 単行本
 白井 恭弘 (著)

留意事項

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | c | | 13101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマにする。マネジメントとマーケティングに視点をおく。特にツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性を理解する。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自立)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

観光は国内経済において重要な分野である。観光の価値を高めることで、地域の活性化や雇用の創出がなされる。一方で課題も多い。ツーリズム&ホスピタリティ産業ではおもてなし、所謂ホスピタリティの価値が戦略の柱にもなる。特に、他産業に比較し労働生産性が低い産業である。ではどのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考えていく必要がある。ホスピタリティの価値を落とさず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。演習は従来の座学ではなくアクティブラーニングに移行する。学生が考え、意見交換し、問題を発見する。自らの学びを実践する。上記以外に地域貢献交流を目的とした「学生ガイドによるまち歩き」と、「海外旅行プラン」コンテストへの参加を予定している。

授業計画

1. 演習の概要説明
2. ホスピタリティとは何か
3. ホスピタリティの事例
4. ホスピタリティの事例
5. 労働生産性について
6. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
7. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
8. フィールドワーク1
9. フィールドワーク成果発表
10. フィールドワーク2
11. フィールドワーク成果発表
12. フィールドワーク3
13. フィールドワーク成果発表

14. まとめ
15. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ

授業の方法

授業はゼミ生主体に進行する。レポートやパワーポイントを使用しディスカッション形式でおこなう。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は減点の対象とする。

テキスト

特に指定なし。

参考図書

内藤耕「サービス産業 労働生産性の革新」旅行新聞社
 内藤耕「サービス産業 生産性向上入門」日刊工業新聞

留意事項

演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習希望者は、観光概論、観光事業論等を履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | d | | 13101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石原 敬子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

音声学の基礎を理解する／英語の音素体系について理解する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Iでは、声を出すしくみや発音をコントロールする聴音器官など音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基に英語と日本語に見られるさまざまな音声現象を観察・分析する。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

授業計画

1. イントロダクション
2. モーラ・分節音
3. 音声・調音器官
4. 英語の子音1)
5. 英語の子音2)
6. 英語の子音3)
7. 発表とディスカッション① 1)
8. 発表とディスカッション① 2)
9. 五十音図 1)
10. 五十音図 2)
11. IPAチャート 1)
12. IPAチャート 2)
13. 発表とディスカッション② 1)
14. 発表とディスカッション② 2)
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

日本語話者の英語の特徴について観察する／毎週音読の宿題と小テストを課す／「ことばノート」に継続的に記入する（詳細は授業で説明する）

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物は、1) の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）
神崎正哉著、『新TOEIC®TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』（講談社）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 II | a | | 13105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Iをベースにして演習IIでは個人目標としては特に自分が興味を持った航空業界、ツーリズム全体、ホスピタリティ産業の中で各自の4年次の卒業研究のテーマ設定に向けての方向性を見つけていく。全体目標としては各チームのツアー立案企画を完成させる。プレゼン発表時はコミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上も図る。
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

各自の興味のあるテーマを航空業界、ツーリズム全体、ホスピタリティ産業の中から方向性を確立していく。そのため発表演習を中心に置き、コミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上を目指す。同時に他の発表者のプレゼンについても質疑応答ができるように各自の積極的な姿勢が求められる。1月中にゼミ全体目標のツアー立案企画とプレゼンを完成させる。なお演習の一環として都合が付く限り空港などの学外調査・見学なども実施する予定である。（学外調査・見学は土曜日・日曜日になることもある）。

授業計画

1. 演習IIのガイダンス。
2. 参考文献と情報収集について
3. 各自の研究テーマの発表演習と講評
4. 各自の研究テーマの発表演習と講評
5. 各自の研究テーマの発表演習と講評
6. 各自の研究テーマの発表演習と講評
7. 各自の研究テーマの発表演習と講評
8. 各自の研究テーマの発表演習と講評
9. 各自の研究テーマの発表演習と講評
10. 各自の研究テーマの発表演習と講評
11. 各チームのツアー企画立案の完成 その1
12. 各チームのツアー企画立案の完成 その2
13. ツアー企画立案の最終発表と講評
14. 各自の研究テーマの方向性の確認と絞込み
15. まとめ

授業の方法

各自の研究テーマのアウトラインを設定しテーマについての発表・プレゼンについての講評・質疑応答を中心にする。全体目標のチームでのツアー企画立案も完成させる。

準備学修

日本と世界の航空業界・ツーリズム産業・ホスピタリティ産業・観光の参考文献を各自で事前に読み重要点をまとめる。旅行業界のニュースに常時注目しておく。図書館で日本経済新聞に目を通す。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は出来ない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空とホスピタリティ』山路 顕 編著（株）ANA総合研究所（2013）NTT出版
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎（2010）同文館出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2012）東洋経済新報社

留意事項

発表担当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | b | | 13105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅱに引き続き、言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何かについて、ことばの習得と教授法を考察する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要

言語用法が分かったとして、実際に言語を使うことができるか？日本語をそのまま英語にしているのでは？伝えたい内容を「正確に」「適切に」会話の場面で「流暢に」使うとはどういうことか、それぞれがコミュニケーションのための言語教育における問題点を発見し、調査した結果をまとめて発表し、討議を行う。

授業計画

1. イントロダクション
2. 言語用法と言語使用(1)
3. 言語用法と言語使用(2)
4. 言語用法と言語使用(3)
5. 言語用法と言語使用(4)
6. 言語用法と言語使用(5) 発表とディベート
7. ディスカッション「一貫性と結束性」(1)
8. ディスカッション「一貫性と結束性」(2)
9. ディスカッション「一貫性と結束性」(3)
10. ディスカッション「一貫性と結束性」(4)
11. ディスカッション「一貫性と結束性」(5) 発表とディベート
12. コミュニケーションのための言語能力(1)
13. コミュニケーションのための言語能力(2)
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

授業の方法

講義、口頭発表、ディスカッション、まとめレポート提出形式で行う。

準備学修

次のテーマについて、テキスト、参考図書を読み、ディベートが

できるように準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

- (1)欠席や遅刻は、必ずメールにて福智 (fukuchi@kaisei.ac.jp) に連絡をすること
- (2)欠席をした場合、授業内容及び課題の有無を確認し提出すること。提出が遅れた場合は減点する。

テキスト

後日連絡する

参考図書

コミュニケーションのための言語教育 H.G.Widdowson
 ナチュラル・アプローチ スティーブン・D.クラッシュン、トレーシー・D・テレル
 外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か(岩波新書)新書 白井 恭弘 (著)
 外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待(岩波科学ライブラリー)単行本 白井 恭弘 (著)

留意事項

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

教員連絡先

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | c | | 13105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマにする。マネジメントとマーケティングに視点をおく。特にツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性を理解する。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自立)とR(思いやり)を養う。

授業の概要

観光は国内経済において重要な分野である。観光の価値を高めることで、地域の活性化や雇用の創出がなされる。一方で課題も多い。ツーリズム&ホスピタリティ産業ではおもてなし、所謂ホスピタリティの価値が戦略の柱にもなる。特に、他産業に比較し労働生産性が低い産業である。ではどのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考えていく必要がある。ホスピタリティの価値を落とさず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。演習は従来の座学ではなくアクティブラーニングに移行する。学生が考え、意見交換し、問題を発見する。自らの学びを実践する。その他、地域貢献交流を目的とした「学生ガイドによるまち歩き」と、「海外旅行プラン」コンテストへの参加を予定している。

授業計画

1. 演習の概要説明
2. 学生ガイドによるまち歩き1
3. 学生ガイドによるまち歩き2
4. 製品・サービスの価値1
5. 製品・サービスの価値2
6. 製品・サービスの価値3
7. ホスピタリティ産業のマーケティング1
8. ホスピタリティ産業のマーケティング2
9. ホスピタリティ産業のマーケティング3
10. ホスピタリティ産業のマネジメント1
11. ホスピタリティ産業のマネジメント2
12. ホスピタリティ産業のマネジメント3
13. フィールドワーク1

14. フィールドワーク2
15. まとめ

授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は減点対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

内藤耕「サービス産業 労働生産性の革新」旅行新聞社
 内藤耕「サービス産業 生産性向上入門」日刊工業新聞

留意事項

積極的に演習に参加すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | d | | 13105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石原 敬子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

音声学の基礎知識を基に英語音声进行分析する／英語の韻律（イントネーション）の特徴を理解し実践する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅱに引き続き、英語と日本語の音声を対象とした研究を行うと同時に、各自が研究したことについてレポートにまとめる方法を学ぶ。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる方法を学ぶ。

授業計画

- 1.発表とディスカッション① 1)
- 2.発表とディスカッション① 2)
- 3.英語音声の特徴 1)
- 4.英語音声の特徴 2)
- 5.英語音声の特徴 3)
- 6.まとめ
- 7.発表とディスカッション② 1)
- 8.発表とディスカッション② 2)
- 9.日本語話者の英語 1)
- 10.日本語話者の英語 2)
- 11.日本語話者の英語 3)
- 12.日本語話者の英語 4)
- 13.日本語話者の英語 5)
- 14.まとめ 1)
- 15.まとめ 2)

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

日本語話者の英語の特徴について観察する／毎週音読の宿題と小テストを課す／「ことばノート」に継続的に記入する

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1)欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること。2)欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3)欠席日の提出物は、1)の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

服部 節子著、『入門英語音声学』（研究社）
神崎正哉著、『新TOEIC®TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』（講談社）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | a | | 13109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅱでの個人テーマ目標をさらに絞り込み、7月中旬の卒業研究計画書提出に向けて各自のテーマを決定する。その間、文献と参考資料を収集し、発表などを毎回積み重ねながら、各自の最終の方向性を確立することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

7月中旬までに各自の研究テーマと研究計画を最終決定する。それまでに必要な参考文献、資料の調査、収集を図りながら卒業研究スケジュールの全体行程を作成する。
その間、各自の研究テーマの方向性を経過発表してその都度確認し、同時に課題と補足事項も発見しながら最終的なテーマ内容を確認していく。

授業計画

- 1.卒業研究の進め方とガイダンス
- 2.卒業研究のテーマについて先行事例の紹介
- 3.参考文献と資料の収集について
- 4.個人研究テーマの設定と行程表の作成
- 5.各自の研究テーマ・研究方法の発表
- 6.各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
- 7.各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
- 8.各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
- 9.各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
- 10.各自の研究テーマの参考文献の確認と質疑応答
- 11.各自の研究テーマの筋書きと組み立ての発表と講評
- 12.各自の研究テーマの筋書きと組み立ての発表と講評
- 13.卒業研究計画書の提出と質疑応答
- 14.卒業研究の書き方
- 15.夏期休業中における研究テーマの準備について

授業の方法

各自の研究テーマについての進捗発表・プロセスの確認と課題・補足事項など質疑応答を中心とする。

準備学修

各自の研究テーマについての参考文献と先行事例・資料を紹介するので、毎回要点を調べて出席すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

無断欠席は1回につき5点減点する。発表担当日は正当な理由のない欠席は認めない。その他は学則に準じる。

テキスト

特に指定しない。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

主体的に各自が研究テーマを早期に絞り込み、参考文献と資料の収集を早めに始める事。
卒業研究計画書提出後はテーマの変更は不可。夏期休業中に出来るだけ参考文献を精読する事が大切である。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | b | | 13109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは観光とマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマについて発表
3. 卒業研究の書き方(研究計画について)
4. 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
5. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
6. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
7. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
8. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
9. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
10. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
11. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
12. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
13. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
14. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席の場合は減点となる。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | c | | 13109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石原 敬子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について理解する／分析した内容について考察をする／各自の卒業研究のテーマを絞り込む
このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、日本語と英語の音声について研究する。自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込むためにゼミ内でディスカッションや各自の文献調査を進める。

授業計画

1. 卒業研究について・イントロダクション
2. 音響音声学 1)
3. 音響音声学 2)
4. 音響音声学 3)
5. まとめ
6. 発表とディスカッション
7. 日本語話者の英語 1)
8. 日本語話者の英語 2)
9. 日本語話者の英語 3)
10. 日本語話者の英語 4)
11. 日本語話者の英語 5)
12. 日本語話者の英語 6)
13. まとめ
14. 発表とディスカッション
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

日本語話者の英語の特徴について観察する／毎週音読の宿題と小テ

ストを課す

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物は、1) の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

河原繁人著、『音とことばのふしぎな世界』（岩波書店）
神崎正哉著、『新TOEIC®TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』（講談社）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | d | | 13109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 小野 礼子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学のテーマを扱う。ことばの機能とポライトネス、女性のことば、男女の会話スタイル等について学ぶ。授業は口頭発表とディスカッションを中心に行う。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、ディスカッションを行う。また、演習Ⅲの最後に、各々の卒業研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. Speech functions and politeness (1)
3. Speech functions and politeness (2)
4. Speech functions and politeness (3)
5. Speech functions and politeness (4)
6. Speech functions and politeness (5)
7. Speech functions and politeness (6)
8. 卒業研究について
9. Gender, politeness and stereotypes (1)
10. Gender, politeness and stereotypes (2)
11. Gender, politeness and stereotypes (3)
12. Gender, politeness and stereotypes (4)
13. Gender, politeness and stereotypes (5)
14. Gender, politeness and stereotypes (6)
15. 個人研究発表

授業の方法

パワーポイントを使用して行う口頭発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

次のテーマについてディスカッションを行うことができるように

テキストの該当箇所を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes, *An Introduction to Sociolinguistics*, Fourth edition. (Routledge)

参考図書

東昭二『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子（編著）『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他（編）『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、個人研究発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | a | | 13113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅲで各自がテーマ設定した航空業界、ツーリズム全般、ホスピタリティ産業の中でのテーマの現状と課題について、各自がより深く参考文献や先行事例を研究する。最終的にはテーマに対する自分の考えを明らかにし、卒業研究論文を仕上げる事を目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるように指導する。各自が研究テーマについて経過発表をしながらゼミ生相互に情報を共有する。また講評と質疑応答の中からテーマに対するアプローチの方法などをお互いに学び取る。途中で各自の卒業研究の中間発表を行い構成内容と最終の方向性を確認するが、主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが重要である。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
3. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
4. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
5. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
6. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
7. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
8. 各自の研究の中間発表 その1
9. 各自の研究の中間発表 その2
10. 各自の研究テーマの筋書きの最終確認
11. 卒業研究のゼミ内暫定提出
12. 各自の卒業研究の補足・修正箇所の確認
13. 卒業研究の最終確認
14. 卒業研究の口頭試問
15. 卒業研究の口頭試問

授業の方法

各自の卒業研究テーマの進捗状況の発表と講評を中心にする。

準備学修

自分の研究テーマの発表時は各自でレジュメを用意する。各自のテーマについて方向性の確認と補足事項を毎回確認するので準備して出席する事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

無断欠席は一回につき5点減点する。欠席の場合は必ず当日でも連絡を入れる事。その他は学則に準じる。

テキスト

特になし。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

主体的に卒業研究テーマの完成に取り組む事。参考文献と資料は早めに準備し内容を精読していく事。原則各自の発表担当日の欠席は不可。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | b | | 13113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは観光とマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. ガイダンスとスケジュールの決定
2. 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
3. 個人研究発表
4. 個人研究発表
5. 個人研究発表
6. 個人研究発表
7. 個人研究発表
8. 個人研究発表
9. 個人研究発表
10. 個人研究発表
11. 個人研究発表
12. 個人研究発表
13. 個人研究発表
14. 個人研究発表
15. まとめ

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は事前連絡をすること。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。

留意事項

発表者が特別な理由により欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらふこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | c | | 13113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石原 敬子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について理解する／分析した内容について考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要

英語音声について日本語音声と比較しながら研究する。またテキスト、文献等の調査から得られた情報を基に、日本語話者と英語話者の英語発音の違いについて考察をし、レポートにまとめる。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する訓練をする。

授業計画

1. イントロダクション・知覚音声学 1)
2. 知覚音声学 2)
3. 知覚音声学 3)
4. 福祉音声学 1)
5. 福祉音声学 2)
6. まとめ
7. イントネーション 1)
8. イントネーション 2)
9. イントネーション 3)
10. まとめ
11. 発表とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. まとめ
14. 卒業研究口頭試問 1)
15. 卒業研究口頭試問 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

文献調査を進める／毎週音読の宿題と小テストを課す

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物は、1) の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

河原繁人著、『音とことばのふしぎな世界』(岩波書店)
神崎正哉著、『新TOEIC®TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』(講談社)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習IV | d | | 13113 | IV | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 小野 礼子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を育てるとともに、学問への探究心を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学のテーマを扱う。言語態度及び社会言語学の研究の教育への応用について学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員でディスカッションを行う。また、演習IVの前半と後半に各々の卒業研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. 卒業研究中間発表
3. Attitudes and applications (1)
4. Attitudes and applications (2)
5. Attitudes and applications (3)
6. Attitudes and applications (4)
7. Attitudes and applications (5)
8. Attitudes and applications (6)
9. 卒業研究について
10. 卒業研究発表 (1)
11. 卒業研究発表 (2)
12. 卒業研究発表 (3)
13. まとめ
14. 卒業研究口頭試問 (1)
15. 卒業研究口頭試問 (2)

授業の方法

パワーポイントを使用して行う口頭発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

次回のテーマについてディスカッションを行うことができるように

テキスト等の該当箇所を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Routledge)

参考図書

東昭二著『社会言語学入門（改訂版）—生きてきた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課掲示板を確認のこと。

| 基礎科目〈異文化理解〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| ホスピタリティ精神論 | | | 13272 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 國本 恵理香 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ホスピタリティという単語は、「もてなし」「思いやり」「気配り」「歓待」という言葉で説明されているが、この言葉はそのような表面的な説明では網羅しきれない深い意味を持っている。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の語源とその内容の起源について学んだ後、この概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きる私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、食文化、茶道という局面から学ぶ。授業の後半は、現代のホスピタリティ産業の代表であるディズニーランド及び旅行業並びに宿泊業におけるホスピタリティのあり方を検討する。

授業計画

1. ホスピタリティの語源
2. ホスピタリティの起源
3. 古代西洋のホスピタリティ文化—ケルト、ゲルマン、スラブ
4. キリスト教とイスラム教のホスピタリティ文化
5. 古代東洋のホスピタリティ文化—儒教及びヒンドゥー教
6. 日本のホスピタリティ文化—もてなし文化の歴史
7. 日本の慣習とホスピタリティ—慶事におけるホスピタリティ
8. 日本の慣習とホスピタリティ—葬儀および祭りにおけるホスピタリティ
9. 日本の食文化とホスピタリティ—茶道
10. 「おくりびと」に見るホスピタリティ
11. 西洋料理とホスピタリティ
12. 旅行業におけるホスピタリティ
13. 宿泊業におけるホスピタリティ
14. ディズニーランドにおけるホスピタリティ
15. ホスピタリティ精神論のまとめ

授業の方法

講義形式と授業中に小グループで話し合うなど、作業を行う。DVDを1回見る。

準備学修

旧約聖書の創世記18章を読んでくる。今までに自分が受けたホスピタリティ、もしくは他人に対するホスピタリティを考えてみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき2点の減点対象となる。欠席5回を超えた場合は、不合格となる。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

服部勝人「ホスピタリティ学のおすすめ」（丸善株式会社、2008年）
暫江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣、2008年）
福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版、2011年）

| 基幹科目〈基幹基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 日本文化論 | | | 13273 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 箕野 聡子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI n (国際性)とI (知性)とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

1. 落語(前座の役割「寿限無」「芝浜」)
2. 落語(海外へ:英語落語の可能性・「鷲取り」)
3. 落語(創作落語:グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」)
4. 歌舞伎(江戸荒事「勸進帳」)
5. 歌舞伎(現代歌舞伎:野田秀樹による新しい脚本 市川染五郎・中村勘九郎の「研辰の討たれ」)
6. 歌舞伎(日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出 夏祭浪花鑑 ニューヨーク公演)
7. 歌舞伎(海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」)
8. 伝統芸能鑑賞
9. 文楽(世界で紹介された杉本文楽「曾根崎心中」と三谷幸喜による「其成礼心中」)
10. 文楽(人形浄瑠璃における太夫、く語り)の役割)
11. 能楽(狂言:「附子」大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言)
12. 能楽(能:野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り)
13. 能楽(能:シテガ・ワキ方・狂言方「鉄輪」)
14. ニッポンの漫画(鳥獣戯画から手塚治虫まで)
アニメ大國ニッポン(「君の名は」における巫女の役割)
15. 世界に羽ばたく日本の文化。まとめと試験。

授業の方法

講義が中心となるが、その他に劇場で実際に古典芸能を鑑賞する。また、現役の演者の方との対話形式の講義も行う。

準備学修

歴史において、それぞれがどの時代にどのように発展したかを確認しておく。
また、図書館にあるDVDを各自鑑賞(2時間以内)し、古典芸能への理解を深めておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出する。欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

国立文楽劇場(大阪市中央区日本橋)へ文楽鑑賞に行く。(指定日に都合がつかない場合は、別日に個人で鑑賞することになる)

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 翻訳・通訳論入門 | | | 13301 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 和泉 有香 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

英語と日本語という構造の全く異なった2言語の中に共通点を見出し、特に英語知識の深化を図ることにより、文字と音声において2言語を自由に行き来する能力を身につける。また日本と日本文化への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI (知性)とIn (国際性)の涵養を目指す。

授業の概要

単なる「英文和訳」・「和文英訳」ではない翻訳技術・通訳技術の基本を身につける。

授業計画

1. Introduction, Unit 1 家族
2. Unit 2 大学生活
3. Unit 3 趣味(スポーツ、音楽、読書)
4. Unit 4 海外文化
5. Unit 5 国際交流(1) 実践演習1
6. Unit 6 国際交流(2) 実践演習2
7. 復習
8. Unit 7 日本の文化(和食、温泉、回転寿司)
9. Unit 8 数字で説明する私たちの世界
10. Unit 9 観光
11. Unit 10 社会事情1 少子高齢化
12. Unit 11 社会事情2 都市化と過疎化
13. Unit 12 コミュニケーション 実践演習3
14. 総復習、通訳・翻訳発表
15. まとめ

授業の方法

大量の演習が中心となる。なお授業計画については柔軟に対応する。

準備学修

事前課題が多く課される。授業中に指示した課題を身につけるため、復習はしっかり行うこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Developing Interpreting Skills for Communication Revised Edition (南雲堂)、必要に応じてオリジナルプリント

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

英和辞書(紙版、電子辞書いずれでも可)を必ず持参すること。

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Advanced Oral Communication 1 | a | 13309 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

Participate in group discussions and interviews, identify main ideas and supporting details from listening materials, make inferences and give advice, ask for and give reasons and supporting opinions, identify facts and opinions. This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, first impressions, taste and nutrition, change, advertisements, risks, responsibility, happiness, and success and failure.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Sociology
3. Unit 1 Sociology
4. Unit 2 Nutritional Science
5. Unit 2 Nutritional Science
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Psychology
10. Unit 3 Psychology
11. Unit 4 Marketing
12. Unit 4 Marketing
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success Listening and Speaking 3* 2nd edition
Kristin Donnally Sherman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Advanced Oral Communication 1 | b | 13309 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 服部 幸正 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

英語の力を身につけるには、英語を読み、書き、聞き、話すことに習熟する必要がある。これらは言葉の四技能と呼ばれるが、本学の英語教育の中で、この授業では特に英語の会話の力を強化する訓練の一翼を担いたいと考えている。KAISEIパーソナリティではIn(国際性)を常に意識することはもちろん、pairでの練習時には相手との協力とK(思いやり)を大切にしてほしい。

授業の概要

- 授業では次の4つのpracticeを1つのUnitとし15回行う。
- 1 英語の歌 Oldies をビートルズ、カーペンターズ、ブラザーズフォードなどから選び、歌手と共に歌う overlapping chorus で口慣らしをする。
 - 2 書き言葉としての英語からは想定外のむずかしい発音上の特徴である reduced forms を model reading に従って shadowing practice をする。
 - 3 英米人の日常会話の表現を repeater を使ってセンテンス毎に repetition practice をしたあと二人一組の practice in pairs により skit 全体をマスターする。
 - 4 英語のミサで朗読される英語の福音(Gospel) を全員で朗読する。

授業計画

1. Unit 1
2. Unit 2
3. Unit 3
4. Unit 4
5. Unit 5
6. Unit 6
7. Unit 7
8. Unit 8
9. Unit 9
10. Unit 10
11. Unit 11
12. Unit 12
13. Unit 13
14. Unit 14
15. Unit 15

授業の方法

授業の初めから終わりまで英語の口頭練習の連続である。

準備学修

予習の必要はない。復習については授業中に指示する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

この授業は英語の運用能力の実践の場であり出席しないとその機会が失われる。

テキスト

プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

英語の学習は大学の授業だけではない。今世の中に英語学習の機会があふれている。NHKだけでも15本の英語講座の番組があり、二ヶ国語放送は連日流れている。もう一度自分の英語の勉強について考えてみてほしい。「いつやるの? 今でしょ!」

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Advanced Oral Communication 2 | a | 13313 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy. Student will lead a group discussions, agree and disagree with opinions, ask for and give clarification, use a variety of intonation and word stress for key word

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, first impressions, taste and nutrition, change, advertisements, risks, responsibility, happiness, and success and failure.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5 Behavioral Science
3. Unit 5 Behavioral Science
4. Unit 6 Philosophy
5. Unit 6 Philosophy
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 7 Economics
10. Unit 7 Economics
11. Unit 8 Behavioral Science
12. Unit 8 Behavioral Science
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success Listening and Speaking 3* 2nd edition
Kristin Donnally Sherman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Advanced Oral Communication 2 | b | 13313 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 服部 幸正 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

春学期に開講された Advanced Oral Communication 1b の「授業の到達目標」で述べた英語の会話力を強化するための実践的訓練を秋学期でも継続する。今学期から受講を始めても何ら問題はない。KAISEI パーソナリティは In(国際性)と K(思いやり)を大切にしてほしい。

授業の概要

春学期と同じく授業は次の四つの practice を一つの Unit にして実施する。

- 1 英語の歌 Oldies を新たに 15 曲選び overlapping chorus で口慣らしをする。
- 2 話し言葉としての英語の発音上の特徴である reduced forms の shadowing practice を継続する。
- 3 英語の日常会話の skit から repetition practice と practice in pairs により必修表現を習得する。
- 4 英語の福音 (Gospel) を朗読する。

授業計画

1. Unit 1 6
2. Unit 1 7
3. Unit 1 8
4. Unit 1 9
5. Unit 2 0
6. Unit 2 1
7. Unit 2 2
8. Unit 2 3
9. Unit 2 4
10. Unit 2 5
11. Unit 2 6
12. Unit 2 7
13. Unit 2 8
14. Unit 2 9
15. Unit 3 0

授業の方法

集中的な口頭練習を行う。

準備学修

予習の必要はない。復習については授業中に指示する。

課題・評価方法

平常点 70%、定期試験 30%

欠席について

この授業は理論より実践である。授業に出席しなければメリットはない。

テキスト

プリントを配布する。

参考図書

随時紹介する。

留意事項

春学期のこの欄でも述べたようにあらゆる機会を利用して英語学習に臨んでほしい。皆さんの英語の上達は意欲と覚悟次第である。もう一度言う「いつからやるの? 今でしょ!」

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Academic Reading/Writing 1 | a | 13318 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics. This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1
3. Lesson 2
4. Lesson 3
5. Lesson 4
6. Lesson 5
7. Lesson 6
8. Mid-term Review
9. Lesson 7
10. Lesson 8
11. Lesson 9
12. Lesson 10
13. Prepare for Final Review
14. Prepare for Final Review
15. Final Review

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to prepare for class and to participate actively during classes.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Academic Reading/Writing 1 | b | 13318 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Tina D. MATHERS | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1
3. Lesson 2
4. Lesson 3
5. Lesson 4
6. Lesson 5
7. Lesson 6
8. Mid-term Review
9. Lesson 7
10. Lesson 8
11. Lesson 9
12. Lesson 10
13. Lesson 11
14. Review
15. Final Review

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous reading and writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q Skills for Success 3: Reading and Writing by Gramer and Ward

参考図書

To be announced.

留意事項

Active participation in class is essential.

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Academic Reading/Writing 2 | a | 13322 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Tina D. MATHERS | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1
3. Lesson 2
4. Lesson 3
5. Lesson 4
6. Lesson 5
7. Lesson 6
8. Mid-term Review
9. Lesson 7
10. Lesson 8
11. Lesson 9
12. Lesson 10
13. Lesson 11
14. Prepare for Final Review
15. Final Review

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous reading and writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success 3 Reading and Writing by Gramer and Ward

参考図書

To be announced.

留意事項

Active participation in class is essential.

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Academic Reading/Writing 2 | b | 13322 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics. This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Unit 5 Reading 1
2. Unit 5 Reading 2
3. Unit 5 Writing
4. Unit 5 Unit Assignment
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Unit 6 Unit Assignment
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 7 Unit Assignment
13. Unit 7 Unit Assignment
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to come to class prepared and to participate actively during class.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---|-----|----|-------|------|-----|------|
| Public Speaking and Oral Interpretation | | | 13333 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Tina D. MATHERS | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Through classroom activities in which students actively use their language skills, especially listening and speaking, students will learn how to give a speech in English. Students will also practice critical thinking skills, share information and explore speech techniques.

授業計画

1. Introduction
2. The Three Messages in Speech and the Physical Message
3. Informative Speech
4. Gestures and Layout Speech
5. Layout Speech Presentation and Voice Inflection
6. The Story Message
7. The Introduction
8. The Body
9. The Body continued
10. The Conclusion
11. The Conclusion continued
12. The Visual Message
13. The Visual Message
14. Prepare for final presentation
15. Review for final Presentation

授業の方法

Students will work individually and make presentations in small groups.

準備学修

There are no prerequisites for this course.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles Le Beau

参考図書

To be announced.

留意事項

This course will be taught entirely in English. Active participation in class is essential.

| 基幹科目〈基幹科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| Academic Reading/Writing 3 | | | 13338 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading an adapted version of the book "Rabbit-proof Fence". By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

1. Introduction
2. Discuss Chapters 1 & 2
3. Discuss Chapters 3 & 4
4. Discuss Chapters 5 & 6
5. Discuss Chapters 7 & 8
6. Discuss Chapters 9 & 10
7. Review
8. Midterm Exam
9. Discuss Chapters 11 & 12
10. Discuss Chapters 13 & 14
11. Discuss Chapters 15 & 16
12. Discuss Chapters 17 & 18
13. Discuss Chapters 19 & 20
14. Discuss Chapters 21 & 22
15. Prepare for Final Exam

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Ireland, Oxford University Press

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

| | | | | | | |
|-------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 基幹科目〈基幹科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Debating and Persuasion | | | 13345 | IV | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 In this class, students will have the opportunity to develop their sense of autonomy.

授業の概要
 The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyze these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and Drugs
8. Review
9. Sexual Harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Final Review

授業の方法
 Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修
 Familiarize yourself with the material in the textbook before taking this class.

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト
Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書
 To be announced as and when required.

留意事項
 Active participation in class is essential.

| | | | | | | |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 基幹科目〈基幹基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| ことばと社会 | | | 13405 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI (知性) とIn (国際性) を養う。

授業の概要
 社会は多様なものであり、その多様な社会と接触する言語にはいったいどのようなものがあり、その言語社会に暮らす人々は、どのようにしてそれらの言語を使い分けるのか。共通の言語をもたない人同士、異なる地域・社会階級・性・年齢に属する人々は、どのようにコミュニケーションをし、影響し合っているのかを学ぶ。言語を中心に、身の回りの社会から世界まで、大きな視野を持つことを目指す。

授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロシヤ
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール
6. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
7. 言語のバリエーション(2): ことばの標準変種と非標準変種
8. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
9. 言語のバリエーション(4): 社会方言とはなにか
10. 言語のバリエーション(5): 黒人英語
11. 言語のバリエーション(6): 国家と言語
12. 言語のバリエーション(7): ジェンダーと言語
13. 言語のバリエーション(8): 年齢と言語
14. 言語とコンテキスト(1): ポライテネスストラテジー(1)
15. 言語とコンテキスト(2): ポライテネスストラテジー(2)

授業の方法
 講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修
 履修者は全員、テキストの指示した箇所を読んだうえで出席すること。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト
 東照二『社会言語学入門 (改訂版) 一生涯の言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
 適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書
 授業中に随時紹介する。

留意事項
 クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先
 saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|-------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目〈異文化理解〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 異文化理解 | | 13409 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 有村 理 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

現代社会はよりグローバル化が進み、多様な文化を持つ人たちとの国際交流社会になってきた。しかし時として文化情報の不足のため考え方や感じ方の違いが異文化間の相互理解を難しくしている。こうした文化摩擦をさけるための異文化理解の基礎と異文化間コミュニケーションの留意点を理解する事を目標とする。また異文化理解の基礎として自文化つまり日本の文化を知ることも重要である。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）と In（国際性）を養う。

授業の概要

この授業では西洋文化、特に欧米の文化の理解を中心にして「目に見える文化」から「見えない文化」、つまり習慣や行動の仕方の背景にある価値観などの由来をテキストを中心に解説する。よく誤解を生む「しぐさ」やジェスチャーなども取り上げる。また後半の講義時間内では欧米の主要国について担当グループで国別の特徴をまとめ、ディスカッションしながら国際理解を促進する時間も設ける。なお毎回の授業にあたりテキストの内容を十分予習しておく事が重要である。

授業計画

1. ガイダンス。カルチャー・ショックと文化摩擦を生む原因
2. 異文化理解の知識 その1
3. 異文化理解の知識 その2
4. 価値観の理解
5. 異文化間コミュニケーション
6. 衣食住の文化
7. 人間関係の文化 その1
8. 人間関係の文化 その2
9. 遊びと仕事の文化
10. 世界史の中の英語と文化 その1
11. 世界史の中の英語と文化 その2
12. 国際理解・国別グループ課題の討議①
13. 国際理解・国別グループ課題の討議②
14. 国際理解・国別グループ課題の討議③
15. 国際理解・国別グループ課題の討議④・まとめ

授業の方法

主要国についてグループに分け、国別に異文化理解の課題を討議し発表する時間を取り入れる。

準備学修

毎回授業で取り上げる範囲を指示するので必ず事前にテキストで予習して出席する事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。その他は学則に従う。

テキスト

『異文化理解のストラテジー』 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著 大修館書店

参考図書

『しぐさの比較文化』リージャー・プロズナハン著
岡田 妙/斉藤紀代子 訳 大修館書店

『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 久米昭元・長谷川典子著

有斐閣選書

『実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』 西田ひろ子 大修館書店

留意事項

出席と授業態度、国別の担当課題についてのチームでの準備と発表も重視する。

異文化理解の比較として日本の文化を英語で伝えられる勉強も望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈基幹基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 英米文学入門 | | | 13413 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 吉野 美智子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

長い歴史と伝統を持つイギリスと近代になってから成立したアメリカそれぞれの文学の世界に対する理解を深め、人間の生きる世界の多様性を学ぶとともに異文化理解の複合的視点を養うことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

イギリス文学とアメリカ文学の歴史的、文化的、社会的背景を概観し、それぞれの時代と文化が反映された主要な文学作品を鑑賞する。同時に、詩や演劇、小説、随筆など多様な作品を鑑賞することにより、豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の持つ面白さを味わう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. イギリス 古英語・中英語の文学
3. ルネサンスの散文と詩と演劇
4. シェイクスピア
5. シェイクスピア、王政復古後の文学
6. 小説の誕生
7. ロマン主義時代の詩
8. ヴィクトリア朝の小説
9. ヴィクトリア朝の小説
10. 20世紀の詩と小説
11. 現代イギリス文学
12. アメリカ・ロマンティズム時代の文学
13. アメリカ・ロマンティズム時代の文学
14. アメリカ・リアリズム時代の文学
15. アメリカ・リアリズム時代の文学

授業の方法

講義を中心に、レポート提出や発表を多く取り入れる。

準備学修

初回講義時に配布するスケジュール表・作品リストに沿って作品を

読み、期日までにレポートを提出すること。課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。また教科書は指示された範囲を必ず読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点は平常点の10%とし、欠席は1回につき2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社、1986。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

毎回のハンドアウトで紹介します。

留意事項

授業が始まるまでに下記の何れかに目を通しておくこと。河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会、2010年。小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。澤田昭夫著『論文の書き方』講談社学術文庫、1991年。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈基幹基礎〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| ことばの意味・文化 | | | 13417 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 服部 幸正 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

国際化とかグローバル化という波が我々日本人の生活にも押し寄せていることをみなさんも実感していることと思う。授業では「ことばの意味・文化」の視点から、異文化理解へのアプローチの一端を学び、他文化への関心を深める一助としたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を考える。

授業の概要

英文のテキストを使って授業をする。しかし、英文講読のクラスではないので、英文の読解力強化や向上が第一の目的ではない。目的はテキストの著者が「ことばの意味・文化」について、何を主張しようとしているのかを読み取り、その内容を議論することである。教師主体の講義形式ではなく学生主体の演習形式で授業を行う。

授業計画

1. Language Supports Culture
2. Expressing Our Cultural Identity
3. Language Takes Us Beyond Our Culture
4. Social Harmony
5. Soothing Language
6. Language Complicates Culture
7. Social Discrimination And Language
8. Language Threatens Culture
9. The Threat Of English
10. Linguistic Arrogance
11. Linguistic Imperialism
12. Language And Culture In The 21st Century
13. Language For Everyone
14. Balancing Language(s) And Culture(s)
15. English Education In The 21st Century

授業の方法

学生主体の演習形式の授業方法をとるので、クラスでは各人指示された自分の責任を果たしてほしい。これはKAISEIパーソナリティE(倫理)を養うことにもなる。

準備学修

日本語と日本文化についての本を読むことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席して授業に参加することを評価する。

テキスト

LANGUAGE and CULTURE in the 21st CENTURY by Joan McConnell SEIBIDO

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光概論 | | | 13426 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を得る。特に我が国の国際交流と地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は観光領域の入門講座である。

授業計画

1. 観光の定義:観光の定義と意味
2. 観光の歴史:観光旅行の起源
3. 旅と宿:宿の発展と観光
4. 観光と交通:交通の発展と観光
5. 国内観光:国内観光の現状
6. 国際観光:国際観光の現状
7. 観光と観光産業:国際観光の現状
8. 地域振興:まちづくりと地域観光
9. 観光文化:風俗と観光文化
10. 交流型観光:観光の発展と交流型観光
11. 滞在型観光:滞在型観光とリゾート観光
12. 情報化社会:ICTにおける観光への影響
13. 観光経済:観光の経済効果
14. 国際交流:国際交流時代の観光と社会情勢の変化
15. まとめ:観光概論のまとめ

授業の方法

講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

本学の規定

テキスト

白土健他『観光を学ぶ』八千代出版 2015

参考図書

適宜紹介

留意事項

観光領域の基礎科目である。3年次、4年次に観光を専攻する学生は必ず履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 国際観光交流論 | | | 13427 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 青木 幹生 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光先進国フランスの現状を学び、フランスと比較しながら日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンターテインメントなどの各インフラの問題点を探る。
(このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。)
世界観光機関(UNWTO)や国土交通省、観光庁のデータをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を参照し日本の現状と今後の歩むべき方向を考える。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養います。視座を観光先進国フランスおよびヨーロッパの観光先進国に定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。世界観光機関(UNWTO)、OECD、日本の観光庁などのデータを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound、Inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1. 国際観光交流論概要、フランスはどのような国か?観光立国とは何か、シラバス概要、教科書、評価方法
講師プロフィール
2. 観光大国を支える組織ー観光行政の組織
3. 観光大国フランスから学ぶこと。観光産業の地位、産業としての国際観光
4. フランスの魅力、日本の魅力、外国人からみた日本の魅力と問題点。クールジャパン
5. 国際観光客到着数ランキング、外客誘致法、ウエルカムプラン21、新ウエルカムプラン、ビジットジャパンキャンペーン
6. フランス人のバカンス実態、バカンスを支える制度、先進国の余暇事情
7. 日本の余暇事情 休暇に対する日本人の考え方
観光大国の条件
8. ヨーロッパの出国率、日本の出国率、低迷するアウトバウンド
9. 国際観光交流と観光産業、MICE、おもてなし、国際会議場、Two-way tourism 21.
10. フランスの観光関連インフラ(宿泊、交通、見本市・国際会議場)、

11. 国際観光交流とはなにか。姉妹都市、音楽祭、映画祭、フェスティバル、スポーツイベント
12. 観光産業とIT革命、マルチメディアとツーリズム
13. 持続可能な開発、環境とツーリズム、
14. フランスの問題点、まとめ(結論)
15. まとめ

授業の方法

教科書を必ず一読しておくこと。煩雑なデータは無視して最後まで読み通しアウトラインを理解しておくことが重要。国際性を養うため海外からの目線で日本を客観視する習慣を身につける。

準備学修

各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。授業中の活動に重点を置いているので、遅刻、欠席は減点の対象になる。

テキスト

観光大国フランスーゆとりとバカンスの仕組みー(現代図書)青木幹生著

教室で直接販売する。割引価格2000円

参考図書

「平成24、25、26年度版観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

留意事項

与えられた課題に取り組み結果を教室で発表してもらう。双方向の爽りある授業を目指したい。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 手話コミュニケーションⅠ | | | 13428 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 若生 茂嗣／岩橋 博子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・ 手話で自己紹介が出来るようになる
 - ・ 簡単な会話が出来るようにする
- このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
- ・ 手話で自己紹介する。
- ・ 基本的な会話手話を習得する。
- ・ レクリエーション

授業計画

1. オリエンテーション「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」/手話表現/指文字
2. 伝えあってみよう1
3. 伝えあってみよう2
4. 名前を紹介しよう
5. 家族を紹介しよう
6. 数を使って話そう
7. まとめ①
8. 簡単な会話をしてみよう①
9. DVD「ゆずり葉」映画鑑賞
10. 趣味について話そう
11. 仕事について話そう
12. 住所を紹介しよう①
13. 住所を紹介しよう②
14. まとめ②
15. 簡単な会話をしてみよう②

授業の方法

DVDを使って進める。
視覚的ゲーム
手話実技・講義

準備学修

テキストに付いているDVDを見る

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」

参考図書

日本語・手話辞典
わたしたちの手話学習辞典Ⅰ

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 手話コミュニケーションⅡ | | | 13429 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 若生 茂嗣 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・ 手話で会話が出来るようにする。
 - ・ 講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする
 - ・ 全国手話検定5級取得
- このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 手話の基本的な会話を習得する。
- ・ 障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・ レクリエーション

授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 1日のことを話そう
3. 1ヶ月のことを話そう①
4. 1ヶ月のことを話そう②
5. 1年のことを話そう
6. 行事のお知らせをしてみよう
7. 旅行のことを話してみよう
8. まとめ①
9. まとめ②
10. 表情豊かに、具体的に①表情・強弱・速度
11. 表情豊かに、具体的に②様子や形
12. 表情豊かに、具体的に③動き
13. まとめ③
14. 応用編①
15. 応用編②

授業の方法

※

準備学修

テキストに付いているDVDを見る

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」

参考図書

日本語・手話辞典
わたしたちの手話学習辞典Ⅰ

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 環境ツーリズム論 | | | 13430 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

近年になり地球規模での温暖化防止策と環境問題が世界で議論されている。この授業では地球温暖化の原因とその影響を考察し、これまでの人間環境保全のための国連会議から「パリ協定」に到る環境保全への取り組みの歴史を考える。次にツーリズム分野で近年世界各地で実践されている環境を保全する「持続可能なツーリズム」について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず地球温暖化傾向の原因について解説し、人間環境を守ることの重要性を理解する。次にこれまでの世界的な環境保全運動と国連会議で採択された「持続可能な開発」即ちサステイナブル・デベロップメントの基本概念を理解する。これを受けて世界各地で環境保全と観光の両立を図る新たなツーリズム、即ちエコツーリズムに代表される持続可能なツーリズムが実践されていることを紹介する。授業後半で学生が先進的な国別の事例を課題研究しまとめる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 地球温暖化と京都議定書・パリ協定
3. 地球環境保全へのながれ、その1
4. 地球環境保全へのながれ、その2
5. アメリカの自然保護と国立公園制度
6. エコツーリズムとエコツアー
7. 日本におけるエコツーリズム その1
8. 日本におけるエコツーリズム その2
9. 環境ツーリズムの先進事例研究 その1
10. 環境ツーリズムの先進事例研究 その2
11. 環境ツーリズムの先進事例研究 その3
12. 環境ツーリズムの先進事例研究 その4
13. イギリスのナショナルトラスト運動
14. イギリスのナショナルトラストを訪ねる
15. 環境ツーリズムのまとめ

授業の方法

講義を中心にするが、先進事例ではエコツーリズムの観点から学生

が国別に課題研究し発表を行う時間を設ける。

準備学修

温暖化防止について「パリ協定」の内容についての新聞報道に注目しておく事。エコツーリズムと自然環境保護に関する参考図書をあらかじめ伝えるので講義までに読んで出席する事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に従う。

テキスト

特に指定しない。随時プリントを配布する。講義内容によりDVDなどで映像でも紹介する。

参考図書

『観光学入門』 岡本伸之著 有斐閣アルマ
『ナショナル・トラスト（新版）』 木原啓吉著 三省堂
『エコツーリズムってなに？』 小林寛子著 河出書房新社
『アメリカの環境保護運動』 岡島成之著 岩波新書

留意事項

普段から地球環境問題に意識を持ちエコロジーについて考える習慣を持つ事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光事業総論 | | | 13431 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光の全体像を理解し観光事業におけるリレーションを把握する。将来観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。全体像を理解した上で、より専門知識の習得を目指す。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光を具体的に解説する。特に観光政策からなる観光事業と事業としての観光産業の2本の分野である。具体的には、国家戦略としての観光事業を法律と行政面から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道について学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テマパーク事業
9. テマパーク事業
10. 旅行事業
11. 旅行事業
12. ホテル・旅館事業
13. ホテル・旅館事業
14. 航空運送事業・鉄道事業
15. まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行う。

準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介し、受講生は事前学習として読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席の場合は減点とする。

テキスト

北川宗忠『現代の観光事業』 ミネルヴァ書房

留意事項

観光学をより深く学ぶ科目です。3年・4年次に観光を専攻する学生は必ず履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光と世界遺産 | | | 13432 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

世界遺産は毎年20～30件が新規登録され、それがその国の観光資源となっている。この授業では国際観光の中心的存在である世界遺産をいかに保全し、同時に観光との両立をはかっているのか、日本と世界の主要な世界遺産を事例に取り上げ理解することを目標とする。学内で実施する世界遺産検定(2級・3級)合格も目標の一つにしている。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

現在、世界には1050以上の世界遺産が登録されている。最近の4年間で日本の「富士山」、「富岡製糸場と絹産業」、「明治日本の産業革命遺産」、「国立西洋美術館」が世界文化遺産に登録され、現在登録数は20になった。授業では世界遺産検定の必須項目である世界遺産の意義から登録までの過程、日本の世界遺産、世界遺産の種類と国別の分布、および危機遺産などを取り上げ解説する。その上で特に人気のある世界遺産については観光資源としてツーリズムの視点から考察する。
また幾つかの世界遺産については各自が調べ事例発表する時間を設ける。

授業計画

1. ガイダンス・観光資源として人気の世界遺産の紹介
2. 世界遺産条約と世界遺産登録の仕組み
3. 世界遺産の基本知識・種類・国別分布
4. 日本の世界遺産(文化遺産)その1
5. 日本の世界遺産(文化遺産)その2
6. 日本の世界遺産(文化遺産)その3
7. 日本の世界遺産(自然遺産)
8. 世界の危機遺産と課題・負の遺産
9. 世界の産業遺産
10. 世界遺産検定の模試
11. 海外の顕著な世界遺産を調べる その1
12. 海外の顕著な世界遺産を調べる その2
13. 海外の顕著な世界遺産の発表
14. 巡礼と世界遺産
15. 観光と世界遺産のまとめ

授業の方法

世界遺産検定合格を目指し必要な世界遺産の知識を解説する。また後半では顕著な世界遺産を各自が選び、事例研究として発表する機会を取り入れる。

準備学修

世界遺産検定のテキストを毎回勉強して出席する。また世界遺産のニュース、新聞記事などには日頃から注目し、観光との関わりを常に考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト

『世界遺産検定公式テキスト』2級または3級、NPO法人世界遺産アカデミー(最新版)

参考図書

『ユネスコ世界遺産年報(各年次)』、平凡社
『死ぬまでに絶対行きたい世界遺産300』 小林克己 PHP

留意事項

新規登録物件、危機遺産など日頃から世界遺産に関するニュースには特に留意する事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光ビジネス実務論 | | | 13434 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

この授業では観光ビジネスの中核をなす3つの業界である旅行業界、ホテル業界、航空業界での実務に必要な基本用語、業界の常識などを解説する。2020年の東京オリンピック控え観光立国を目指すこれからの日本の観光業界で活躍するための観光ビジネスの基礎を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

観光ビジネスの中核の3つの観光関連業界を順に解説する。まず日本の旅行業界について海外旅行、訪日観光などを例に取り上げ、観光業界全体を理解する。次に宿泊業界・航空業界のそれぞれの仕組み、基本業界用語、業務の流れ、業界の常識などを順に学習する。それぞれの業界の実務内容によりテキストやDVDなどの映像も使用し理解を深め、観光ビジネスの基本的な仕事の流れと観光業界の基礎知識を学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. 旅行業の実務Ⅰ 旅行会社の種類と業務
3. 旅行業の実務Ⅱ 旅行商品と旅行業界の基本用語
4. 旅行業の実務Ⅲ 海外旅行市場の現況と流通・販売・実務
5. 旅行業の実務Ⅳ 国内旅行・訪日外国人旅行の現況と実務
6. ホテル業の実務Ⅰ ホテル業界の現況と実務
7. ホテル業の実務Ⅱ ホテル業界の基礎知識
8. ホテル業の実務Ⅲ フロントの実務・業界用語 その1
9. ホテル業の実務Ⅳ フロントの実務・業界用語 その2
10. ホテル業の実務Ⅴ サービス・接遇の実務・業界用語
11. 航空業の実務Ⅰ 航空業界の仕事と基礎知識
12. 航空業の実務Ⅱ 航空業界の近年の動向
13. 航空業の実務Ⅲ 空港での旅客業務の実務と業界用語その1
14. 航空業の実務Ⅳ 空港での旅客業務の実務と業界用語その2
15. 航空業の実務Ⅴ ホスピタリティ産業としての基本的な心構え・まとめ

授業の方法

観光ビジネスの3つの中核となる業界の実務をそれぞれ解説する。学生は課題に対してグループで討論し、発表する時間を取り入れ

る。

準備学修

旅行業界・ホテル業界・航空業界の最新ニュースや新聞記事に日頃から注意をし関心をもつ事。授業予定範囲を予め伝えるので授業前に指定テキスト・参考図書を読み内容を把握して出席する事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

理由のない欠席は1回につき5点減点する。また1つの業界での授業において3回の欠席は履修単位を与えない。その他、学則に準じる。

テキスト

旅行業界は適宜プリントを配布する。
ホテル業界は『ホテルの基本サービス・フロント編』(日本ホテル協会発行)をテキストとする。
航空業界は『エアポートビジネス入門(第2版)』(株)ジェイティービー能力開発

参考図書

『観光概論』・『旅行業概説』(いずれもジェイティービー能力開発)、『よくわかる航空業界』(日本実業出版社)

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つ。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 韓国語入門Ⅰ | | | 13435 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 宋 京珠 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

韓国語入門Ⅰでは、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、習ったことを身につけて実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語についての基本的な説明
（“ハングルで自分の名前を書こう！”）
2. ハングルの基本母音
3. ハングルの基本子音
4. ハングルの合成母音（複合母音）
5. ハングルのパッチム
6. ハングルの基本のまとめ
7. 辞典の引き方、発音変化について、『中間テスト』
8. 第1課：『～は、～です。』
9. 第2課：『～が、～ですか？』
10. 第3課：『～ではありません。～ではありませんか？』
11. 第4課：『います／あります。いません／ありません。』
12. 第5課：『～します／しますか？ 何？』
13. 第6課-1：『へヨ体（します/しますか？/あります/ありません）』
14. 第6課-2：『へヨ体（します/しますか？/あります/ありません）』
15. 授業のまとめ

授業の方法

出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修

テキストの予習

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減される。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 韓国語入門Ⅱ | | | 13436 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 宋 京珠 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

韓国語入門Ⅱでは、同入門Ⅰで学習した内容を踏まえた上で、更に韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高めつつ韓国語と韓国文化への理解を深めることを授業の目標とする。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

学生の自主参加により韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「習った学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語入門Ⅰのまとめ復習、
第7課-1：『ハムニダ体 ～です／ます』(1/2)
2. 第7課-2：『ハムニダ体 ～です／ます』(2/2)
3. 第8課：『へヨ体：～です／ます』、『～しに』
4. 第9課：『へヨ体：～です』、『漢数詞』
5. 第10課：『固有数詞』、『漢数詞と固有数詞の比較練習』
6. 第11課：『尊敬語』、『へヨ体敬語』、『敬語の特殊例』
7. 第12課：『用言の否定形』、『～するといいです』
8. 『中間テスト』、第13課-1：『過去形』(1/2)
9. 第13課-2：『過去形』(2/2)
10. 第14課：『～しましょう／～しよう／何の～』
11. 第15課：『～しています／～してください(1)』
12. 第16課：『～できる／～できない』
13. 第17課：『～したい／～してください(2)』
14. 第18課：『～してもいい／～しないでください』
15. 第19課：『～しなければならない』、『意志表現』
- 第20課：『～と思います／～するつもりです』 『授業のまとめ』

授業の方法

出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修

韓国語入門Ⅰの履修者（または韓国語基礎の学習経験者）、テキストの予習

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減される。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

| | | | | | |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基幹科目〈観光〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 企業研究 | | 13440 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 有村 理／一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。今や世界を代表する企業も多数存在する。社会はグローバルになっていく。企業が生まれ、成長し、発展する。企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、社会を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

授業の概要

企業をより深く知ることから始まる。企業とは何か。企業が生き残るために何が必要なのか。成長分野であるのか。差別化はできているのかなどをポイントに講義は展開される。対象は国内企業である。講義の主な業種はホスピタリティ産業である。同業種や他産業の比較の中で企業の姿を明らかにしていく。企業だけでなく業界研究も講義の内容に含まれる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事例研究:航空業・運輸業などを中心に企業研究
3. 事例研究の発表
4. 事例研究の発表
5. 事例研究の発表
6. 事例研究の発表
7. 事例研究の発表
8. 事例研究・まとめ
9. 事例研究(宿泊業・飲食業などを中心に企業研究
10. 事例研究の発表
11. 事例研究の発表
12. 事例研究の発表
13. 事例研究の発表
14. 事例研究の発表
15. 事例研究・まとめ

授業の方法

企業研究は2名の教員によって行われる。講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はパワーポイントを使いおこなう。

準備学修

新聞をよく読み、社会に関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は平常点に反映する。各教員の3分の1を超えて欠席した場合に評価不能となる。

テキスト

日経業界地図 (日本経済新聞出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp
arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基幹科目〈観光〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 海外ツーリズム研修 | | 13445 | I・II | 集 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 有村 理／一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践し現地での異文化を体験する。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。

このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う。

授業の概要

春休みの1週間を利用して観光先進国であるオーストラリアまたはシンガポール・クアラルンプールを訪ね、自然環境保全型のツーリズムと都市型の観光形態の違いを学び、現地のツーリズムについて実体験する。合わせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源の実地調査などの実務も経験する。

授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3. 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4. 事前研修・グループワークの課題準備 その1
5. 事前研修・グループワークの課題準備 その2
6. 海外実地研修 1日目：関空出発－空港見学・機内サービス体験・第一研修地到着
7. 海外実地研修 2日目：研修地でのホテル研修・JTB支店訪問他
8. 海外実地研修 3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9. 海外実地研修 4日目：第一研修地から第二研修地への移動・途中研修あり
10. 海外実地研修 5日目：研修地でのホテル研修・JTB支店訪問他
11. 海外実地研修 6日目：研修地での日系企業訪問・異文化体験他
12. 海外実地研修 7日目：研修地から帰路の空港見学・機内サービス体験・帰国
13. 現地でのグループワーク事後発表の準備
14. 現地でのグループワーク事後発表
15. まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究し発表する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの現地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。また現地でのグループワーク課題も事前準備する。

課題・評価方法

事前研修への出席・グループワークの準備・研修中の態度・協調性・現地でのグループワーク課題の達成度と事後研修発表などを総合して評価する。

欠席について

参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り不参加はできない。事前研修は参加登録者全員が受講の事。

テキスト

基本はJTB配布資料を参考にする。その他は政府・州観光局ホームページから関連事項をインターネットで調べる。

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

研修中は参加者全員が各自の役割分担に責任を持ちグループ行動が円滑に遂行されるように協力する態度が求められる。旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員の規定が適用される。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 児童文学 | ET | | 13501 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子／箕野 聡子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

(西洋児童文学)児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム(マザーグース)、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。
(福智 佳代子)
(日本児童文学)近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。
(箕野 聡子)

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
6. 有島武郎「一房の葡萄」と岡田淳「学校ウサギをつかまえる」(箕野)
7. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
8. 動物童話とは。歴史童話とは。まとめ。(箕野)
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の世界(福智)
10. エリック・カール「ブラウン・ベア」の絵本の世界(福智)
11. マーク・トウェイン「トムソーヤとハックルベリ・フィン」自由と冒険の世界(福智)
12. ローラ・インガルス・ワイルダー「大草原の小さな家」少女が見た

アメリカ開拓史(福智)

13. ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」(福智)
14. アントワーヌ・ド・サン・テグジュペリ「星の王子様」(福智)
15. ミヒャエル・エンデ「はてしない物語」(福智)

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。

準備学修

作品をあらかじめ読んでおくこと。未読の本関しては、図書館等で借りておくこと。(予習復習にかかる時間：1回の授業につき4時間)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）(福智)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp(箕野)
fukuchi@kasei.ac.jp(福智)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| Cross-cultural Communication | | | 13505 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

Students will develop a sense of Internationality in this course.

授業の概要

Students will have a greater understanding and insight into how different cultures communicate.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Review and Prepare Final Project
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the course material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected

for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Culture by Asako Kajiura and Gregory Goodmacher
Nan'Un Do

| | | | | | | |
|--------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| English/American Culture | | | 13513 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| Kevin MUNSON | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

This course will develop a sense of Internationality.

授業の概要

Students will gain a better understanding and insight into American culture through an analysis of several films in American cinema.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the course material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Will be assigned as needed

| | | | | | | |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 英米文学研究 | | | 13521 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 惣谷 美智子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

対立概念とは、たとえばフランスの文学者ロラン・バルトの言葉を借りれば、「意味のスペクタクル」を展開しうる重要なものであるが、講義においては、「小説」という、もっともポピュラーな文学形態に巧妙に仕組まれた、そうした対比の構造を通して、文学を読み解く方法を学ぶ。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティの I (知性、国際性) と E (倫理) を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『分別と多感』を取り上げて研究する。この小説は、「分別」(sense)をもつ理性的な姉と、「多感」(sensibility) 気質で、感受性の強い妹という、好対照をなす姉妹の恋愛を核にしているが、授業では文学を通して古くて新しいテーマである「理性」と「感情」の対立について、また、自己に誠実に、真摯に生きるとはどのようなことなのか等について考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD、DVDも用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. 総論
2. 「対立」の時代的文化的背景
3. Jane Austen and *Sense and Sensibility*
4. Introduction
5. The language of Jane Austen's time
6. People and places
7. Love or money?
8. The London season
9. Rapid Reading (1) 研究発表
10. Rapid Reading (2) 研究発表
11. Rapid Reading (3) 研究発表
12. Rapid Reading (4) 研究発表
13. オースティンの心理的リアリズム
14. 『分別と多感』の意味
15. まとめ 文学における「対立」の構図

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

講義では、レポート課題もあるので、日ごろから自己表現、日本語表現力を磨いておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen, *Sense and Sensibility* CD付. London: Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

Sense and Sensibility (『分別と多感』) の翻訳書として、現在、入手可能なものは、以下の2点がある。
ジェイン・オースティン『知性と感性』工藤政司訳 (近代文芸社)
ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』真野明裕訳 (キネマ旬報社)
その他の参考図書については、授業で随時、指示する。

留意事項

授業で取り上げる『分別と多感』は、上の「参考図書」に記したような翻訳書があるので、できれば予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 女性と社会 | | | 13525 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

「ジェンダー論」の目標と同様に、ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができるようにする。国内外の社会事象とそこの中に生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

- 1.文化と歴史の中の女性
- 2.女性のライフコース
- 3.女性と教育
- 4.女性と労働・女性のキャリア形成
- 5.女性と結婚・離婚
- 6.女性と出産・子育て
- 7.ワークライフバランス
- 8.女性と暴力
- 9.女性とメディア・表現
- 10.女性と階層
- 11.女性と加齢
- 12.女性と病
- 13.女性とケア
- 14.女性と社会参画・社会政策
- 15.女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

ジェンダーに関する入門書を読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈展開科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| American Studies in U.S.A. | | | 13529 | I | 夏季 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| | 選択 | 4 | | | | |

授業の到達目標

雄大なロッキー山脈のふもとにある緑豊かなアメリカのコロラド州立大学。細かくレベル別に分けられたクラスで英語を徹底的に学ぶ。同時に、寮生活やさまざまなアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。通常授業の中に以下のような内容を含む。
・Conversation Partner：Native speakerの学生をクラスに招き、ディスカッションを行う。
・卒業プロジェクト：グループごとに題材を決め、図書館や街でのリサーチをもとに発表する。

授業の方法

現地教育担当者により、決定される。

準備学修

現地教育担当者により、決定される。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communicationにおける能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

| 展開科目〈展開科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| Australian Studies in Australia | | | 13537 | I | 夏季 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| | 選択 | 4 | | | | |

授業の到達目標

亜熱帯気候で冬も暖かく過ごしやすく、かつ大自然が身近にあるオーストラリアの都市ブリスベンにあるクイーンズランド大学への短期留学により、英語を集中的に学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。希望者を対象に、授業のない金曜の午後にパーティ、ダンスレッスン、スポーツ、美術館訪問などのアクティビティが予定される。また、週末にもビーチ、テーマパークやハイキングへ行く遠足がある。

授業の方法

現地教育担当者により、決定される。

準備学修

現地教育担当者により、決定される。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communicationにおける能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

| 展開科目〈展開科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| Canadian Studies in Canada | | | 13539 | I | 夏季 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| | 選択 | 4 | | | | |

授業の到達目標

留学先はカナダ人の住みたい街第一位に選ばれ続けている、プリティッシュ・コロンビア州ラングレーにあるトリニティ・ウェスタン大学。この大学は語学教育に実績があり、初級から上級まですべてのレベルで学習ができる。また、ボランティア活動など他大学にはないユニークなプログラムも含まれている。のどかな住宅地バーノンにて、カナダ人ファミリー宅に滞在し、カナダの大自然を体験しながら学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通じて実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週15時間の授業、5時間のオーラルプレゼンテーション、5時間のランゲージラボでの自習（インストラクターの補佐あり）、5時間のボランティアワーク。滞在中2回のフィールドトリップ（例：乗馬、農場・産業見学、ハイキング、ホッケー観戦など）が含まれている。

授業の方法

現地教育担当者により、決定される。

準備学修

現地教育担当者により、決定される。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communicationにおける能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

| 展開科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| ビジネス翻訳 | | | 13621 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 榎本 雄三 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

1. 実務翻訳の特徴/翻訳という仕事
2. 英文和訳の基本技術/自然な文章表現
3. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
4. 品詞の転換/無生物主語の処理
5. 順送りの訳、逆送りの訳
6. 分詞構文、関係詞構文、挿入構文
7. 長文の攻略
8. 和文英訳の基本技術/ライティングの3C
9. 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞/前置詞
10. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
11. 長い修飾語の処理
12. 無生物主語構文
13. 英文マニュアルの表現
14. 英文作成時のよくある間違い
15. 翻訳支援ツール(翻訳メモリ/機械翻訳ソフト)

授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。

準備学修

パソコンを用いた文書作成およびインターネット検索ができること。電子メールが使えること。

課題・評価方法

試験を行わず、平常点および最終レポートで評価する。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌などの記事を教材にする。

参考図書

翻訳の布石と定石、岡田信弘、三省堂
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社
技術系英文ライティング教本、中山裕木子、日本工業英語協会

留意事項

ほぼ毎回課題を出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| インターンシップ1（企業） | | | 13631 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理／一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光関連企業（旅行代理店、宿泊業、航空関連企業、ウェディング業、海外インターンシップ他）で就業体験をすることにより自己の適正を知り、職業観を築くことを目的とする。実際の現場経験で仕事、社会を理解する。このクラスではKASISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自律)を養う。

授業の概要

オリエンテーションから始まるインターンシップは事前研修と就業体験からなる。事前研修では外部から招へいする特別講師によるマナーや言葉遣いなど社会人として最低限必要な訓練を実施する。就業体験は夏期（夏休み）に実施される。実施期間はインターンシップ受け入れ先により5日～1か月となる。受講生は事前レポート、日報、事後レポートを提出する。インターンシップ企業はホスピタリティ産業に限定される。

授業計画

1. オリエンテーション(スケジュール、事前レポート、日報、事後レポートの説明他)
2. 業界別受け入れ企業について
3. グループワーク①
4. グループワーク②
5. グループワーク③
6. 学生と受け入れ企業のマッチング
7. 特別講師によるマナー講習Ⅰ(キャリアセンター合同)
8. 特別講師によるマナー講習Ⅱ(キャリアセンター合同)
9. 特別講師によるマナー講習Ⅲ(キャリアセンター合同)
10. 事前レポート提出・直前説明会
11. 企業実習①
12. 企業実習②
13. 企業実習③
14. 企業実習④
15. 企業実習⑤

授業の方法

インターンシップ企業はホスピタリティ産業に限定される。講義の一部でキャリアセンター講座受講の必要が有る。尚、事前講義・事

前レポート・インターンシップ（実習）・事後レポートにて単位認定される。

準備学修

社会常識的なマナーを身につけておくこと。実習先企業についてよく調べておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

事前研修の欠席者は単位認定がなされない。また、インターンシップ先が取り消されることがある。

テキスト

なし

参考図書

会社四季報など

留意事項

インターンシップ先はホスピタリティ産業対象である。事前に登録が必要であり、定員15名。成績及び取り組み姿勢を基準に選考する。ただし、受け入れ先で選考がなされる場合もある。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 くキッズイングリッシュ・教職 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 児童英語教育概論 | | | 13701 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2018年度から段階的に2020年度、小学校英語は教科化される。日本の小学校外国語（英語）教育を担う教員養成が必要とされている。本講義では、多言語・多文化社会となっている世界の外国語教育の現状、言語習得、児童期からの外国語教育のあり方の理論を学び、これからの児童外国語（英語）教育の指導者としての素養を育成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

授業では、これら諸問題に関する適切な文献を読んで、多言語多文化社会における異言語教育の意義と目的を考える。次に、教育現場での実践のあり方をふまえて、児童期からの学習者の特性、児童英語教育のあり方そのもの、児童の特性を活かした授業法の理論と実際を討議できるように指導する。

授業計画

1. ガイダンス
『世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状』(1)
2. プレゼンテーション
『世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状』(2)
3. 児童期における第2言語教育(1)『ことばの習得VS.ことばの学習』(学習者要因、指導者要因)
4. 児童期における第2言語教育(2)
『イマージョン・プログラムとバイリンガル教育』臨界期
5. ディベート(1)『イマージョンプログラムと児童期における第2言語教育のあり方』
6. ディベート(2)『イマージョンプログラムと児童期における第2言語教育のあり方』
7. 児童の特性を活かした授業法(1)『チャンツ・ライム・歌で知る英語のリズム』
8. 児童の特性を活かした授業法(2)『TPR、ゲームを活かした効果的な教授法』
9. 児童が楽しむ英語活動(1)『絵本・物語が育むことばの世界』
10. 児童が楽しむ英語活動(2)『スキット、ロールプレイングで体験することばの使用を楽しむ活動』
11. 児童が楽しむ英語活動(3)『文字を楽しむ指導法』

12. 児童が興味を持って取り組む活動(1)『タスク型、プロジェクト型英語活動』
13. 児童が興味を持って取り組む活動(2)
『クリル学習法とコンテンツ・ベースト・インストラクション研究』
14. 児童期英語教育のゴールと4技能の到達点
15. 評価の在り方 「ポートフォリオ作成」

授業の方法

理論を理解し、ディベート、プレゼンテーションなどで、主体的・創造的に理論を実践に活かす方法を発信する。

準備学修

各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。必ず出席し、討議に参加すること

テキスト

ハンドアウト配布

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 くキッズイングリッシュ・教職 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 英語科教育法 I | | | 13705 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 惣谷 美智子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性、国際性)、E(倫理)を学ぶ。

授業の概要

教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができないといけない。

それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が一方向的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1. Introduction
2. 英語教育の基本問題
3. 英語教育の目的
4. 英語の指導目標
5. 英語教育の環境的要因
6. 学習者の要因
7. 教師の役割とよい教師の条件
8. 言語習得の理論上の諸問題
9. 英語スキルの習得と指導
10. 発音の指導
11. 文字と綴り字の指導
12. 語彙の指導
13. 文法の指導
14. リスニングの指導
15. まとめ

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新編英語科教育法入門』研究社

参考図書

授業時に、随時、指示および紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目〈キッキングリッシュ・教職〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 英語科教育法Ⅱ | | | 13709 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 惣谷 美智子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力に関する知識を深め、指導法の基礎知識を学ぶ。後半は語彙指導・文法のレッスンプランを立て、模擬授業を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性、国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

教師は、生徒が各自もっている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが、重要課題となるが、そうした各教育現場に応じた柔軟な適応能力を養うためには、知識の詰め込みだけでは十分ではない。この授業では、教師から学生への一方的な知識の伝授ではなく、以下の授業計画のリストにある各項目に関して、それぞれに研究テーマを課し、授業中の口頭発表、レポート提出を通して、学生が自発的に英語教育における諸問題に取り組む双方向性の授業を予定している。

授業計画

1. 英語スキルの習得と指導
2. ライティングの指導
3. オーラル・コミュニケーションの指導
4. 指導法の諸問題
5. 英語指導の原理
6. 教材研究と授業の準備
7. 授業案の作成と授業の進め方
8. テストと評価
9. 教育機器の活用
10. ネイティブ・スピーカーの活用
11. 教育実習に向けて
12. Lesson Plan
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新編英語科教育法入門』研究社

参考図書

授業時に、随時、指示および紹介する。

留意事項

- ① 課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。
- ② 課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 英語学概論 | | | 13713 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 服部 幸正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

英語を学習したり教えたりするために、英語についての知識を蓄えることが大切である。つまり、英語の構造やしきみはどのような規則と約束ごとから成り立っているかを知ることである。この授業では、みなさんが今までに蓄積してきた英語の知識を再整理し、さらに深めてもらうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を考え、学生間の協力を勧めてK（思いやり）を養いたい。

授業の概要

英語という“ことば”の諸相について「英語学」の分野で取り扱われる研究領域全般にわたって、次の授業計画に従って講義形式で解説・説明する。

授業計画

1. 英語はいつどのようにイギリスで使われ始めたか：英語の起原
2. 時代の経過と共に英語自体がどのように変容していったか：古期英語 中期英語 近代英語 現代英語
3. 世界の各地に拡散した英語には、それぞれどのような特徴が見られるか：アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、New Englishes など
4. 英語の構造はどのように分析され説明されて来たか：英語の統語論
5. (1) ラテン語文法に基づく規範的伝統文法の考え方
6. (2) アメリカ構造言語学に基づく構造文法の考え方
7. (3) チョムスキー理論に基づく変形生成文法の考え方
8. 以上の他に英語学で取り扱われる研究領域にはどのようなものがあるか。
9. (1) 音韻論の研究領域
10. (2) 形態論の研究領域
11. (3) 意味論の研究領域
12. (4) 語用論の研究領域
13. (5) 文体論の研究領域
14. 200年以上にわたる日本の英語教育はどのように展開されて来たか。
15. 21世紀の日本にとって英語の学習がなぜ必要であり大切なのか。

授業の方法

板書を多用した講義形式の授業である。

準備学修

英語学で使われる専門用語を「英語学辞典」などで調べたことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点は授業への出席状況を中心に評価する。

テキスト

プリント

参考図書

図書館の「英語学辞典」を活用すること。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|-------|------|-----|------|
| キッズ・イングリッシュ I | ET | 13725 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度、小学校英語は教科化される。言語習得の理論から授業法の実践まで、小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した英語教育を担う教員養成が必要とされている。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、
 1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方を熟考し、
 2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズなど基本的な授業法をワークショップ形式で体験、
 3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、秋学期の実習準備をする。
 以上をワークショップで体験し、指導者として教育現場で「授業ができる」資質を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 「年間カリキュラム作成」
2. 『身近にある異文化共生』を取り入れた楽しい小学校英語活動作成法
3. ワークショップ(1)「歌・チャンツ」を取り入れた授業法
4. ワークショップ(2)「歌・チャンツ」プレゼンテーション
5. ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
6. ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
7. ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
8. ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
9. ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
10. ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
11. ワークショップ(9)「絵本、物語を取り入れた授業」を考える
12. ワークショップ(10)「絵本、物語を取り入れた授業」プレゼンテーション
13. ワークショップ(11)「フォニックス、文字を取り入れた授業」を考える

14. ワークショップ(12)「フォニックス、文字を取り入れた授業」プレゼンテーション
15. まとめと評価 「ワークシート・振り返りカード作成」

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

参考図書 「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|-------|------|-----|------|
| キッズ・イングリッシュ II | ET | 13729 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創りを考え、模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「活動案作成のポイント」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「活動案発表」
4. 小学校英語活動 観察
5. 実習授業活動案作成(1)「教材研究」
6. 実習授業活動案作成(2)「教具作成」
7. 実習授業活動案作成(3)「評価の観点と振り返りカード作成」
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 小学校英語活動 実習体験 (1)
10. 実習授業活動案作成(4)「教材研究」
11. 実習授業活動案作成(5)「教具作成」
12. 実習授業活動案作成(6)「評価の観点と振り返りカード作成」
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 小学校英語活動 実習体験 (2)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援に実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|-------|------|-----|------|
| キッズ・イングリッシュⅢ (実習) | | 13733 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業で練習した後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した小学校英語活動を、幼稚園・小学校現場で出前授業の形で授業体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語学とは何かを体系的に考える。

実習計画

- ①実習する授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。
- ②作成した授業案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。
- ③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。
- ④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1. 小学校英語活動実習授業計画作成と教材研究
2. 第1回 小学校英語活動実習授業活動案作成
3. 第1回 小学校英語活動実習授業準備
4. 第1回 小学校英語活動実習体験模擬授業
5. 第1回 小学校英語活動実習体験
6. 第2回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
7. 第2回 小学校英語活動実習体験模擬授業
8. 第2回 小学校英語活動実習体験
9. 第3回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
10. 第3回 小学校英語活動実習体験模擬授業
11. 第3回 小学校英語活動実習体験
12. 第4回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
13. 第4回 小学校英語活動実習体験模擬授業
14. 第4回 小学校英語活動実習体験
15. まとめ 授業評価の在り方

「授業、評価目標と評価の一体化」

授業の方法

理論、ワークショップでの授業法体験を活かし、自らが活動案を作成、実際小学校現場での英語活動を支援する。

準備学修

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂
アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 英語科教育法Ⅲ | | 13737 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 小野 礼子／吉野 美智子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

英語教育の第1目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法～ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
5. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(1)
6. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(2)
7. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(3)
8. 授業の準備、学習指導案の作成
9. 授業の工夫(1) : Warm-upとreview、文法・文型の導入
10. 授業の工夫(2) : 文法・文型の練習と発展活動
11. 授業の工夫(3) : 語彙の導入と指導、本文の読解指導
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学修

- ・ 次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ・ 中学校、高等学校、大学で習った文法を復習し、常に文法力の向上に努めること。
- ・ 中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
土屋澄男(編著)他『新編 英語科教育入門』(研究社)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・ 平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
- ・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけでなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp(小野 礼子)
yoshino@kaisei.ac.jp(吉野 美智子)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 くキッズイングリッシュ・教職 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 英語科教育法Ⅳ | | | 13741 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 小野 礼子／吉野 美智子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語科教育法Ⅰ～Ⅲで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1):1時間の授業の流れ(中学校)
3. 模擬授業の準備(2):1時間の授業の流れ(高等学校)
4. 模擬授業の準備(3):教科書全体の構成、扱う単元の教材研究
5. 模擬授業の準備(4):授業の構成と学習指導案の作成
6. 模擬授業の準備(5):授業における各活動の目的と工夫1
7. 模擬授業の準備(6):授業における各活動の目的と工夫2
8. 評価とテスト (Evaluation and testing)
9. 模擬授業と授業観察(1)
10. 模擬授業と授業観察(2)
11. 模擬授業と授業観察(3)
12. 模擬授業と授業観察(4)
13. 模擬授業と授業観察(5)
14. 模擬授業と授業観察(6)
15. 模擬授業の総括、教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業、ディスカッションを中心とする。

準備学修

1 単元分の学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業（各自2回

程度）を行うための準備（教材研究、教具の作成、授業の練習等）をすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
土屋澄男（編著）他『新編 英語科教育法入門』（研究社）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、ワークシート、出席状況、日頃の学習態度を規準にして行う。
・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp(小野 礼子)
yoshino@kaisei.ac.jp(吉野 美智子)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 くキッズイングリッシュ・教職 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 外国語教授法 | | | 13745 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。同時に、小学校英語教科化から発展する中学校・高校での授業法改革及びゴールの設定が発表されている。本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への連携が図れる外国語「教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使えない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か？ 本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

授業計画

1. 外国語教授法の歴史
2. 教授法の理論的背景と現代的意義(1)[Grammar-translation Method]
3. 教授法の理論的背景と現代的意義(2)[Oral Method][Oral Approach]
4. ディベート(1) 授業法
5. 教授法の理論的背景と現代的意義(3) [Natural Approach]
6. 教授法の理論的背景と現代的意義(4) [Communicative Approach]
7. 教授法の理論的背景と現代的意義(5) [Task-Based Language Teaching]
8. 教授法の理論的背景と現代的意義(6) [CLIL]
9. ディベート(2)[指導法]
10. 英語教師の資質と能力「効果的な外国語教授法における指導者要因」
11. 学習者の特質「効果的な外国語学習者における学習者要因」
12. 4技能の自然な習得を目指した小中連携の授業案作成
13. 模擬授業と評価 (2)

14. 指導・授業・評価の一体化
15. ディベート(3)『小中連携—小学校英語活動と中学校英語教育』

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学修

テキストは読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、模擬授業などプレゼンテーションを行い、評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育のフロンティア ―充実した実践を目指して― 青木昭六
ISBN978-4-905493-03-7

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

留意事項

参考図書、参考文献をあらかじめ読んでおくこと

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|-----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| TOEIC/TOEFL入門 1 | a | | 13806 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 和泉 有香 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標
 TOEIC(R)テスト400点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
 到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。小テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、Pre-test
2. UNIT 1 Shopping、小テスト1
3. UNIT 2 Daily Life、小テスト2
4. UNIT 3 Transportation、小テスト3
5. UNIT 4 Jobs 小テスト4
6. UNIT 5 Meals、小テスト5
7. 復習、小テスト6
8. UNIT 6 Communication、小テスト7
9. UNIT 7 Fun、小テスト8
10. UNIT 8 Office Work、小テスト9
11. Unit 9 Meeting、小テスト10
12. Unit 10 Travel、小テスト11
13. Unit 11 Finance、小テスト12
14. Post-Test、総まとめ、小テスト13
15. まとめ

授業の方法
 問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修
 Vocabulary Building部分の下調べと小テストのための暗記

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト
 FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition (センゲージ)

参考図書
 授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項
 英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

| | | | | | | |
|-----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| TOEIC/TOEFL入門 1 | b | | 13806 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 入江 和子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標
 TOEIC(R)スコア400点到達を目指す。そのために英文を「聞く、読む、解答する」量と速さに慣れてTOEIC特有の設問への取り組み方や学習のコツを身につける。またTOEFL受験の基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
 各章ごとに設定されたビジネスシーンにおいてテーマとなる基本的な重要語句を習得して語彙力を鍛え、文法事項を学習して確認問題で理解の定着を図る。TOEIC形式の問題に挑戦しながら出題傾向やスピード感に慣れ、文脈の中で必須の単熟語・フレーズ、ビジネスタームの活用法を身につけていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. Introduction, Pre-test
2. Unit1 Shopping - 動詞
3. Unit2 Daily Life - 名詞
4. Unit3 Transportation - 代名詞
5. Unit4 Jobs - 形容詞と副詞
6. Unit5 Meals - 時制
7. Unit6 Communication - 受動態・分詞
8. Review, Mid-test
9. Unit7 Fun - 動名詞、不定詞
10. Unit8 Office Work - 助動詞
11. Unit9 Meeting - 比較
12. Unit10 Travel - 前置詞
13. Unit11 Finance - 接続詞
14. Unit12 Business - 関係詞
15. Review, Post-test

授業の方法
 問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心となる。

準備学修
 小テストの準備と指示された課題に取り組む。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト
 First Time Trainer for the TOEIC Test Cengage Learning

参考図書
 授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項
 ・テキスト付属CDを用いて確実に復習すること ・英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| TOEIC/TOEFL入門 2 | a | | 13807 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語と読解力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- Unit 1: Travel /時制①
- Unit 2: Dining Out/時制②
- Unit 3: Media/能動態・受動態
- Unit 4: Entertainment/動名詞・不定詞
- Unit 5: Purchasing/代名詞①
- Unit 6: Clients/代名詞②・品詞①
- Unit 7: Recruiting/品詞②
- Unit 8: Personnel/品詞③
- Unit 9: Advertising/比較
- Unit 10: Meetings/前置詞
- Unit 11: Finance/接続詞・時制③
- Unit 12: Offices/代名詞③
- Unit 13: Daily Life/関係代名詞
- Unit 14: Sales&Marketing/語彙①
- まとめ

授業の方法

予習部分の解説と問題演習が中心となる。

準備学修

授業の復習、授業中に指示された課題をしっかりとこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST, 金星堂

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

- ・テキスト付属CD/ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。
- ・毎回、英和辞書を必ず持参すること。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| TOEIC/TOEFL入門 2 | b | | 13807 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 入江 和子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

TOEIC(R)スコア500点到達を目指す。そのために必要な語彙力、文法力、読解力を向上させ、問題への取り組み方や学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、TOEIC必須語彙や文法事項を身につけていく。TOEIC形式の演習問題を組み入れ、頻出の場面設定や文書ごとの語彙や言い回しの習熟を図り、リスニング・セクション、リーディング・セクションの基礎知識を確かなものにしていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- Introduction, Pre-test
- Unit1: 予定—動詞・5文型
- Unit2: 数量をたずねる—名詞
- Unit3: 命令—形容詞・副詞
- Unit4: 広告・宣伝—フレーズリーディング
- Unit5: 時間をたずねる—動名詞
- Unit6: 場所をたずねる—不定詞
- Review, Mid-test
- Unit7: 確認—分詞
- Unit8: 説明—スキミング
- Unit9: アドバイス—受動態
- Unit10: 誘い—比較
- Unit11: 申し出—関係詞
- Unit12: 講演者紹介—スキミング
- Review, Post-test

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心となる。

準備学修

小テストの準備と授業中に指示された課題に取り組む。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

The TOEIC Test Trainer Target 470 Cengage Learning

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

- ・テキスト付属CDを用いて確実に復習すること
- ・英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教職概論 (初等) | | | 13809 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

教職の意義と役割を理解する。また、学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例から、学校教育に期待される様々な役割や今後の教員に求められる資質能力などについて学ぶ。そして、教職に就くための自らの適性と課題を見出すことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA (自律)とI (知性)を養う。

授業の概要

教職や学校教育について講義する。また、社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、ディスカッションや発表の機会をもつ。そして、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教職の意義
- 3.教員の歴史
- 4.教員の身分と服務義務
- 5.教員の職務内容とカリキュラム
- 6.学校の組織と運営
- 7.教員のライフステージと研修制度
- 8.国際化・情報化と教師の役割
- 9.学校における社会体験とキャリア教育
- 10.様々な問題行動とカウンセリングマインド
- 11.特別支援教育の推進
- 12.人権教育の推進
- 13.防災・安全教育の推進
- 14.学校・家庭・地域社会の連携と役割
- 15.今後の教員に求められる資質能力

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートや小テストにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された部分のテキストを事前に読んで理解したり、教育・子ども関連の情報を収集したりすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育心理学 | ET | | 13813 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

主に幼児期、児童期における乗り越えるべき課題を、心理学的な切り口で捉えて活路を見出そうとする。教育課程上の様々な場面への有効な心理学的なアプローチを理解する。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性や特別支援教育等の現場の実際と課題の概略を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI (知性)とE (倫理)をめざす。

授業の概要

ほめて育てることが大切だと言われるが、「本当にそうなのか」とまず自分で考える。自分の考えの背景となる根拠・理由を話せるようにを努力する。さらに対人専門職をめざす学生が、子どもとの関係づくりのコツを理解することで、子どもにより良い支援や理解ができるようになることをめざす。

授業計画

- 1.「小さなできる」から「やる気」を育てる
- 2.質的な「子どもと向き合う時間」を創る知恵
- 3.保護者連携の勘所
- 4.勤務の適正化と多忙感の緩和
- 5.学習の効果的な方法と支援の在り方
- 6.人間の発達について考える その1 発達段階
- 7.人間の発達について考える その2 遺伝と家庭環境
- 8.人間関係づくり 1 構成的グループエンカウンター等
- 9.人間関係づくり 2 文章完成法演習
- 10.人間関係づくり 3 リフレーミング
- 11.人格発達の多様な視点 エリクソンの発達段階 1
- 12.人格発達の多様な視点 エリクソンの発達段階 2
- 13.人格発達の多様な視点 エリクソンの発達段階 3
- 14.カウンセリング技法その1クライアントとの距離
- 15.カウンセリング技法その2教育現場で生かせるカウンセリング技法

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持つておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| TOEIC/TOEFL 1 | ET | | 13822 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 和泉 有香 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST1使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策
2. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト1
3. Part2対策、Part5対策/単語テスト2
4. Part3対策、Part5対策/単語テスト3
5. Part3対策、Part7(2つの文書)対策/単語テスト4
6. Part4対策、Part6対策/単語テスト5
7. Part4対策、Part6対策/単語テスト6
8. 【TEST2使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト7
9. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト8
10. Part2対策、Part5対策/単語テスト9
11. Part3対策、Part5対策/単語テスト10
12. Part3対策、Part7(2つの文書)対策/単語テスト11
13. Part4対策、Part6対策/単語テスト12
14. Part4対策、Part6対策/単語テスト13
15. Part7(2つの文書)対策/単語テスト14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC(R)テスト公式問題集 新形式問題対応編 (IIBC)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| TOEIC/TOEFL 2 | ET | | 13823 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 和泉 有香 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト600点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST1使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策
2. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト1
3. Part2対策、Part5対策/単語テスト2
4. Part3対策、Part5対策/単語テスト3
5. Part3対策、Part7(複数文書)対策/単語テスト4
6. Part4対策、Part6対策/単語テスト5
7. Part4対策、Part6対策/単語テスト6
8. 【TEST2使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト7
9. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト8
10. Part2対策、Part5対策/単語テスト9
11. Part3対策、Part5対策/単語テスト10
12. Part3対策、Part7(複数文書)対策/単語テスト11
13. Part4対策、Part6対策/単語テスト12
14. Part4対策、Part6対策/単語テスト13
15. Part7(複数文書)対策/単語テスト14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC Listening & Reading問題集1 (IIBC)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

| | | | | | |
|---------------------|------|-------|------|-----|------|
| 資格科目 くキッズイングリッシュ・教職 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 道徳教育指導論 (中等) | 教職中等 | 13829 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 堀 正人 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標
 道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ(知性)を養い、プレゼン等の過程でK(思いやり)の諸能力を生かす。

授業の概要
 レジュメを中心に教科書「学習指導要領解説(道徳編)」を参考資料に授業を進める。道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

1. はじめに・道徳教育の基礎理論
2. 道徳教育の歴史Ⅰ(江戸～明治～戦前)
3. 道徳教育の歴史Ⅱ(戦後～現代)
4. 道徳教育の目標について
5. 道徳教育と教育課程の関連について
6. 生徒の心理と道徳教育の関わり
7. 学校における道徳教育指導体制
8. 道徳教育の指導計画について
9. 道徳教育指導法Ⅰ(内容項目の詳細)
10. 道徳教育指導法Ⅱ(指導案の書き方)
11. 道徳教育指導法Ⅲ(ロールプレイ)
12. 保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
13. 中学校・高等学校における道徳教育
14. 諸外国の道徳教育事情
15. 道徳教育の今日的な課題・課題テスト

授業の方法
 レジュメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修
 過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 やむをえず欠席する時は事前事後に届けること。

テキスト
 文部科学省編「中学校学習指導要領解説(道徳編)」日本文教出版

留意事項
 授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成してもらう。

| | | | | | |
|----------------|-----|-------|------|-----|------|
| 展開科目 く英語・言語・文化 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 比較文化論 | | 13830 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標
 異文化を理解し自文化が発信できる人材の育成を目指す。ヨーロッパ、中東、アラブ諸国での紛争、難民問題、日本経済社会情勢など、日本を取り巻く国際社会は厳しさを増している。世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。過去から現在に至る時間軸での比較文化理解力と多文化間の比較文化理解力を身につけたグローバル人材の育成を目指す。
 このクラスではKAISEIパーソナリティのI(国際性)を身につける。

授業の概要
 本授業では、古今東西の日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的・風土的経緯、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

1. 比較文化論「身近にある異文化理解と自文化不理解」
2. 歴史的比較文化(1) ルイス・フロイスがみた日本と西洋(1)
3. 歴史的比較文化(2) 「衣」文化比較「民族衣装と風土」
4. 歴史的・風土的比較文化(3) 「食」文化比較「小麦文化と米文化」
5. プレゼンテーション(1)「食文化」
6. 歴史的・風土的比較文化(4)「住」文化比較「日本の住居、西洋の住居」
7. 歴史的・風土的比較文化(5)「住と自然」文化比較「日本の庭・西洋の庭が示す自然観」
8. 歴史的・風土的比較文化(6)「風呂とトイレと香りと化粧」文化比較
9. プレゼンテーション(2)「旅文化」
10. 古今東西文化比較(1)「教育」
11. 古今東西文化比較(2)「宗教・歴史」
12. 古今東西文化比較(3)「芸能・音楽・文学」
13. 現代文化比較「結婚と葬式」
14. プレゼンテーション(3)比較文化課題発表
15. プレゼンテーション(3)比較文化課題発表

授業の方法
 講義とプレゼンテーションによる参加型授業

準備学修
 プレゼンテーションのパワーポイントを作成する

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 規定通り。参加型の授業を行うので欠席しないこと

テキスト
 比較文化論 山口 修、齋藤和枝 世界思想社

教員連絡先
 fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| ホスピタリティ・マネジメント | | | 13831 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。ホスピタリティ産業では形のない商品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティの原点を理解し、どのように実践すればホスピタリティが顧客の購買意欲に結びつくのかを理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

ホスピタリティとサービスの違いを語源に遡り学ぶ。ホスピタリティマネジメントを実践する企業を事例に取り上げその本質を解説する。理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのか、企業のコア・コンピタンスを探る。特に、宿泊産業(ホテル・旅館)やテーマパークの成功の秘密を紐解く。それ以外にも注目すべき企業体の事例を取り上げる。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティとサービス
3. 野球部女子マネージャーのマネジメント
4. マーケティング戦略・製品特性
5. マーケティング戦略・マーケティングミックス
6. おとぎの国のマネジメント(ディズニールンドの秘密)
7. 日本を代表する2つのホテルマネジメント手法(帝国ホテル・ホテルオークラ)
8. 世界に名声を残すホテルマネジメント手法(マリオット・リッツカールトン)
9. 「星野リゾート」の戦略
10. 「加賀屋」のマネジメント(プロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略を学ぶ)
11. ホスピタリティと企業戦略(グループワーク)
12. ホスピタリティと企業戦略(グループワーク)
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

授業の方法

講義と事例研究を中心に行われる。講義ではDVDやグループワークを取り入れ、意見交換や発表をおこなう

準備学修

ホスピタリティに関する書籍を講読すること。また、テキストを事前に一読すること。日経新聞の読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席者は減点対象とする。

参考図書

適宜紹介

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| ビジネス中国語 | | | 13832 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 王 嫣 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。

授業の概要

中国語学習の中に一番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろんな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲覚えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画

1. (発音練習) 第1課、どうぞよろしく
2. (発音練習) 第1課、どうぞよろしく
3. (発音練習) 第2課、到着ロビーで
4. (発音練習) 第2課、到着ロビーで
5. (発音練習) 第3課、明日のスケジュール
6. (単語練習) 第3課、明日のスケジュール
7. (単語練習) 第4課、喫茶店で
8. (単語練習) 第4課、喫茶店で
9. (単語練習) 第5課、コンビニで買い物
10. (単語練習) 第5課、コンビニで買い物
11. (検定試験問題の指導) 第6課、電子辞書がほしい
12. (検定試験問題の指導) 第6課、電子辞書がほしい
13. (復習) 第7課、自己紹介
14. (復習) 第7課、自己紹介
15. (復習) 定期試験

授業の方法

まずは発音の指導を行う。次は語彙、文法と文型の説明をする。最後に読む練習と話す練習を行う。

準備学修

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「1冊目の中国語(購読クラス)」 劉穎、喜多山幸子、松田かの子著、白水社

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光マーケティング論 | | | 13833 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

マーケティングとは何か。現代社会はマーケティングの中で生活しているといっても過言ではない。観光マーケティング論では観光の商品特性を理解し多角的に考察する。商品の差別化、価格設定の意味、顧客と従業員そして経営者との関係など。講義を通して基本的なマーケティングの理解と他産業と異なる観光産業への理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

観光マーケティング論ではマーケティングの基礎から学ぶ。その上でホスピタリティ&ツーリズム産業の戦略を事例で紹介する。マクドナルドは商品を一定時間が過ぎると廃棄していた。しかし、マクドナルドはそのスタイルを変えた、何故？スターバックスの居心地の良さとの関係は？日本進出が続く外資ホテル、その戦略は。グローバルの世界戦略に動く観光産業のビジネスモデルを理解する。観光の今を、学生の日常の体験を踏まえながら、講義は進められる。

授業計画

1. ガイダンス…何を学ぶのか
2. マーケティングとは
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システム
7. マーケティングリサーチ
8. 市場細分化
9. ターゲット設定
10. ポジショニング
11. マーケティングミックス(製品)
12. マーケティングミックス(価格)
13. マーケティングミックス(流通)
14. マーケティングミックス(プロモーション)
15. まとめ

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読み、レポートすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

なし。資料配布します。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング(ピアソン・エデュケーション) /コトラーのマーケティング講義(ダイヤモンド社)

留意事項

基礎科目の観光概論、観光事業論を履修する事。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 宿泊事業論 | | | 13835 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 一尾 敏正 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

我が国の新国家戦略に位置づけられたのは観光立国である。この観光立国の中心となる産業が宿泊産業である。宿の誕生から現代のホテル産業までを理解する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を学ぶ。このクラスはKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

宿泊産業の歴史から始まる本講座は「宿」からグランドホテル時代、近代産業としてのホテル業へとすすむ。次に現代ホテル産業の組織及び現実経営など多角的分野の講義がなされる。宿泊産業の収益構造やマネジメントなどを中心として講義される。宿泊産業の入門講座である。

授業計画

1. ガイダンス…観光業における宿泊産業
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊業におけるカテゴリー
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. パンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが、課題等でのディスカッションも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」

を読むこと。
事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席はマイナス評価とする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎「基本ホテル経営教本」柴田書店

参考図書

適宜紹介

留意事項

観光における中心的な産業は宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠な分野を理解することは重要である。観光マーケティング論を履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 航空ツーリズム論 | | | 13836 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 有村 理 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

空の規制緩和がオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化した。昨年からは昼間の長距離路線も拡大し一層便利になっている。また2012年から参入してきた国内LCCもかなり定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなくアジアの国からの訪日観光客の利用も急増している。グローバル化を進める3大アライアンスの競争も注目しながら、政府の2020年の訪日客4000万人の目標に向けて、ツーリズム産業の中核をなす航空業界の全体の動きと現代のツーリズムとの相関性を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まずは社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主だった歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムを飛躍的に発展させたキーワードになる「オープンスカイ政策」から世界の航空業界の動きをアメリカ、ヨーロッパ、アジアと日本でそれぞれ考察する。その上で世界のグローバルアライアンスとLCCの発展の動向を調べ、航空業界の現状を把握する。他には国際ハブ空港の競争、航空機の進化、地球環境対策とツーリズムの関係も考察する。2020年の訪日観光客4000万人達成の目標に向け日本が観光立国を目指す中で航空ツーリズムを考える。

授業計画

1. ガイダンス・航空業界用語について
2. 社会基盤としての航空事業
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和と新規航空会社
7. 世界のLCC その1
8. 世界のLCC その2
9. 日本のLCC
10. アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
11. 世界の国際ハブ空港の競争
12. グローバルアライアンス
13. JALとANA

14. 航空機の進化とツーリズム
15. 航空業界の地球環境対策・まとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

航空業界の用語集を初回にまとめて配布し授業で1ページごとに確認していくので、毎回必ず予習して出席する事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。適宜プリントを配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門』（株）ANA総合研究所
『日本の空を問う』 伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光文化地理論 | | | 13838 | I | 春 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 釜須 久夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光と文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自立)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、太平洋の島、中東、アフリカ等に分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時に地図、写真、動画などのビジュアル資料から現地情報を学習する。

授業計画

1. [世界の地勢] 1. 大陸と太平洋 2. 各地域の地勢
2. [アジア] 韓国 台湾 中国
3. [アジア] 香港 マカオ フィリピン
4. [アジア] ベトナム カンボジア マレーシア
5. [アジア] シンガポール インドネシア タイ インド ネパール
6. [ヨーロッパ] イギリス オランダ ベルギー
7. [ヨーロッパ] 北欧4国 ドイツ
8. [ヨーロッパ] スイス オーストリア フランス
9. [ヨーロッパ] イタリア スペイン ポルトガル ギリシャ
10. [ヨーロッパ] チェコ ハンガリー ポーランド ロシア連邦
11. [南北アメリカ] アメリカ ハワイ
12. [南北アメリカ] カナダ メキシコ キューバ パハマ ベルギー ブラジル アルゼンチン
13. [オセアニア 太平洋の島] オーストラリア ニューゼaland グアム サイパン 南太平洋の島々
14. [中東 アフリカ] トルコ イスラエル エジプト ケニア タンザニア
15. [総括] 世界の都市・観光 祭り イベント 伝統工芸

授業の方法

学習内容とリンクして、関連サイト（地図、写真、動画）などのビジュアル資料を通して現地情報を学習する。

準備学修

事前に指示された個所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

『すぐに役立つ海外旅行地理ベーシック400』 JTB総合研究所

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| WEBトラベルプレゼンテーション | | | 13839 | Ⅲ | 秋 | 30 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 釜須 久夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

旅行関連やサービス業のホームページの分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を習得する。また実習では理想的なWEBプレゼンテーションと役に立つプレゼンテーションのテクニックを養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自立)とI(知性)を養う。

授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件と専門知識を学び、実習でテーマに基づいた企画書、目録表、パンフレットなどの作成作業や発表等のプレゼンテーションを通して、効果的な作成方法や発表のテクニックを学ぶ。

授業計画

1. WEBトラベル・プレゼンテーション概要(テーマの説明と内容の紹介)
2. 旅行業界のホームページやブログの分析
3. WEBプレゼンテーションの基本条件(テーマ・イメージ・キーワード)
4. WEBプレゼンテーションの基本条件(ページレイアウトとデザイン制作フロー)
5. WEBプレゼンテーションの基本条件(運用・維持・管理)
6. ブログ、メールマガジン、SNSの活用
7. プレゼン資料(企画書、パンフレット等)の作成と発表のポイント
8. WEBプレゼンテーション実習(1)
9. WEBプレゼンテーション実習(2)
10. WEBプレゼンテーション実習(3)
11. WEBプレゼンテーション実習(4)
12. WEBプレゼンテーション実習(5)
13. WEBプレゼンテーション実習(6)
14. WEBプレゼンテーション実習(7)
15. 総括 理想的なWEBプレゼンテーション

授業の方法

講義と小テスト、プレゼンテーションの資料作成と発表等の実習を中心とする。

準備学修

事前に指示された個所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

止むを得ない事情を除いて、欠席は認めない。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

| 展開科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 神戸学 | | | 13841 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 箕野 聡子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値にも注目するため、各自神戸の「まち歩き」をプランし、神戸への理解を深める。

授業計画

1. 西求塚古墳 森嶋外「生田川」
二人の男に愛された処女
2. 王子公園 横光利一「灘にいたころ」/岡部伊都子「ザークの孤独」
癒される孤独
3. 異人館通り 宮本輝「花の降る午後」
戦争を乗り越えた外国人たち
4. トーアロード 稲垣足穂「星を造る人」
元町 マジック!
5. 元町大通り 堀辰雄「旅の絵」
東京からのお客様をご案内
6. 小磯良平美術館 竹中郁「黄蜂と花粉」
神戸から旅立つ画家たち フランスへ
7. 神戸海洋博物館 久坂葉子「ドミノのお告げ」
カワサキワールド
8. 新開地 横溝正史「虹のある風景」
偽物のお嬢様
9. 祥福寺 夏目漱石「夢十夜」
臨濟宗の寺
10. 兵庫県中央労働センター玄関前庭(旧居跡) 小泉八雲「怪談」
居留地で活動する外国人
11. 海外移住と文化の交流センター 石川達三「蒼氓」
神戸から旅立つ移民たち ブラジルへ
12. 神戸市立博物館 玉岡かおる「お家さん」
世界を掴んだ鈴木商店
13. 神戸高校からの坂道 村上春樹「ノルウェイの森」

埋め立てられた海岸線

14. 私が作る「まち歩き」発表

15. 私が作る「まち歩き」発表

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自がプランした「まち歩き」についての発表と、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

「まち歩き」プランを作るには、事前にそのまちを実際に歩いておく必要がある。安全性も含めて検討するには、何度も繰り返し歩いて見る必要がある。(予習復習にかかる時間: 1回の授業につき4時間)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光英検3級 | | | 13845 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 國本 恵理香 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

観光英語検定試験3級を受験する際に必要となる語彙・文法を確認しながら、読解・リスニング力を深めるために資格取得に向けた演習を行う。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのIn（国際性）を養う。

授業の概要

毎回、基本的に一つのユニットを行い、様々な場面での専門用語の習得を目指す。試験に合格するための対策として観光英検3級の問題演習も随時採り入れながら、観光・旅行に必要な英語表現と語彙を半期でマスターすることを目標とする。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Travel
3. Unit 2 Jobs and People
4. Unit 3 Getting on the Plane
5. Unit 4 At the Immigration and Customs
6. Unit 5 At the Airport
7. Unit 6 Hotel(Accommodations)
8. Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food)
9. Unit 8 Sightseeing
10. Unit 9 Shopping
11. Unit 10 Transportation
12. Unit 11 Problems and Complaints
13. Traveling in Japan 1 空港からホテルへ
14. Traveling in Japan 2 旅館と食事
15. Traveling in Japan 3 移動手段—新幹線とタクシー

授業の方法

毎回、一つのユニットの演習問題を行う。

準備学修

毎回1時間必ず指示された箇所の予習または配布する過去問題をしていくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする。

テキスト

English for Tourism Basic, Sanshusha

参考図書

山口百々男著 全国語学ビジネス観光教育協会編『観光英検3級の過去問題 解答と解説』三修社

留意事項

英語辞書必携。

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光英検2級 | | | 13846 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 入江 和子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

英語の一般的能力だけでなく、観光・旅行分野の英語力を身につけ、観光英語検定試験2級の取得を目指す。このクラスではKAISEI パーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業では国際人としての高い英語力が求められている。授業では、その基本ともいべき旅行や観光に関連する専門用語や独特の表現などを習得する。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら筆記とリスニング両面から観光英検2級対策を行う。

授業計画

1. オリエンテーション、観光英語キーワード演習 1
2. 観光英語キーワード演習 2、観光英検 2 級(観光用語)
3. 観光英語キーワード演習 3、観光英検 2 級(写真説明)
4. 観光英語キーワード演習 4、観光英検 2 級(英語コミュニケーション)
5. 観光英語キーワード演習 5、観光英検 2 級(イラスト説明)
6. 観光英語キーワード演習 6、観光英検 2 級(英文構成)
7. 観光英語キーワード演習 7、観光英検 2 級(英語コミュニケーション)
8. 観光英語キーワード演習 8、観光英検 2 級(英文読解)
9. 観光英語キーワード演習 9、観光英検 2 級(状況把握)
10. 観光英語キーワード演習 10、観光英検 2 級(海外・国内の観光と文化)
11. 観光英検 2 級(観光・旅行事情)
12. 観光英検過去問 2 級
13. 観光英検過去問 2 級
14. 観光英検過去問 1 級
15. 観光英検過去問 1 級

授業の方法

実践演習、解説を中心に行う。

準備学修

6月25日の受験日を目指し、指示された課題は必ず仕上げていくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編『観光英語検定試験 問題と解説 2級』研究社、他にハンドアウトを配布する。

参考図書

全国語学ビジネス観光教育協会観光英検センター編『観光のための初級英単語と用例—観光英検3級～2級対応』三修社。

留意事項

受講者は、英検準2級/2級取得者を対象とする。

| 資格科目〈英語・観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 観光英検 1 級 | | | 13847 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 入江 和子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

観光・旅行業に必要な実務英語力とコミュニケーション能力を身につけ、観光英語検定試験1級の取得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業に必要な不可欠な国際人としての英語力全般を高め、専門用語・表現に習熟して具体的かつ実践的な対応力を養っていく。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら観光英検 1 級対策を行う。

授業計画

1. オリエンテーション、観光英語キーワード演習 1
2. 観光英語キーワード演習 2、観光英検過去問1級
3. 観光英語キーワード演習 3、観光英検過去問1級
4. 観光英語キーワード演習 4、観光英検過去問1級
5. 観光英語キーワード演習 5、観光英検過去問1級
6. 観光英語キーワード演習 6、観光英検過去問1級
7. 観光英語キーワード演習 7、観光英検過去問1級
8. 観光英検過去問1級
9. 観光英検過去問1級
10. 観光英検過去問1級
11. 観光英検過去問1級
12. 観光英検過去問1級
13. 観光英検過去問1級
14. 観光英検過去問1級
15. 観光英検過去問1級

授業の方法

実践演習問題、解説を中心に行う。

準備学修

10月29日に行われる試験を目標に、与えられた課題は必ず仕上げる。また平日頃、世界の国々の文化や歴史・地理に関連する書籍に目を通して知識を広めておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編集・発行『第32回観光英語検定試験1級解説書』、他にハンドアウトを配布する。

参考図書

山口百々男著 全国語学ビジネス観光教育協会編『観光のための中級英単語と用例一観光英検2級～1級対応一』三修社

留意事項

観光英語検定試験2級取得者、および英語検定準1級/1級取得者を対象とする。

| 資格科目〈キッズイングリッシュ・教職〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育課程論 | ET | | 13850 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 堀 正人 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

我が国の学校の教育課程は学習指導要領で基準が定められている。これを学ぶことによってカリキュラムの仕組みと編成の方法を知る。この講義ではKAISEIパーソナリティI（知性）を養い、自ら考察した教育課程をプレゼンテーションする過程でA（発信力）を習得する。

授業の概要

教育課程の原理を学ぶ中で、公的な性格を有する学習指導要領の意義を考察する。その歴史的な変遷や諸外国との比較をしながら現行の特徴や各時代の改訂の意図を考察する。最後に教育課程の模擬編成も試みる。

授業計画

1. 教育課程とは
2. 教育課程に関する法制度について
3. 教育課程の歴史Ⅰ（明治～戦前）
4. 教育課程の歴史Ⅱ（戦後～現代）
5. 幼稚園・小学校における教育課程
6. 中学校における教育課程
7. 高等学校・特別支援学校における教育課程
8. 総合的な学習の時間と教育課程
9. 教育課程の編成と学校教育評価について
10. 学校種間の連携と教育課程との関連
11. 地域社会との連携と教育課程の関連
12. 諸外国の教育課程（欧・米）
13. 諸外国の教育課程（中・韓）、教育課程の模擬編成
14. 模擬教育課程のプレゼンテーション
15. 未来の学校教育における教育課程の考察、課題テスト

授業の方法

レジュメに従って授業を行い、毎回レポートを作成し提出します。

準備学修

文部科学省HPより、「教育課程特区」の情報を検索しておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情が発生したときには、当日の朝までに授業に連絡し、届け出ること

テキスト

文部科学省編 「中学校学習指導要領解説（総則編）」ぎょうせい出版

留意事項

毎回の授業中に資料を配布します。

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育方法論 | ET | | 13851 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 堀 正人 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

学校教育の研究、教育課程、生徒理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。この講座ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を学び、計画力、想像力を養う。さらに、模擬授業でディスカッションや発表を取り入れてA（発信力）、K（傾聴力）をつける訓練をする。

授業の概要

学校教育の理念に基づいて、教育課程の理論、学習指導要領の仕組み、授業実践の知識及びその技術を学ぶ。また、実際の学校での教育実践例を参考に学校教育の課題を考察をする。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外(道徳、総合的な学習の時間、特別活動)の授業の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造論
7. 学校における集団学習の意義と方法(組織、計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践について
11. 学力論と教育評価について
12. 特別支援教育論
13. 模擬授業実践と考察Ⅰ(道徳教育)
14. 模擬授業実践と考察Ⅱ(特別活動・総合的な学習の時間の展開)
15. 教育方法学のまとめ、課題テスト

授業の方法

毎回レジュメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

中学校学習指導要領（総則編）を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編 中学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する。

| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-----------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育相談(カウンセリングを含む) (中等) | | | 13852 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

複雑・多様化する社会で、様々なカウンセリングの技法や学派がひしめき合っている。学習初心者にとって、教育相談の基礎基本をきちんと理解して活用できるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1. カウンセリングの基礎その1 定義
2. カウンセリングの基礎その2 特質
3. カウンセリングの基礎その3 理論
4. 子どもの内面理解その1 生育歴
5. 子どもの内面理解その2 友人関係づくりの特徴理解
6. 子どもの内面理解その3 家庭環境
7. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその1 アディクション
8. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその2 強迫神経症
9. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその3 パニック障害
10. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその4 摂食障害
11. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその5 適応障害
12. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその6 PTSD
13. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその7 心身症
14. 発達障害の理解その1 自閉症スペクトラム
15. 発達障害の理解その2 保護者相談

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけでなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

桜井美加著『教育相談ワークブック』北樹出版

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|----------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 資格科目 <キッズイングリッシュ・教職> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教育経営論 (中高) | | 13853 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 大岸 啓子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムのあり方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展①
3. 教育制度の歴史と発展②
4. 子どもの権利と人権①
5. 子どもの権利と人権②
6. 教育制度を学ぶ意義①
7. 教育制度を学ぶ意義②
8. 教育法①
9. 教育法②
10. 教育の目的と目標
11. 学校の制度
12. 義務教育の制度
13. 教育の機会均等
14. 教職員の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Oral Communication 100 | b | 13901 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 國本 恵理香 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 1 Business
3. Unit 1 Business
4. Unit 1 Business
5. Unit 1 Business
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 2 Cultural Studies
10. Unit 2 Cultural Studies
11. Unit 2 Cultural Studies
12. Unit 2 Cultural Studies
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be Familiar with the textbook before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam20%

Tests and Quizzes10%
Presentations40%
Class Participation20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success Listening and Speaking 1*. 2nd edition. Jaimie Scanlon

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------------|---------|-------|------|-----|------|
| Oral Communication 100 | 1/2/再履秋 | 13901 | I | 春/秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Tina D. MATHERS/國本 恵理香 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 1 Business
3. Unit 1 Business
4. Unit 2 Cultural Studies
5. Unit 2 Cultural Studies
6. Review
7. Presentations
8. Mid term
9. Unit 3 Sociology
10. Unit 3 Sociology
11. Unit 4 Physiology
12. Unit 4 Physiology
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%

Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success Listening and Speaking 1*. 2nd edition. Jaimie Scanlon

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Reading 101 | b | 13903 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 入江 和子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 1 Popular Sports
3. Chapter 1 Popular Sports
4. Chapter 1 Popular Sports
5. Chapter 1 Popular Sports
6. Chapter 2 Healthy Eater
7. Chapter 2 Healthy Eater
8. Chapter 2 Healthy Eater
9. Chapter 2 Healthy Eater
10. Mid term
11. Chapter 3 Dream Home
12. Chapter 3 Dream Home
13. Chapter 3 Dream Home
14. Chapter 3 Dream Home
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*. 2nd edition. Linda Lee, Oxford Bookworms *Sherlock Holmes and the Duke's Son* by Sir Arthur Conan Doyle retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| | | | | | |
|--------------------|---------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Reading 101 | 1/2/再履秋 | 13903 | I | 春/秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 和泉 有香/佐伯 瑠璃子/岡村 祥子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標
Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy

授業の概要
The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 1 Popular Sports
3. Chapter 1 Popular Sports
4. Chapter 2 Healthy Eater
5. Chapter 2 Healthy Eater
6. Chapter 3 Dream Home
7. Chapter 3 Dream Home
8. Mid term
9. Chapter 4 Greetings
10. Chapter 4 Greetings
11. Chapter 5 City without oil
12. Chapter 5 City without oil
13. Chapter 6 Cant please everyone
14. Chapter 6 Cant please everyone
15. Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修
Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法
Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Oxford *Select Readings Elementary*. 2nd edition. Linda Lee,
Oxford Bookworms *Sherlock Holmes and the Duke's Son* by Sir Arthur Conan Doyle retold by Jennifer Bassett

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Writing 102 | b | 13905 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 和泉 有香 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標
In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要
Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Who am I?
3. Unit 1 Who am I?
4. Unit 2 An important place
5. Unit 2 An important place
6. Unit 3 An ideal partner
7. Unit 3 An ideal partner
8. Review
9. Unit 4 My favorite photo
10. Unit 4 My favorite photo
11. Unit 5 My seal
12. Unit 5 My seal
13. Unit 6 Party time
14. Unit 6 Party time
15. Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修
Be familiar with the textbook

課題・評価方法
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Cambridge *Writing from Within Level 1* 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------------|---------|-------|------|-----|------|
| Writing 102 | 1/2/再履秋 | 13905 | I | 春/秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON/入江 和子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Writing about yourself
3. Chapter 1 Writing about yourself
4. Chapter 2 Writing about your family
5. Chapter 2 Writing about your family
6. Chapter 3 Writing about activities
7. Chapter 3 Writing about activities
8. mid Term
9. Chapter 4 Giving Instructions
10. Chapter 4 Giving Instructions
11. Chapter 5 Writing about a day
12. Chapter 5 Writing about a holiday
13. Review and Conferences
14. review and Conferences
15. Review and conferences

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the contents of the textbooks

課題・評価方法

Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Ready to Write 1: A First Composition Text*. 3rd Edition. Karen Blanchard & Christine Root

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Grammar 103 | b | 13907 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: be and have, simple present, and present progressive

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Using Be
3. Chapter 1 Using Be
4. Chapter 1 Using Be
5. Chapter 2 Using Be and Have
6. Chapter 2 Using Be and Have
7. Chapter 2 Using Be and Have
8. Chapter 2 Using Be and Have
9. Review
10. Mid Term
11. Chapter 3 Using the Simple Present
12. Chapter 3 Using the Simple Present
13. Chapter 3 Using the Simple Present
14. Chapter 3 Using the Simple Present
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Homework 10%
Class Participation 20%
Tests and Quizzes 30%
Final Exam 40%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*. 4th Edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目〈コア・イングリッシュ〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------------|---------|-------|------|-----|------|
| Grammar 103 | 1/2/再履秋 | 13907 | I | 春／秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 吉野 美智子／入江 和子／岡村 祥子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: simple present and present progressive, simple past and past progressive, count and non-count nouns, comparative, superlative & equative forms with adjectives, nouns & adverbs

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 2 Simple Present
3. Chapter 2 Simple Present
4. Chapter 2 Simple Present
5. Chapter 2 Present Progressive
6. Chapter 2 Present Progressive
7. Chapter 2 Simple Past
8. Mid Term
9. Chapter 2 Simple Past
10. Chapter 2 Simple Past
11. Chapter 2 Past Progressive
12. Chapter 2 Past Progressive
13. Comparatives
14. Superlatives
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Homework 10%
Class Participation 20%

Tests and Quizzes 30%
Final Exam 40%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Understanding and Using English Grammar*. 4th Edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目〈コア・イングリッシュ〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Oral Communication 200 | b | 13909 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 國本 恵理香 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 3 Sociology
3. Unit 3 Sociology
4. Unit 3 Sociology
5. Unit 3 Sociology
6. Review
7. Presentations
8. Mid Terms
9. Unit 4 Physiology
10. Unit 4 Physiology
11. Unit 4 Physiology
12. Unit 4 Physiology
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success: Listening and Speaking 1*. 2nd edition. Jaimie Scanlon

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------------|-----------|-------|------|-----|------|
| Oral Communication 200 | 春/1/2/再履春 | 13909 | I | 秋/春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON/佐伯 瑠璃子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 5 Psychology
3. Unit 5 Psychology
4. Unit 6 Philosophy
5. Unit 6 Philosophy
6. Review
7. Presentations
8. Mid Terms
9. Unit 7 Behavioral Science
10. Unit 7 Behavioral Science
11. Unit 8 Pyschology
12. Unit 8 Pyschology
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success: Listening and Speaking 1*. 2nd edition. Jaimie Scanlon

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Reading 201 | b | 13911 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 4 Greetings
3. Chapter 4 Greetings
4. Chapter 4 Greetings
5. Chapter 4 Greetings
6. Chapter 5 City without oil
7. Chapter 5 City without oil
8. Chapter 5 City without oil
9. Chapter 5 City without oil
10. Mid Term
11. Chapter 6 Cant please everyone
12. Chapter 6 Cant please everyone
13. Chapter 6 Cant please everyone
14. Chapter 6 Cant please everyone
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*. 2nd edition. Linda Lee,
Oxford Bookworms *Sherlock Holmes and the Duke's Son* by Sir Arthur Conan Doyle retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------------------|-----------|-------|------|-----|------|
| Reading 201 | 春/1/2/再履春 | 13911 | I | 秋/春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 惣谷 美智子/石原 敬子/入江 和子/岡村 祥子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 8 Bicycles
3. Chapter 8 Bicycles
4. Chapter 9 Cooking
5. Chapter 9 Cooking
6. Chapter 10 Travel
7. Chapter 10 Travel
8. Mid Term
9. Chapter 11 Able men
10. Chapter 11 Able men
11. Chapter 12 Traditions
12. Chapter 12 Traditions
13. Chapter 13 Emergency
14. Chapter 13 Emergency
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be Familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*. 2nd edition. Linda Lee,
Oxford Bookworms *A Little Princess* by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Writing 202 | b | 13913 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 國本 恵理香 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Thank-you note
3. Unit 7 Thank-you note
4. Unit 8 Movie review
5. Unit 8 Movie review
6. Unit 9 Friendship
7. Unit 9 Friendship
8. Review
9. Unit 10 Superhero powers
10. Unit 10 Superhero powers
11. Unit 11 Advertisements
12. Unit 11 Advertisements
13. Unit 12 Lessons learned
14. Unit 12 Lessons learned
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the contents of the textbooks

課題・評価方法

Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 1* 2nd. edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------------------------|-----------|-------|------|-----|------|
| Writing 202 | 春/1/2/再履春 | 13913 | I | 秋/春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Tina D. MATHERS/ Kevin MUNSON/ 吉野 美智子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process

授業計画

1. Introduction
2. Ch 6 Writing Descriptions
3. Ch 6 Writing Descriptions
4. Ch 6 Writing Descriptions
5. Ch 7 Writing about Places
6. Ch 7 Writing about Places
7. Editing and Review
8. Mid Term
9. Ch 8 Writing a Narrative
10. Ch 8 Writing a Narrative
11. Ch 8 Writing a Narrative
12. Ch 9 Expressing Opinion
13. Ch 9 Expressing Opinion
14. Ch 9 Expressing Opinion
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Ready to Write 1: A First Composition Text*. 3rd Edition. Karen Blanchard & Christine Root

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Grammar 203 | b | 13915 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 吉野 美智子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: Present Progressive and past tense

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 4 Using Present Progressive
3. Chapter 4 Using Present Progressive
4. Chapter 4 Using Present Progressive
5. Chapter 4 Using Present Progressive
6. Chapter 4 Using Present Progressive
7. Review
8. Mid Term
9. Chapter 8 Past Time
10. Chapter 8 Past Time
11. Chapter 8 Past Time
12. Chapter 8 Past Time
13. Chapter 8 Past Time
14. Chapter 8 Past Time
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Homework 10%
Class Participation 20%
Tests and Quizzes 30%
Final Exam 40%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*. 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目〈コア・イングリッシュ〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----------|-------|------|-----|------|
| Grammar 203 | 春/1/2/再履春 | 13915 | I | 秋/春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 石原 敬子/和泉 有香/入江 和子 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present perfect and present perfect progressive, past perfect and past perfect progressive, all future tenses, including "going to" future, simple future, future progressive, and future.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 4 Future
3. Chapter 4 Future Progressive
4. Chapter 3 Present Perfect
5. Chapter 3 Present Perfect
6. Chapter 3 Present Perfect Progressive
7. Mid Term
8. Chapter 3 Past perfect
9. Chapter 3 Past Perfect
10. Chapter 3 Past Perfect Progressive
11. Chapter 4 Future Perfect
12. Chapter 4 Future Perfect Progressive
13. Review of Verb tenses
14. Time Clauses
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook before class

課題・評価方法

Homework 10%
Class Participation 20%

Tests and Quizzes 30%
Final Exam 40%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Understanding and Using English Grammar* (4th Edition) by Betty Azar/Stacy Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目〈コア・イングリッシュ〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Oral Communication 300 | b | 13917 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5 Psychology
3. Unit 5 Psychology
4. Unit 5 Psychology
5. Unit 5 Psychology
6. Review
7. Presentations
8. Midterm
9. Unit 6 Philosophy
10. Unit 6 Philosophy
11. Unit 6 Philosophy
12. Unit 6 Philosophy
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbooks before class

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success: Listening and Speaking 1*. 2nd edition. Jaimie Scanlon

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| | | | | | |
|------------------------------|-------------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Oral Communication 300 | 秋/1/2/3/再履秋 | 13917 | Ⅱ・Ⅰ | 春／秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON／Tina D. MATHERS | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 1 Architecture
3. Unit 1 Architecture
4. Unit 2 Psychology
5. Unit 2 Psychology
6. Review
7. Midterm
8. Presentations
9. Unit 3 Behavioral Science
10. Unit 3 Behavioral Science
11. Unit 4 Game Studies
12. Unit 4 Game Studies
13. Review
14. Review
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the content of the textbooks

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success: Listening and Speaking 2*. 2nd edition. Margaret Brooks

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Reading 301 | b | 13919 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 岡村 祥子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 8 Bicycles
3. Chapter 8 Bicycles
4. Chapter 8 Bicycles
5. Chapter 8 Bicycles
6. Chapter 9 Cooking
7. Chapter 9 Cooking
8. Chapter 9 Cooking
9. Chapter 9 Cooking
10. Mid Term
11. Chapter 10 Travel
12. Chapter 10 Travel
13. Chapter 10 Travel
14. Chapter 10 Travel
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be Familiar with the textbooks. Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*. 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen,
Oxford Bookworms *A Little Princess* by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|---------------------------|-------------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Reading 301 | 秋/1/2/3/再履秋 | 13919 | Ⅱ・Ⅰ | 春／秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 入江 和子／國本 恵理香／石原 敬子／惣谷 美智子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標
This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要
The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introductions
2. Ch 1 Sleep
3. Ch 1 Sleep
4. Ch 2 Homestay in London
5. Ch 2 Homestay in London
6. Ch 3 Not Black and White
7. Ch 3 Not Black and White
8. Mid Term
9. Ch 4 Helping Others
10. Ch 4 Helping Others
11. Ch 5 Generation Z
12. Ch 5 Generation Z
13. Ch 6 Being Successful
14. Ch 6 Being Successful
15. Review

授業の方法
Be Familiar with the textbooks before class

準備学修
Be familiar with the textbooks

課題・評価方法
Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*. 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *New Yorkers Short Stories* by O Henry retold by Diane Mowat

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active Participation is essential

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Writing 302 | b | 13921 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 國本 恵理香 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標
In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要
Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 6 Writing Descriptions
3. Chapter 6 Writing Descriptions
4. Chapter 6 Writing Descriptions
5. Chapter 6 Writing Descriptions
6. Chapter 6 Writing Descriptions
7. Chapter 6 Writing Descriptions
8. Chapter 7 Writing about Places
9. Chapter 7 Writing about Places
10. Mid Term
11. Chapter 7 Writing about Places
12. Chapter 7 Writing about Places
13. Chapter 7 Writing about Places
14. Chapter 7 Writing about Places
15. Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修
Be familiar with the contents of the textbooks

課題・評価方法
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

テキスト
Pearson/Longman *Ready to Write 1: A First Composition Text*. 3rd Edition. Karen Blanchard & Christine Root

参考図書
Will be assign as needed

留意事項
Active participation is essential

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------------------|-------------|-------|------|-----|------|
| Writing 302 | 秋/1/2/3/再履秋 | 13921 | Ⅱ・Ⅰ | 春/秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Tina D. MATHERS/ Kevin MUNSON | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, and explain a process, write about spatial order, time order, and order of importance

授業計画

1. Introductions
2. Ch 2 Understanding Paragraphs
3. Ch 2 Understanding Paragraphs
4. Ch 3 Time Order
5. Ch 3 Time Order
6. Ch 4 Order of Importance
7. Ch 4 Order of Importance
8. Mid Term
9. Ch 5 Spatial Order
10. Ch 5 Spatial Order
11. Ch 7 Supporting Sentences
12. Ch 7 Supporting Sentences
13. Ch 8 Explaining a Process
14. Ch 8 Explaining a Process
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbooks

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs*. 4th Edition. Karen Blanchard & Christine Root

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Grammar 303 | b | 13923 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 和泉 有香 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use Past Progressive, Comparatives, and Superlatives

授業計画

1. Introductions
2. Past time and Progressive
3. Past time and Progressive
4. Past time and Progressive
5. Past time and Progressive
6. Past time and Progressive
7. Review
8. Mid term
9. Comparatives and Superlatives
10. Comparatives and Superlatives
11. Comparatives and Superlatives
12. Comparatives and Superlatives
13. Comparatives and Superlatives
14. Comparatives and Superlatives
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected

for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*. 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------------|-------------|-------|------|-----|------|
| Grammar 303 | 秋/1/2/3/再履秋 | 13923 | Ⅱ・Ⅰ | 春/秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 和泉 有香/吉野 美智子/木下 奈美 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use Modals of certainty, necessity, polite requests, expectations and suggestions, and advisability

授業計画

1. Introductions
2. Ch 9 Modals of Necessity
3. Ch 9 Modals of Necessity
4. Ch 9 Polite Requests
5. Ch 9 Polite Requests
6. Ch 9 Modals of Advisability
7. Ch 9 Modals of Advisability
8. Mid Term
9. Ch 9 Expectations and Suggestions
10. Ch 9 Expectations and Suggestions
11. Ch 10 Modals of Certainty
12. Ch 10 Modals of Certainty
13. Ch 10 Ability and Preferences
14. Ch 10 Ability and Preferences
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Understanding and Using English Grammar* (4th Edition) by Betty Azar/Stacy Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------------|-----|-------|------|-----|------|
| Oral Communication 400 | b | 13925 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 吉野 美智子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 7 Behavioral Science
3. Unit 7 Behavioral Science
4. Unit 7 Behavioral Science
5. Unit 7 Behavioral Science
6. Review
7. Midterm
8. Presentations
9. Unit 8 Psychology
10. Unit 8 Psychology
11. Unit 8 Psychology
12. Unit 8 Psychology
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Be familiar with the textbooks before class

準備学修

Students will work in groups and individually

課題・評価方法

Final Exam: 20%
Tests and Quizzes: 10%
Presentations: 40%

Class Participation: 20%

Homework: 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success Listening and Speaking 1*. 2nd edition. Jaimie Scanlon

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| | | | | | |
|------------------------------|-------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Oral Communication 400 | 1/2/3 | 13925 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness.

授業計画

1. Introductions
2. Unit 5 Sociology
3. Unit 5 Sociology
4. Unit 6 Business
5. Unit 6 Business
6. Review
7. Midterm
8. Presentations
9. Unit 7 Environmental Studies
10. Unit 7 Environmental Studies
11. Unit 8 Public Health
12. Unit 8 Public Health
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook

課題・評価方法

Final Exam: 20%
Test and Quizzes: 10%
Presentations: 40%

Class Participation: 20%

Homework: 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Q: Skills for Success: Listening and Speaking 2*. 2nd edition. Margaret Brooks

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential for success

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Reading 401 | b | 13927 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 國本 恵理香 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter11 Able Men
3. Chapter11 Able Men
4. Chapter11 Able Men
5. Chapter11 Able Men
6. Chapter12 Traditions
7. Chapter12 Traditions
8. Chapter12 Traditions
9. Chapter12 Traditions
10. Mid Term
11. Chapter13 Emergency
12. Chapter13 Emergency
13. Chapter13 Emergency
14. Chapter13 Emergency
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be Familiar with the textbooks. Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*. 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen,
Oxford Bookworms *A Little Princess* by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------------------|-------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Reading 401 | 1/2/3 | 13927 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐伯 瑠璃子 / 木下 奈美 / 石原 敬子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

授業計画

1. Introductions
2. Chapter 8 Live Forever?
3. Chapter 8 Live Forever?
4. Chapter 9 Baseball Fans
5. Chapter 9 Baseball Fans
6. Chapter 10 Mobile Phones
7. Chapter 10 Mobile Phones
8. MidTerm
9. Chapter 11 A Musician
10. Chapter 11 A Musician
11. Chapter 12 A day in the life
12. Chapter 12 A day in the life
13. Chapter 13 Love at first Sight
14. Chapter 13 Love at first Sight
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be Familiar with the textbooks. Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*. 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *Anne of Green Gables* by L.M. Montgomery

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Writing 402 | b | 13929 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Writing a Narrative
3. Chapter 8 Writing a Narrative
4. Chapter 8 Writing a Narrative
5. Chapter 8 Writing a Narrative
6. Chapter 8 Writing a Narrative
7. Chapter 8 Writing a Narrative
8. Mid Term
9. Chapter 9 Expressing Your Opinion
10. Chapter 9 Expressing Your Opinion
11. Chapter 9 Expressing Your Opinion
12. Chapter 9 Expressing Your Opinion
13. Chapter 9 Expressing Your Opinion
14. Chapter 9 Expressing Your Opinion
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the contents of the textbooks

課題・評価方法

Final Report 20%
Test and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Ready to Write 1: A First Composition Text*. 3rd Edition. Karen Blanchard & Christine Root

参考図書

Will be assign as needed

留意事項

Active participation is essential

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|--|-------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Writing 402 | 1/2/3 | 13929 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 和泉 有香 / Kevin MUNSON / Tina D. MATHERS | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, and explain a process, write about spatial order, time order, and order of importance

授業計画

1. Introductions
2. Ch 9 Writing Descriptions
3. Ch 9 Writing Descriptions
4. Ch 11 Compare and Contrast
5. Ch 11 Compare and Contrast
6. Ch 11 Compare and Contrast
7. Ch 12 Cause and Effect
8. Mid Term
9. Ch 12 Cause and Effect
10. Ch 12 Cause and Effect
11. Ch 14 Summaries
12. Ch 14 Summaries
13. Ch 14 Summaries
14. Ch 14 Summaries
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbooks

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson/Longman *Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs*. 4th Edition. Karen Blanchard & Christine Root

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Grammar 403 | b | 13931 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 吉野 美智子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: Count and non Count nouns, the future tense,

授業計画

1. Introductions
2. Future
3. Future
4. Future
5. Future
6. Future
7. Future
8. Review
9. Midterm
10. Count and Non-count nouns
11. Count and Non-count nouns
12. Count and Non-count nouns
13. Count and Non-count nouns
14. Count and Non-count nouns
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected

for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*. 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

| | | | | | |
|---------------------|-------|-------|------|-----|------|
| 基礎科目 <コア・イングリッシュ> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Grammar 403 | 1/2/3 | 13931 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐伯 瑠璃子／和泉 有香／吉野 美智子 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標
 In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要
 Upon completion, learners will be able to comprehend and use: Noun clauses, adjective clauses, and adverb clauses, Gerunds and infinitives, Conditionals

授業計画

1. Introductions
2. Noun Clauses
3. Noun Clauses
4. Adjective Clauses
5. Adjective Clauses
6. Adverb Clauses
7. Clause Review
8. Mid Term
9. Passives
10. Passives
11. Gerunds and infinitives
12. Gerunds and infinitives
13. Conditionals
14. Conditionals
15. Review

授業の方法
 Students will work in groups and individually

準備学修
 Be familiar with the textbook

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
 Pearson/Longman *Understanding and Using English Grammar* (4th Edition) by Betty Azar/Stacy Hagen

参考図書
 Will be assigned as needed

留意事項
 Active participation is essential

| | | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 基幹科目 <観光> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| Business English | | 13935 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 青木 幹生 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標
 このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を学びます。CDを聴きネイティブスピーカーの英語に慣れるようにする。ビジネスで実際に使われる慣用的な表現を学ぶ。TOEIC受験対策を兼ねている。また就活の社会常識として、実社会の現状について具体的に解説する。

授業の概要
 仕事の仕組みや、標準的なビジネス・コミュニケーションを学ぶ。Fax, e-mail, ビジネスレター、封筒書き、ファイリング、などのオフィスワークの常識的な事務についても学ぶ。

授業計画

1. 講義概要、教科書、評価方法、シラバス(講義計画)
2. Unit 1. Job Hunting(1), Writing a resume
3. Unit 2. Job Hunting(2), Writing an application letter
4. Unit 3. Job Hunting(3), Arranging an interview
5. Unit 4. Job Hunting(4), A job interview
6. Unit 5. Job offer
7. Unit 6. The first day at work
8. Unit 7. Preparing to work
9. Unit 8. Telephoning (1) Answering
10. Unit 9. Telephoning (2) Taking a message
11. Unit 10. Telephoning (3) Making an appointment
12. Unit 11. Visiting a client
13. Unit 12. Receiving a visitor(1) Preparation
14. Unit 13. Receiving a visitor(2) Meeting at Narita Airport
15. まとめ

授業の方法
 シラバス通りに進むので予習、復習を励行すること。

準備学修
 予習、復習の励行

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト
 [Business Talkやさしいオフィス英語] 城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著、成美社

参考図書
 [国際秘書英語] 亀山和夫、成美社
 [国際ビジネスコミュニケーション入門] 亀山和夫、八尾 晃共著、成美堂

留意事項
 毎回予習、復習を励行すること。単語テストを随時行うので普段から正確に単語を書けるようにしておくこと。

教員連絡先
 aokimikio@aol.com

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| English for Tourism | | | 13937 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 青木 幹生 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性について学びます。観光産業に必要な基本的な英語を勉強します。全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験 (Tourism English Proficiency Test)の受検指導を行う。

授業の概要

シラバス通りに授業を進めるが、教科書以外の関連英語についても説明するので遅刻、欠席しないこと。

授業計画

1. 講義概要、シラバス、教科書、参考書、授業の進め方、予習・復習、観光英検、授業の規律
2. Tokyo Station
3. Exploring Metropolitan Tokyo
4. Restaurant at Ginza
5. Kakunodate: A Town of Samurai and Cherry Blossoms
6. Old Private Houses in Takayama
7. Hatcho Miso in Okazaki
8. Toyota Automobile Museum
9. Cormorant Fishing
10. Uji Byodoin
11. Kyoto Studio Park
12. International Phone Calls
13. Bakery Shops in Kobe
14. White Heron Castle
15. まとめ

授業の方法

CDを活用し授業を進めます。遅刻、欠席は減点になるばかりか、試験にも不利になる。予習・復習をして成果を高めてください。

準備学修

CDを聞き予習を行うこと。また分からないことは必ず質問して理解をすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常の授業評価が高いため欠席は減点の対象になります。試験で100点満点とっても評価は50%です。

テキスト

Discovering Japan through Tourism English 「観光英語で日本発見!」英宝社

河原俊昭、榎木蘭鉄也、岡戸浩子、小宮富子、吉川 寛、石川有香、徳地慎二、ジェイムズ・ドレイトン

参考図書

観光英語検定試験全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験 (Tourism English Proficiency Test) 2級、3級の問題集

留意事項

毎回予習、復習の励行。遅刻、欠席無いように努力すること。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

| 基幹科目〈観光〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------|-----|----|-------|------|-----|------|
| ハワイ文化研究 | | | 13965 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 釜須 久夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

ハワイの文化を研究する上で、文化を育んだハワイの歴史とその背景を学び、文化が伝わるプロセスと様々なハワイ特有の文化を学び理解をより深める。またハワイの精神である「アロハスピリット」を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI (知性) とIn (国際性)を養う。

授業の概要

授業のテーマに関連した講義の他に、ビジュアルやビデオなどを用いてハワイ文化を視覚的に学習する。また小テストや問題集などを取り入れて、ポイントとなる箇所を復習する。

授業計画

1. ハワイの歴史(1) ポリネシア文化圏とハワイ諸島の誕生
2. ハワイの歴史(2) ハワイの王国の歴史
3. ハワイの歴史(3) ハワイの神話 神話の地を巡る
4. ハワイの歴史(4) ハワイのフラの歴史 古典フラと現代フラ
5. ハワイの歴史(5) 日本人移民の歴史
6. ハワイの言語(1) ハワイ語の特徴と文法(1)
7. ハワイの言語(2) ハワイ語の特徴と文法(2)
8. ハワイの言語(3) ハワイ語の特徴と文法(3)
9. ハワイの文化(1) ハワイの伝統文化(1)
10. ハワイの文化(2) ハワイの伝統文化(2)
11. ハワイの文化(3) ハワイの食文化と暮らしの習慣
12. ハワイの文化(4) ハワイのミュージックと楽器
13. ハワイの文化(5) ハワイのお祭りイベント
14. ハワイの文化(6) ハワイの観光の歴史とアロハスピリット
15. ハワイの文化(7) ハワイの文化継承と自然保護

授業の方法

講義とビジュアル、ビデオなどのプレゼンテーション、小テストを中心とする。

準備学修

事前に指示されたテーマについて、予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は原則として認めない。1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

アロハ検定オフィシャルブック アロハ検定編著 ダイヤモンド社

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

| | | | | | | |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 基幹科目〈英語・言語・文化〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| インターンシップ (海外) | | | 13967 | Ⅱ | 集 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐伯 瑠璃子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

海外インターンシップの種類

【アシスタント・ティーチャープログラム】

カリフォルニア州トランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。

- ・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上
- ・履修科目：キッズ・イングリッシュプログラム科目
- ・期間：春季休暇中10日間以上
- ・委託機関：ライトハウス
- ・コーディネーター：佐伯

【イベントコース：まつりインハワイ】

ハワイ州政府公認の文化交流イベント「まつりインハワイ」の運営業務と「旅程管理主責任・取得研修」資格取得を目指す。

- ・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
- ・履修科目：ハワイの歴史文化に関する授業を履修すること
- ・期間：「まつりインハワイ」の運営業務：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修
- ・「旅程管理主責任・取得研修」プログラム：未定
- ・委託機関：近畿日本ツーリスト
- ・コーディネーター：石原

【観光ビジネスコース】

ハワイ州の観光業、ウェディング業、旅行業、教育業などで、インターンシップを体験する。

- ・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
- ・履修科目：ハワイの歴史文化に関する授業を履修すること
- ・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用した3～4週間
- ・委託機関：一般社団法人日本国際人材育成協会、米国NPO法人 Global Career Advancement Services
- ・コーディネーター：下田

・TOEIC得点により配属先が決定されることもある。

授業計画

1. 事前学習
2. 事前学習
3. 現地実習
4. 現地実習
5. 現地実習
6. 現地実習
7. 現地実習
8. 現地実習
9. 現地実習
10. 現地実習
11. 現地実習
12. 現地実習
13. 現地実習
14. 現地実習
15. ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、評価は委託機関及び本学による。

各々のインターンシップは以下のプログラムによって構成される。

- ①2～3回の事前学習 (英語研修や実習準備など)
- ②現地実習
- ③ポートフォリオの提出 (日報、レポートなど) と発表

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | a | | 17101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント等、子ども(人)を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。

授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.ケーススタディーその1子ども
- 3.ケーススタディーその2子ども
- 4.ケーススタディーその3保護者等
- 5.ケーススタディーその4保護者等
- 6.共有するテーマの絞り込みその1
- 7.共有するテーマの絞り込みその2
- 8.各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
- 9.各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
- 10.kj法によるテーマ分類1 小表札討議
- 11.kj法によるテーマ分類2 中表札討議
- 12.グループ発表準備1
- 13.グループ発表準備2
- 14.発表会
- 15.総括

授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する

参考図書

必要に応じて紹介する

留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求めることがある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | b | | 17101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

保育・教職に関する様々な理論の学習や実習の経験を活かし、より興味関心をもったことについて、文献を活用して新たな知識と確かな情報を得る。また、自分の意見を発表することを通して、表現力を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題の文献・資料を講読し、調査結果と考察をまとめて発表する。さらに、ディスカッションを経て新たな課題を見出し、考察力と表現力を高め自分の研究したい内容や方向性に見通しをもつようにする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.課題文献・資料の講読、自然体験
- 3.課題文献・資料の講読、文化体験
- 4.課題文献・資料の講読、子育て支援
- 5.課題文献・資料の講読、特別支援教育
- 6.課題文献・資料の講読、防災教育
- 7.課題文献・資料の講読、認定こども園
- 8.課題文献・資料の講読、食育
- 9.各自の興味関心ある内容の調査と発表①
- 10.各自の興味関心ある内容の調査と発表②
- 11.各自の興味関心ある内容の調査と発表③
- 12.各自の興味関心ある内容の調査と発表④
- 13.文献検索と研究方法
- 14.文献検索とエピソード記録
- 15.まとめ

授業の方法

文章表現、発表、ディスカッションを主とする。

準備学修

事前に課題の文献・資料を伝える。それに関するレポートを作成し、討議資料の準備をすること。ネット検索ではなく読書を継続し

て行うこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | c | | 17101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究事例を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.全員での共通の文献講読1
- 3.全員での共通の文献講読2
- 4.全員での共通の文献講読3
- 5.共同研究のためのリサーチの準備
- 6.リサーチ・結果の処理1・データ入力
- 7.リサーチ・結果の処理2・データ入力
- 8.リサーチ・結果の処理3・データ入力
- 9.リサーチ・結果の処理4・データ入力
- 10.リサーチ・結果の処理5・データ入力
- 11.リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
- 12.共同研究の発表の準備
- 13.共同研究の発表の準備
- 14.共同研究の発表の準備
- 15.各自の興味のあるテーマについて発表

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究方法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身につける。

準備学修

できるだけ多くの関連するテーマについての文献や論文を普段から集めて目を通す習慣をつける。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文は毎回の授業で提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習 I | d | | 17101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

絵本における「絵と言葉」の力に関する卒業研究を進めるために、文献や資料を読んで、意見交換を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

作家や出版社等が子どもたちに読ませたい本として紹介している作品を取り上げて、分析を行う。また、絵と文章の読み方、読み聞かせの仕方、作家の経歴と作品との関係について学び、研究テーマの方向性を決めていく。

授業計画

- 1.受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、絵本の基本概念
- 2.世界の絵本の歩み
- 3.日本の絵本の歩み
- 4.現代の絵本①
- 5.現代の絵本②
- 6.文の機能と絵の機能
- 7.画面展開と描写の手法
- 8.絵本の表現
- 9.絵本の画材と技法
- 10.子どもの発達と絵本
- 11.赤ちゃん絵本、幼児絵本
- 12.小・中学生と絵本
- 13.障がい者と絵本
- 14.絵本の読み聞かせ、絵本の選び方
- 15.まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

次回の学修内容を把握し、絵本の作者や作品について調べたり、読み聞かせの練習をしたりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

ミネルヴァ書房『ベーシック絵本入門』生田美秋・石井光恵・藤本朝巳

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

自分から進んで研究に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅰ | e | 17101 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐原 信江 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

教育・保育について、文献を読んで協議したり、実技等の研修をしたりする中で、「幼児教育」の重要性を認識するとともに、研究の方法や方向性を見出していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児期にふさわしい園生活の展開等について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の後感発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。

授業計画

1. オリエンテーション、演習の取り組み方
2. 「幼児期の教育」について資料を読み協議する。
3. 「幼稚の園生活～四季を感じて～」グループで教材を作成・発表し協議する。①
4. "②
5. "③
6. "④
7. 図書館の利用・情報検索について
8. 幼児教育に関する文献を読んで協議する①
9. "②
10. "③
11. 研究の意義と方法について①
12. "②
13. "③
14. "④
15. まとめ・演習Ⅱに向かって

授業の方法

収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる、協議する、発表するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上に向けた授業とする。

準備学修

授業で活用する資料等は、事前に伝えるので調査収集に努めること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する

参考図書

必要に応じて提示、紹介する

留意事項

主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。
授業外、学外のボランティアや幼稚園行事に積極的に参加して学ぶように。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | a | 17105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 濱田 誠二郎 | 必修 | 2 | | | |

授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスでは海星パーソナリティK（思いやり）とA（自立）を養う。

授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画

1. 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
2. 各自の興味関心を聞き合う。
3. 各自の興味関心の集団討議
4. 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
5. 研究計画・文献・資料に関する指導 1
6. 研究計画・文献・資料に関する指導 2
7. 研究計画・文献・資料に関する指導 3
8. 研究テーマの検討と討議 1
9. 研究テーマの検討と討議 2
10. 研究テーマの検討と討議 3
11. 各自の研究進捗報告会 1
12. 各自の研究進捗報告会 2
13. 各自の研究進捗報告会 3
14. 卒業研究に向けての質問会
15. まとめ

授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | b | | 17105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅰで見出した各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容や方向性について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てる。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について
2. 質問紙法について
3. 非構造的面接法について
4. 概念抽出までの手続き
5. 研究活動における倫理
6. 先行論文調査の発表と討議①
7. 先行論文調査の発表と討議②
8. 先行論文調査の発表と討議③
9. 研究マップ作成①
10. 研究マップ作成と発表②
11. 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12. 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13. 研究計画、研究方法の検討①
14. 研究計画、研究方法の検討②
15. まとめ

授業の方法

文章表現、発表、ディスカッションを主とする。

準備学修

「調べる」「まとめる」を主とした研究活動に丁寧に取り組むこと。ネット検索ではなく読書による調査を継続すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | c | | 17105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究発表の準備
3. 共同研究発表の準備
4. 共同研究発表の準備・反省会
5. 各自のリサーチ発表1
6. 各自のリサーチ発表2
7. 各自のリサーチ発表3
8. 研究法・手続きについての話し合い1
9. 研究法・手続きについての話し合い2
10. 各自のリサーチ発表4
11. 各自のリサーチ発表5
12. 各自の研究計画の立案と発表1
13. 各自の研究計画の立案と発表2
14. 卒業研究発表・質疑応答の練習
15. まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

図書館などで、論文を検索し、集め、できるだけ多くの文献に目を

通す。また、必要な手続き（統計法など）を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回につき、欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。5回以上の欠席で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

論文の要約文は毎週提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | d | | 17105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定するために、児童文学作品に関する文献や資料を分析し、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

様々なジャンルの児童文学作品や、作家に関する文献を講読し、絵本の分析、作品の特徴、作家の経歴等についての発表や討議を行い、各自の研究テーマを設定していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について、絵本の種類
2. 創作(物語)絵本
3. 昔話絵本・童話絵本
4. ファンタジー絵本
5. ナンセンス絵本・パロディ絵本
6. 文字なし絵本
7. ことばの絵本・詩の絵本
8. 認識絵本・生活絵本
9. 科学絵本・写真絵本
10. 教材としての絵本
11. 仕掛け絵本
12. 名作絵本から学ぶ①
13. 名作絵本から学ぶ②
14. 名作絵本から学ぶ③
15. 研究の方向性とテーマ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

次回の学修内容を把握し、絵本の作者や作品について調べたり、読み聞かせの練習をしたりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

演習Ⅰのテキストを継続して使用する。

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献・資料を収集し、読んでおくこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅱ | e | | 17105 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究を中心に学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じた研究テーマを見出せるように段階を追って授業を進める。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について共通理解する。
2. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する(1)
3. " (2)
4. 絵本をテーマに作ってみよう考えてみよう(1)
5. " (2)
6. 秋をテーマに作ってみよう考えてみよう(1)
7. " (2)
8. " (3)
9. " (4)
10. 教育実習での学びを研究テーマに生かす(1)
11. " (2)
12. 卒業研究に向けて見通しを立てる(1)
13. " (2)
14. " (3)
15. 演習Ⅱを振り返り、学びの確認をする

授業の方法

文献を読み考察しレポート作成を中心にしつつ、教材研究・教材作成・模擬保育などを取り入れて、主体的に学べるようにする。

準備学修

論文の検索を通して多くの論文から、研究とは何か、論文内容のいろいろなど事前学修に努める。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

主体的に授業に臨み、研究に自ら取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | a | | 17109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。KAISEI/パーソナリティ-I (知性) A (自立) を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方の類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

1. テーマについて
2. 先行文献について知る
3. 先行文献の感想を発表し合う 1
4. 先行文献の感想を発表し合う 2
5. 問題と目的を明らかにする
6. 問題と目的について討議する 1
7. 問題と目的について討議する 2
8. 問題と目的について討議する 3
9. 問題と目的について討議する 4
10. 研究の方法を知る
11. 個々の研究方法を討議する 1
12. 個々の研究方法を討議する 2
13. 個々の研究方法を討議する 3
14. 個々の研究方法を討議する 4
15. 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | b | | 17109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスでは、KAISEI/パーソナリティのA(自律)、I(知性)、E(倫理)を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査を行う。また、現場での適切な調査方法や分析方法について講義を行い、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ今後の研究の見直しをもつようにする。

授業計画

1. 演習Ⅲの進め方について
2. 卒業研究・論文のまとめ方について
3. 研究対象と調査期間について
4. 研究方法と分析方法について
5. 調査の進捗報告と討議①
6. 調査の進捗報告と討議②
7. 各自の先行文献調査のまとめ①
8. 各自の先行文献調査のまとめ②
9. 「問題と目的」の発表・討議①
10. 「問題と目的」の発表・討議②
11. 「研究計画と研究方法」の発表・討議①
12. 「研究計画と研究方法」の発表・討議②
13. 仮説と今後の見直しについて発表・討議①
14. 仮説と今後の見直しについて発表・討議②
15. まとめ

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に発言し、研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

現場での調査や学習など自己の研究テーマに迫るため主体的に行動

し、その結果を毎回発表し、データの整理を行うこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | c | | 17109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.リサーチ・発表・ディスカッション1
- 3.リサーチ2
- 4.リサーチ3
- 5.リサーチ4
- 6.各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 7.各自の研究の研究法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 8.進行報告2
- 9.進行報告3
- 10.調査報告1
- 11.調査報告2
- 12.調査報告3
- 13.結果のまとめ方について1
- 14.結果のまとめ方について2
- 15.結果のまとめ方について3

授業の方法

文献研究、要約、発表、研究計画の作成、ディスカッション、研究法・手続きの理解、調査の実施。

準備学修

調査、研究に必要な文献を熟読しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席5回で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文や発表レジュメは毎週提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | d | | 17109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って、提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

- 1.演習の進め方
- 2.卒業研究のテーマ
- 3.研究報告と討議①
- 4.研究報告と討議②
- 5.研究報告と討議③
- 6.研究報告と討議④
- 7.研究報告と討議⑤
- 8.研究報告と討議⑥
- 9.研究報告と討議⑦
- 10.研究報告と討議⑧
- 11.研究の進め方①
- 12.研究の進め方②
- 13.研究の進め方③
- 14.研究の進め方④
- 15.まとめと今後の取組

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究テーマに沿って、作家や作品について調べ、レポートを作成すること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅲ | e | | 17109 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自立)とI(知性)を育成する。

授業の概要

研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

授業計画

1. 研究テーマと研究方法の確認(1)
2. 研究テーマと研究方法の確認(2)
3. 研究計画の立案(1)
4. 研究計画の立案(2)
5. 各自の研究内容について発表とディスカッション(1)
6. 各自の研究内容について発表とディスカッション(2)
7. 各自の研究内容について発表とディスカッション(3)
8. 各自の研究内容について発表とディスカッション(4)
9. 各自の研究内容について発表とディスカッション(5)
10. 研究の進捗状況について報告(1)
11. 研究の進捗状況について報告(2)
12. 研究の進捗状況について報告(3)
13. 研究の進捗状況について報告(4)
14. まとめと今後の展望(1)
15. まとめと今後の展望(2)

授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

文献や資料を熟読して授業に臨むこと。

課題・評価方法

文献の読後レポート、研究の進捗状況や取り組む姿勢、授業の参加

態度等を総合的に考慮して評価する。

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

留意事項

研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | a | | 17113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

自分のこだわり・気がかりを大切にテーマを決める。そのテーマにそって研究を続けながら文章表現の力もつける。それらの成果を卒業研究としてまとめる。KAISEIパーソナリティのI(知性)A(自立)を育成する。

授業の概要

個々のテーマに即してディスカッションを多く採り入れて指導する。さらに、正確な情報を選択、採用する資質能力を養い卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 卒業研究の概略説明
2. 卒業研究の計画、作成の確認
3. 卒業研究の報告と討議 1
4. 卒業研究の報告と討議 2
5. 卒業研究の報告と討議 3
6. 卒業研究の報告と討議 4
7. 卒業研究の報告と討議 5
8. 卒業研究の報告と討議 6
9. 卒業研究の報告と討議 7
10. 卒業研究の報告と討議 8
11. 卒業研究の報告と討議 9
12. 論文推敲 1
13. 論文推敲 2
14. 最終報告と討議
15. まとめ

授業の方法

学生同士で論文の方向性や課題を発表し合い、コミュニケーション能力を高める手立てとする。

準備学修

選考文献を多く収集し、熟読すること

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

個々に応じて指示する

参考図書

個々に応じて推薦する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | b | | 17113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)に重点を置く。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで考察をより深めるようにする。

授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 研究の修正①
13. 研究の修正②
14. 最終報告とまとめ①
15. 最終報告とまとめ②

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

調査結果を適切な図表にまとめ、資料として発表にいかせるようにすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mpri@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | c | | 17113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 調査結果のまとめ方1
2. 調査結果のまとめ方2
3. 調査結果のまとめ方3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 研究の修正・発表1
12. 研究の修正・発表2
13. 研究の修正・発表3
14. 各自の最終報告とまとめ1
15. 各自の最終報告とまとめ2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

秋学期開始までに調査を実施し、結果を簡単にまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | d | | 17113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 今後の卒業研究の進め方
2. 卒業研究の報告と討議①
3. 卒業研究の報告と討議②
4. 卒業研究の報告と討議③
5. 卒業研究の報告と討議④
6. 卒業研究の報告と討議⑤
7. 卒業研究の報告と討議⑥
8. 卒業研究の報告と討議⑦
9. 卒業研究の報告と討議⑧
10. 卒業研究の報告と討議⑨
11. 卒業研究の推敲①
12. 卒業研究の推敲②
13. 卒業研究の最終報告と討議①
14. 卒業研究の最終報告と討議②
15. まとめ

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究テーマに沿って、作家や作品について分析・考察し、レポートを作成すること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 演習科目〈演習科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 演習Ⅳ | e | | 17113 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)を養う。

授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究内容を作成・完成していく。

授業計画

1. 研究の進捗状況の確認(1)
2. 研究の進捗状況の確認(2)
3. 研究の進捗状況の確認(3)
4. 研究の報告と討議(1)
5. 研究の報告と討議(2)
6. 研究の報告と討議(3)
7. 研究の報告と討議(4)
8. 研究の報告と討議(5)
9. 研究の報告と討議(6)
10. 研究の報告と討議(7)
11. 研究の修正とまとめ(1)
12. 研究の修正とまとめ(2)
13. 研究の修正とまとめ(3)
14. 最終報告とまとめ
15. 最終報告とまとめ

授業の方法

各自の報告と全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修

図書館の文献収集やPCでの情報検索に努めること。

課題・評価方法

文献の読後レポート、卒業研究文の完成度、研究の進捗状況や取り組む姿勢、授業の参加態度等を総合的に考慮して評価する。

欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門基礎科目〈専門基礎科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 発達心理学 | | | 17201 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人間の行動や心を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化しつつあるものとしてそれを捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

本講義では、人間の心というものが他者を含む環境との相互的にかかわりを通して発達していくことを、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、各時期における具体的な保育・教育実践の課題と関連付けて解説してゆく。

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するということ:生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するということ:遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき3点の減点とし、欠席5回以上で不合格とする。

テキスト

川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|----------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門基礎科目〈専門基礎科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育内容総論 | | | 17205 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている内容について、十分に理解するとともに、保育の歴史の変遷や現在の保育を取り巻く状況について学び、保育とは何か総合的な理解を高めていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園教育要領と保育所保育指針を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進め、指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

1. オリエンテーション・保育の基本(1)
2. 保育の基本(2)・「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴
5. 環境を通しておこなう教育・遊びを通しての総合的な指導
6. 養護と教育・乳児保育・長時間保育
7. 保育内容(5つの領域)について
8. 遊んでみよう(1)
9. 遊んでみよう(2)
10. 遊んでみよう(3)
11. 保育の展開にあたって(1)発達や学びの連続性・小学校教育との円滑な接続に向けて
12. 保育の展開にあたって(2)保護者との連携・家庭生活との連続性
13. 保育の展開にあたって(3)子育ての支援・多文化共生の保育
14. 保育の展開にあたって(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 乳幼児期の保育・教育についてのまとめ

授業の方法

講義を中心とするが、ワークやグループディスカッションも取り入れる。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」と「保育所保育指針解説書」を読み、内容はもちろん保育・教育に関する用語の把握に努めること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)厚生労働省「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)「あそびうた大全集200」(永岡書店)

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 性格心理学 | | | 17309 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 吉村 友子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 性格とは何かということについて、心理学の様々な理論、性格の形成要因や発達過程、心の病などの視点から捉え、自分や他者についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
 人間の行動の仕方には個人差があることから性格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、性格はいかにして形成されるのか、性格を理解するための理論にはどのようなものがあるのか、さらには、性格から生じる不適応などの問題について学び、自分理解と他者理解の促進をはかる。

授業計画

- 1.はじめに：性格の定義・研究史
- 2.性格の諸理論
- 3.性格の類型論
- 4.性格の特性論
- 5.性格の発達Ⅰ：性格形成の要因
- 6.性格の発達Ⅱ：ライフサイクル論
- 7.家族関係と性格
- 8.人間関係と性格
- 9.文化と性格
- 10.適正とは
- 11.性格と心の病
- 12.性格理解の方法Ⅰ：バウム・テスト
- 13.性格理解の方法Ⅱ：エゴグラム
- 14.性格理解の方法Ⅲ：文章完成法テスト
- 15.総括

授業の方法
 講義とペアまたはグループワークを中心とし、適宜心理検査を実施する。

準備学修
 授業後の復習が必要である。

課題・評価方法
 定期試験（50％）、小レポート（20％）、出席状況（15％）、授業後の感想文（15％）

欠席について
 補填を希望する場合は、必ず申し出ること。

テキスト
 プリントを使用する。

参考図書
 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』 サイエンス社

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 感情心理学 | | | 17317 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標
 人間が集団生活する上での「感情」の発達や反応を理解することは、協働や相互理解を深化させることに有益である。これらを踏まえ、対人専門職の基礎基本を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要
 感情と認知、感情と脳の働きを切り口にして、対人専門職をめざす人の基礎を養う。感情は人間関係づくりにおいて大きな役割を果たす分野である。自己を知ることから始め、他者を理解しようとする意欲を高める。

授業計画

- 1.感情心理学とは
- 2.心理学における感情の定義
- 3.感情と表情
- 4.感情を作り出す脳のメカニズム
- 5.社会や文化によって影響を受ける感情のしくみ
- 6.感情がどのように行動を選択するのか
- 7.安全と生存にかかわる感情 不安、恐怖のしくみと解放
- 8.意図的な感情制御と心理療法の活用
- 9.感情一致効果
- 10.感情と自己特にうつ傾向と若者に多い新型うつについて
- 11.感情と言語その1感情経験と「ことば」
- 12.感情と言語その2独り言やつぶやきの役割
- 13.感情と言語その3感情経験を共有すること
- 14.感情と言語その4感情経験を文字にする
- 15.感情と病理

授業の方法
 講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式もとり入れる。

準備学修
 現代社会でおこる家族・親しい関係間での事件に関連する「感情」に関心を持つ

課題・評価方法
 平常点70％、定期試験30％

欠席について
 学内の規定に準ずる

テキスト
 大平英樹 編 『感情心理学・入門』有斐閣アルマ

参考図書
 授業時に紹介する

留意事項
 自分の考えを持ち、表現しようとする努力を望む

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 人格発達心理学 | | | 17321 | Ⅱ | 集 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人格の発達にとって、年齢によって変化する身体と社会的な諸関係、文化というものが重要な役割を果たすことについて、各発達段階ごとの課題や危機の理解をふまえた説明ができることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自立）とI（知性）とS（奉仕）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間の心理的発達の特殊性は、文化を担った社会的環境の中で他者との関係を築き上げながら変化していくことにあると考えられる。また、その変化は、具体的な身体を有する人間と人間との各時期に応じた葛藤をはらんで展開するものであると考えられる。本講義では、主に精神の情動的側面の意義についての考察をふまえ、エリクソンの人格発達理論に依拠しながら、他者との関係性の発達としての人格発達について論じてゆく。

授業計画

1. オリエンテーション 人間の発達における情動のもつ本質的役割
2. 人格発達における対人関係の葛藤とその克服の意義
3. 自己未分化の世界における信頼関係:自己を映し出す鏡としての他者
4. 活動における自立性と自我の発生:自我の芽生えと対人的葛藤
5. 社会的役割関係への関心:幼児期における親世代との葛藤
6. 人格発達の躰き1(乳幼児期)
7. 規範性の世界への参入:学童期の同世代の仲間関係の中での自己
8. 自我同一性と同一性拡散:「私とは何か」という問いと進路選択
9. 人格発達の躰き2(学童期・青年期)
10. 成人他者との社会的関係の維持・発展:生活の共有関係における自己実現と妥協
11. 次世代(子ども)との安定した関係の構築:次世代を育てる関係の維持
12. 喪失体験と死を前にした人生の統合:過去経験の統合と受容
13. 人格発達の躰き3(成人期・老年期)
14. 人格発達を背後で支える自然・社会環境について
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、人間関係の様式やその危機に関する作業課題に毎回の授業で回答しながら学習をすすめる。

準備学修

発達の变化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子 共著『グラフィック性格心理学』サイエンス社エリクソン,E.H. 『幼児期と社会 Ⅰ、Ⅱ』みすず書房

留意事項

講義内容を理解してゆく前提として、「発達心理学」を受講しておくことが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 臨床心理学 | | | 17325 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 津田 明子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の中核を成す人格理論・発達理論について学習する。その上で、臨床心理学の実際としての心理アセスメントと基本的な心理療法について学び、最終的に臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）について考える。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の歴史の変遷を概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の考え方（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解するという事について考えてもらう。

授業計画

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
4. こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
5. こころの発達理論①エリクソンの考え方
6. こころの発達理論②クラインの考え方
7. こころの発達理論③マラーの考え方
8. こころの発達理論④ウイニコットの考え方
9. 臨床心理学の実際—心理アセスメントについて
10. 臨床心理学の実際—心理療法とは
11. 心理療法①精神分析療法・分析心理学派
12. 心理療法②クライエント中心療法
13. 心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
14. 心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法、総括
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

準備学修

授業開始までに臨床心理学に関係すると思われる書籍で関心のあるものを1冊以上読んでおくこと。授業開始後は、適宜そのテーマにあった書籍を参考資料として紹介していく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 認知心理学 | | | 17329 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの意味を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということ、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.人間の知覚的特性:視覚
- 3.人間の知覚的特性:聴覚
- 4.人間の知覚的特性:運動感覚と認知
- 5.人間の知覚的特性:空間知覚
- 6.注意と記憶1
- 7.注意と記憶2
- 8.イメージ処理
- 9.言語と談話理解1
- 10.言語と談話理解2
- 11.推論と問題解決
- 12.思考と言語1
- 13.思考と言語2
- 14.社会的認知
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に毎時間回答しながら学習をすすめる。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

末田啓二 編著 『心理学の最先端』2013 あいり出版 他適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 心理統計学 | | | 17337 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 須崎 暁世 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

統計の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味について解説する。講義はできる限り具体的なデータを学生が扱いながら、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学んでゆく。

授業計画

- 1.データの性質について:変数と尺度水準
- 2.データの性質について:尺度水準と変数変換
- 3.データの表現:ヒストグラムの作成
- 4.代表値と散布度
- 5.標準化とは何か
- 6.相関係数とは何か:散布図・共分散
- 7.相関係数とは何か:2変数の関係
- 8.標本と母集団①
- 9.標本と母集団②
- 10.統計的仮説検定の考え方①
- 11.統計的仮説検定の考え方②
- 12.ノンパラメトリックな検定:カイ二乗検定
- 13.平均値の差の検定:t検定
- 14.データの分散と条件の比較:分散分析の読み取り方
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジメを用いて学習を進める。

準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジメを読み込み、4時間、予習・復習すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特別欠席の際、補填を希望する場合には、必ず次週にその旨を申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

| | | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 心理学基礎実験 | | 17341 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 澤田 瑞也 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から動機までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.知覚1—ミューラー・リヤー錯覚
- 3.知覚2—ミューラー・リヤー錯覚
- 4.認知・学習1—鏡映描写
- 5.認知・学習2—鏡映描写
- 6.レポートに関するコメント(1)
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.情報伝達1
- 12.情報伝達2
- 13.レポートに関するコメント(2)
- 14.イメージ測定
- 15.総合レポートの作成

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。レポートの書き方に慣れておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

2週で1セットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートが書けないことになる。

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

| | | | | | |
|----------|-----|-------|------|-----|------|
| 心理・臨床・発達 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 心理検査法実習 | | 17343 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

基本的な心理検査法を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深める為に、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1.はじめに：心理検査法概論
- 2.東大式エゴグラム TEG
- 3.矢田部・ギルフォード性格検査
- 4.コーネルメディカルインデックス CMI
- 5.BIG FIVE 尺度
- 6.津守・稲毛式乳幼児発達診断
- 7.津守・稲毛式乳幼児発達診断
- 8.遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9.新版K式発達検査①
- 10.新版K式発達検査②
- 11.新版K式発達検査③
- 12.WISC知能検査①
- 13.WISC知能検査②
- 14.WISC知能検査③
- 15.総括

授業の方法

主に実習形式で行い、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

その都度紹介する。

参考図書

その都度紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 心理調査・データ処理法 | | | 17345 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 須崎 暁世 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法を学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法を、問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

1. 調査研究の方法:実験法・観察法との比較 1
2. 調査研究の方法:実験法・観察法との比較 2
3. 調査研究の方法:面接調査法・検査法との比較
4. 質問紙作成の基礎
5. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法 1
6. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法 2
7. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
8. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成 1
9. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成 2
10. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成 3
11. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 1
12. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 2
13. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 3
14. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 4
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順をレジメ等の資料を基に学びながら、学習を進める。

準備学修

事前に心理統計学の基本的な用語や計算手法を復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジメを読み込み、4時間、予習・復習すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特別欠席の際、補填を希望する場合には、必ず次週にその旨を申し出る事。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房

参考図書

田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
宮本聡介・宇井美代子編 2014 質問紙調査と心理測定尺度一計画から実施・解析まで一 株式会社サイエンス社

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 人格発達障害論 | | | 17361 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人格形成に影響を与える諸要因について学び、他者理解や自己理解、そして自己成長の手がかりとなる知識を得る。人格理論を学びながら、よりよい人間関係を築くための思いやりの心や共感性を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人格の発達の諸理論と、人格形成に影響を与える要因について、また、人格の成長を阻害する要因と、人格の障害とはどのようなことであるかについて理解を深める。また心理査定や心理療法の事例を通じて、「自分」や「他者」のこころを理解し、人格心理学の知識を今後の人生や社会生活の中で活かしていけるように、演習等を交えながら、体験的に知識を身につける方法を学ぶ。

授業計画

1. 人格とは
2. 人格を知る方法(心理テスト)
3. 人格の発達について 1
4. 人格の発達について 2
5. 人格の発達について 3
6. 人格形成に影響を与える要因について 1
7. 人格形成に影響を与える要因について 2
8. 人格の成長を阻害する要因について 1
9. 人格の成長を阻害する要因について 2
10. こどもの心の問題
11. 問題行動と性格
12. 不適応と病理(演習) 1
13. 不適応と病理(演習) 2
14. 不適応と病理(演習) 3
15. 不適応と病理(演習) 4

授業の方法

人格理論を復習後、心理査定の各自の結果と事例報告とを比較検討する。人格に影響する要因について実際のケース報告を元に討議する。人格の病理について演習を実施する。

準備学修

演習で与えられるテーマについて可能な限り多くの文献に目を通しておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

鈴木乙史・佐々木正弘著 『人格心理学—パーソナリティと心の構造—』 2006 河出書房新社

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 臨床心理学実習1（心理テスト法） | | | 17373 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検査者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1. はじめに：心理テスト概論・利用法
2. 東大式エゴグラム・CMI
3. YG性格検査
4. PFスタディ
5. PFスタディ・SCT
6. K式発達検査
7. K式発達検査
8. WISC知能検査
9. WISC知能検査
10. クレベリン作業検査
11. バウムテスト
12. 風景構成法
13. スクイグル法
14. スクイグル法・箱庭療法
15. 箱庭療法 総括

授業の方法

主に実習形式で行い、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

その都度紹介する。

参考図書

その都度紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 臨床心理学実習2（カウンセリング法） | | | 17377 | Ⅲ | 秋 | 20 |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 津田 明子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

授業の中でさまざまな実習を体験し、そこからカウンセリングにおける人間関係やカウンセラーに必要な姿勢など、カウンセリングの専門性とは何かについて考えてもらう。そして、さまざまな実習体験の中で自身がどのように感じ、考えたか、自身のこころの動きをしっかりと見つけ、レポートにまとめられるようになることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）について考える。

授業の概要

心理療法、特にカウンセリングについての基本的な知識、カウンセラーとクライアントとの関係性を中心に実習と講義を行う。そして実習を通して「信頼感」、「共感」、「純粋性」などについて考える。最終的には、疑似ケースを使ったカウンセリング実習を行い、実際のカウンセラーとクライアントの心の動きやプロセス、カウンセラーに必要な姿勢などを自身の振り返りやカンファレンスから考えていく。自身がどのように感じ、考えるかを大事にし、授業を進めていく。

授業計画

1. 自己紹介実習
2. 信頼実習
3. 感情と行動の実習
4. コミュニケーション実習①
5. コミュニケーション実習②
6. 助言の実習
7. ロールプレイ実習
8. 心理臨床を学ぶー心理療法とカウンセリング
9. [宝探しの地図]実習
10. コンセンサスの実習
11. 共感と純粋性の実習
12. カウンセリング実習・振り返り①
13. カウンセリング実習・振り返り②
14. カウンセリング実習・振り返り③
15. カウンセリング実習・振り返り④、総括

授業の方法

グループやペアによる実習とその振り返りを中心に授業を進めていく。

準備学修

臨床心理学の授業の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習が中心のため、事前連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

その都度紹介する。

| | | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 心理学文献講読 1 | | 17385 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 澤田 瑞也 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典にあたりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

母親の育児態度・感情が子どもの心理的発達にどのような影響を与えていくかについての論文を購読する。発表者は割当てられた論文について、要点を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それに基づいて皆にわかるように説明していく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(1)
3. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(2)
4. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(3)
5. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(4)
6. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(5)
7. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の購読(1)
8. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の購読(2)
9. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の購読(3)
10. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の購読(1)
11. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の購読(2)
12. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の購読(3)
13. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の購読(1)
14. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の購読(2)
15. 今後の研究課題

授業の方法

ゼミ形式で行う。

準備学修

レジュメの作り方と口頭発表の仕方について考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は発表の仕方を工夫すること。発表を聞く側は質問をし、また自分の意見、感想を記述すること。

| | | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 生活文化概論 | | 17405 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

1. 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
2. 子ども文化の意義、定義とその構造
3. 子どもを取り巻く生活環境の変化
4. 現代の生活環境と人間的環境
5. 現代の子どもたちの遊びと生活
6. 集団遊びの重要性①
7. 集団遊びの重要性②
8. 自然とのかかわりについて
9. 地域、公共物とのかかわりについて
10. 1年を通して、季節の子ども文化と遊び
11. 子ども文化財について①
12. 子ども文化財について②
13. 伝承遊びについて
14. 基本的な生活習慣、慣習、礼儀作法
15. まとめ

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

自分の身のまわりにある文化財について調べる。子ども文化財を作ってみる。子ども文化に実際体験として触れる機会をもつ。（学

習時間として、授業時間の2倍程度を必要とする)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
 児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、授業前のボードを確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教育心理学 | PC | 17409 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

主に幼児期、児童期における乗り越えるべき課題を、心理学的な切り口で捉えて活路を見出そうとする。教育課程上の様々な場面への有効な心理学的なアプローチを理解する。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性や特別支援教育等の現場の実際と課題の概略を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）をめざす。

授業の概要

ほめて育てることが大切だと言われるが、「本当にそうなのか」とまず自分で考える。自分の考えの背景となる根拠・理由を話せるようにを努力する。さらに対人専門職をめざす学生が、子どもとの関係づくりのコツを理解することで、子どもにより良い支援や理解ができるようになることをめざす。

授業計画

1. 「小さなできる」から「やる気」を育てる
2. 質的な「子どもと向き合う時間」を創る知恵
3. 保護者連携の勘所
4. 勤務の適正化と多忙感の緩和
5. 学習の効果的な方法と支援の在り方
6. 人間の発達について考える その1 発達段階
7. 人間の発達について考える その2 遺伝と家庭環境
8. 人間関係づくり 1 構成的グループエンカウンター等
9. 人間関係づくり 2 文章完成法演習
10. 人間関係づくり 3 リフレーミング
11. 人格発達の多様な視点 エリクソンの発達段階 1
12. 人格発達の多様な視点 エリクソンの発達段階 2
13. 人格発達の多様な視点 エリクソンの発達段階 3
14. カウンセリング技法その1 クライアントとの距離
15. カウンセリング技法その2 教育現場で生かせるカウンセリング技法

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|------------------|-----------|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 初等音楽1 | ①/②/③/④/⑤ | 17417 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 南 夏世/由井 敦子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、保育者・指導者として実践に必要な「楽典」「歌唱」「ピアノ演奏」の基礎的能力を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード習得のための音楽理論を中心に、読譜に必要な基礎を学習する。「歌唱」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるように演習する。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならぬ。

授業計画

1. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 音楽表現活動について。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半は音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半で個人レッスンを行う。授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているの

で、できる限り受講すること。

準備学修

ピアノ譜（ト音記号とヘ音記号）の読譜ができることが望ましい。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」（YAMAHA MUSIC MEDIA）
ピアノテキスト「バイエル」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

入学時にピアノ経験者を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。日時については、教学課前掲示板を確認すること。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|---------------|----|-------|------|-----|------|
| 初等音楽2 | ①/②/③/④/⑤/再履用 | | 17421 | I | 秋/春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 南 夏世/由井 敦子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

こどもの発達に応じた音楽表現活動を展開していくために、保育者・指導者として実践に必要な「楽典」「歌唱」「ピアノ演奏」の基礎的能力を高めていくことがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

調性やカデンツの学習と演習を重ね、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。また、子どもの成長と発達を踏まえた表現活動を援助できるように、表情豊かなピアノ演奏を目標にピアノ技能を高めていく。

授業計画

- 1.コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 2.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 3.こどもの発達と歌唱教材。連弾。
- 4.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 5.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 6.調性とカデンツ。弾き歌いと連弾。
- 7.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 8.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 9.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 10.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 11.コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 12.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 13.こどもの発達と歌唱教材。速度に応じたピアノ個人レッスン。
- 14.様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 15.様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半で音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半でピアノ個人レッスンを行う。授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

準備学修

春学期に学習した楽典とコードの基礎知識を完全に習得しておくこと。

課題・評価方法

平常点60% 定期試験40%
個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
ピアノテキスト「バイエル」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時表提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
日時については、授業前掲示板を確認すること。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 児童文学 | PC | | 17437 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 福智 佳代子/箕野 聡子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

(西洋児童文学)児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム(マザーグース)、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。(福智 佳代子)

(日本児童文学)近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。(箕野 聡子)

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまみきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
6. 有島武郎「一房の葡萄」と岡田淳「学校ウサギを捕まえる」(箕野)
7. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
8. 動物童話とは。歴史童話とは。まとめ。(箕野)
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の世界(福智)
10. エリック・カール「ブラウン・ベア」の絵本の世界(福智)
11. マーク・トウェイン「トムソーヤとハックルベリ・フィン」自由と

冒険の世界(福智)

12. ローラ・インルス・ワイルダー「大草原の小さな家」少女が見たアメリカ開拓史(福智)
13. ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」(福智)
14. アントワーヌ・ド・サン・テグジュペリ「星の王子様」(福智)
15. ミヒャエル・エンデ「はてしない物語」(福智)

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。

準備学修

作品をあらかじめ読んでおくこと。未読の本関しては、図書館等で借りておくこと。(予習復習にかかる時間：1回の授業につき4時間)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）(福智)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp (箕野)
fukuchi@kaisei.ac.jp(福智)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|-------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目 <こどもの生活世界> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 学習・発達論 | | | 17441 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

他の動物とは異なる人間の発達の特異性が、文化を学習してゆくという点にあることを、学習・発達理論の研究の歴史や人間の発達のプロセス、環境や状況による発達への影響、教育実践や臨床場面での課題について各自のサーチと演習を通じて説明できるようにすることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間発達の歴史について、学習・発達の視点から考えてゆく。基礎的な学習理論について学び、発達と共に活性化される社会的活動に伴い、環境との相互作用の中で、学習の機会は今以上に増加する。その様子を基礎的な学習過程、社会的場面、言語や思考、遊びの発達について概観し、教育場面、臨床場面での応用に結び付けてゆく。また、ピアジェとヴィゴツキーの理論について比較検討する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の学習・発達の歴史
3. 認知能力の変容 1
4. 認知能力の変容 2
5. 状況に埋め込まれた学習 1・社会的学習
6. 状況に埋め込まれた学習 2・問題解決
7. 思考と言語
8. 認知能力の変容 3
9. 「話し言葉」から「書き言葉」への移行
10. 発達と学習 1: 年齢期の問題をめぐって
11. 実習 1 学習を役立てるために 1
12. 発達と学習 2: 遊びの中の学習・人はなぜ学ぶのか
13. 精神発達の障害と学習: 臨床場面・教育現場での学習理論の応用
14. 発達をめぐるピアジェとヴィゴツキーの論争について
15. 総論

授業の方法

講義と単元内容に相応した学習や認知能力の発達に関するグループごとの演習課題の発表や個人での作業課題を毎時間行いながら学習を進める。

準備学修

演習形式の授業なので、担当するテーマについて各自・各グループごとにリサーチし、レジュメにまとめて発表できるよう準備を進めておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』2010 北樹出版

参考図書

学習心理学 理論と実践の統合をめざして

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|-------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 専門分野科目 <こどもの生活世界> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 乳幼児心理学 | | | 17445 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 吉村 友子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人のかかりについて検討する。

授業計画

1. はじめに: 乳幼児心理学とは
2. 胎児の発達
3. 新生児の能力
4. 乳幼児の心の発達
5. 乳幼児期の発達Ⅰ: 姿勢・運動
6. 乳幼児期の発達Ⅱ: 認知と知性 1
7. 乳幼児期の発達Ⅲ: 認知と知性 2
8. 乳幼児期の発達Ⅳ: 言葉
9. 乳幼児期の発達Ⅴ: 社会性
10. 自分について理解する力の発達
11. 遊びの発達
12. 乳幼児の発達を支えるⅠ: 子育て
13. 乳幼児の発達を支えるⅡ: 親としての成長
14. 乳幼児の発達を支えるⅢ: 社会的問題
15. 発達の偏りと支援

授業の方法

講義とグループワークを行う。

準備学修

授業のあとに復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席（15%）、授業後の感想文（15%）

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

遠藤俊彦・佐久間路子・徳田治子・野田順子 『乳幼児のこころ子育ての発達心理学』 有斐閣

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| ことばの発達・学習 | PC | 17461 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

私たちは、言語（音声言語には限定しない）を持つことでコミュニケーション行動が活発になる。表情や振る舞いなどのノンバーバルが意思伝達の多くを占めることは否めないが、それとて内言語として言葉と行動が密接に連携している。子どもが言語を取得していく過程を知ることで、より確かな支援ができるようにすることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

現行小学校・中学校指導要領では、改めて「ことば」の育成が重点課題としてあげられている。それは、グローバル社会において、諸外国との意思伝達手段として必要不可欠であるとともに、日本人としての伝統と文化を守り、つなぐ上でも大切だからである。子どもの言葉の発達過程を理解し、より良い支援の方法を学ぶ。

授業計画

1. ことばの発達の基礎にあるもの
2. コミュニケーション行動の働き方
3. 言語が成立するまで
4. ノンバーバルコミュニケーション
5. ことばに障害がある子どもの理解その1 視覚障害
6. ことばに障害がある子どもの理解その2 聴覚障害
7. 発音の発達とことば
8. 聞く力を育てる
9. 発声をふやす
10. 音をまねる
11. 音の明瞭さを育てる
12. 発音につまずきのある子の指導その1 ことばにふれる機会が少ない子
13. 発音につまずきのある子の指導その2 鼻から空気がもれてしまう子の支援
14. 発音につまずきのある子の指導その3 口腔器官に障害がある子
15. 就学前教育としての「ことば」

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参

加できる形式もとり入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』保育出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

授業でのフィードバックシートを配布したときは、しっかりと取り組むこと

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| キッズ・イングリッシュⅠ | PC | 17465 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。言語習得理論から授業法の実践まで、小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した英語教育を担う教員養成が必要とされている。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、

1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方をディベートで熟考し、
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズなど基本的な授業法をワークショップ形式で体験、
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、秋学期の実習準備をする。

以上をワークショップで体験し、指導者として教育現場で「授業ができる」資質を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 「年間カリキュラム作成」
2. 『身近にある異文化共生』を取り入れた楽しい小学校英語活動作成法
3. ワークショップ(1)「歌・チャンツ」を取り入れた授業法
4. ワークショップ(2)「歌・チャンツ」プレゼンテーション
5. ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
6. ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
7. ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
8. ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
9. ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
10. ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
11. ワークショップ(9)「絵本、物語を取り入れた授業」を考える
12. ワークショップ(10)「絵本、物語を取り入れた授業」プレゼンテーション
13. ワークショップ(11)「フォニックス、文字を取り入れた授業」を考

える

14. ワークショップ(12)「フォニックス、文字を取り入れた授業」プレゼンテーション
15. まとめと評価「ワークシート・振り返りカード作成」

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| キッズ・イングリッシュII | PC | 17469 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 福智 佳代子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創りを考え、模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)
〔活動案作成のポイント〕
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)
〔絵カード・教具・ワークシート作成法〕
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)
〔活動案発表〕
4. 小学校英語活動 観察
5. 実習授業活動案作成(1)〔教材研究〕
6. 実習授業活動案作成(2)〔教具作成〕
7. 実習授業活動案作成(3)〔評価の観点と振り返りカード作成〕
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 第1回小学校英語活動 実習体験
10. 実習授業活動案作成(4)〔教材研究〕
11. 実習授業活動案作成(5)〔教具作成〕
12. 実習授業活動案作成(6)〔評価の観点と振り返りカード作成〕
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第2回小学校英語活動 実習体験(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-------|-------|------|-----|------|
| 初等音楽3 | ①/②/③ | 17473 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 南 夏世 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的スキルを高める。また、子どもの発達や現代の環境等を踏まえて教材を研究し、子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を学ぶ。

授業の概要

子どもの歌、生活の歌、季節の歌等を、明瞭な日本語で、弾き歌いのコード奏ができるように演習する。また、表現活動のために、表情豊かなピアノ演奏を目指し、個人レッスンを行う。さらに、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習し、身体表現の音楽の学びを深める。

授業計画

1. 初等音楽1・2で習得したコードの復習と弾き歌いの演習。
2. 子どもの発達を踏まえた表現活動のねらいと内容。
3. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. 表現活動のためのピアノの個人レッスン。楽典。
6. 季節の歌、遊びの歌、研究と演習。
7. 場面に応じた音楽の研究。
8. ピアノの特殊効果と変奏。
9. 身体表現のための変奏の習得。
10. 身体表現のための変奏の習得と発表
11. 表現活動のためのピアノの個人レッスン。楽典。
12. 和太鼓の打法と演奏。
13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

授業の方法

各自の練習を基に、個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

初等音楽1・2で習得したコードを理解し、瞬時にピアノで弾ける

ように練習しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に提示される課題や準備をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 初等音楽4 | ①/② | 17477 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 南 夏世 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的技能を高める。また、初等音楽3で学習した内容をもとに、実際に保育現場で役立つ音楽活動のシミュレーションを行い、幅広い表現活動ができる指導力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）と、A(自律) S(奉仕)を学ぶ。

授業の概要

音楽の基礎であるリズムについての学びを深め、合奏の演習を通して楽譜の書き方を学び、楽典の基礎を固める。並行して、表現活動のためのピアノ曲やコード奏による弾き歌いの演習を通して、実習に向けての準備を行う。そして表現の総括として、グループでオペレッタ、劇などの作品を仕上げ、現場で実践指導できる技能を習得する。

授業計画

1. 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2. 歌唱教材研究。子どもの歌とわらべうた。
3. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
4. リズムについて。(リズム遊び、リズム奏、手拍子など)
5. 打楽器の奏法とリズム合奏。
6. 合奏演奏と編曲法。
7. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
8. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
9. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
10. 歌唱指導の実践。
11. 歌唱指導の実践。
12. さまざまな表現活動とそのまとめ。
13. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
14. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
15. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法

各自の練習を基に、個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

バイエル終了以上の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に提示される課題や準備をして授業に臨むこと。
初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-----------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 教育相談(カウンセリングを含む) (初等) | 教職小 | 17497 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

複雑・多様化する社会で、様々なカウンセリングの技法や学派がひしめき合っている。学習初心者にとって、教育相談の基礎基本をきちんと理解して活用できるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1. カウンセリングの基礎その1 定義
2. カウンセリングの基礎その2 特質
3. カウンセリングの基礎その3 理論
4. 子どもの内面理解その1 生育歴
5. 子どもの内面理解その2 友人関係づくりの特徴理解
6. 子どもの内面理解その3 家庭環境
7. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその1 アディクション
8. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその2 強迫神経症
9. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその3 パニック障害
10. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその4 摂食障害
11. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその5 適応障害
12. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその6 PTSD
13. 事例研究により、心に表れる様々な症状を理解するその7 心身症
14. 発達障害の理解その1 自閉症スペクトラム
15. 発達障害の理解その2 保護者相談

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけでなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

桜井美加著『教育相談ワークブック』北樹出版

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目 < こども関連科目 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 子育て支援と地域社会 | | | 17501 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、幼稚園や保育所はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある教諭、保育士を目指す。このクラスではKAISEI/パーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

保育所保育指針の改定に伴い保育所における保育士の業務として保護者支援を行うことが明記された。子育て支援とは何か。保育士を志している学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

授業計画

1. 子育て支援とは何か。 保育者の役割と理解
2. 地域の子育て支援について知り、計画実践
3. 地域の子育て支援について知り、計画実践
4. 子育ての変化と子育て支援の必要性(母子を取り巻く環境と少子化時代の子育て)
5. 子育て支援の必要性と「子育て支援の実際」について
6. 地域の子育て支援事業について
7. 幼稚園での子育て支援の取り組み
8. 地域社会での子育て支援の取り組み、見学・参加
9. 地域社会での子育て支援の取り組み、見学・参加
10. 地域社会での子育て支援の取り組み、見学・参加
11. 家庭の役割 父親の育児参加について
12. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実際
13. 育児アドバイスの仕方(グループワーク)
14. 親子の遊びの実践(親子遊び、手作りおもちゃを考える)
15. まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。

準備学修

各種新聞に子育て支援についての記事が多く掲載されていたり、実習園で子育て支援が実践されていたりしている。それらの子育て支援のあり方について関心を持ち、子育てについての記事を抜粋し書きだしてくる。自分の周りの子育て支援の実際を体験する。(学習時間として授業時間の2倍程度を必要とする)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実践を多く取り入れているので、1回欠席につき5点の減点とする。

テキスト

あそびうた大全集 永岡書店

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
 世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
 地域で子育て 渡辺頭一郎編著

留意事項

実際の支援の様子を見学・参加するフィールドワークを多く取り入れ、子育て支援の理解を深める。フィールドワークが多いので、授業計画についてはかなり変更がある為、日程については授業の前を常に見ておく。受講者は子育て支援に関心のある者。また、灘秋祭りへの参加については、10月第1土曜日、又地域社会での子育て支援の取り組みの見学・参加については、土曜日に行うことがあるので、必ず日程調整できるようにしておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目 < こども関連科目 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| ボランティア論 | | | 17505 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 加藤 雅典 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・分野の基本を学習しながら、「興味」「得意なテーマ」「専門的学習への動機」などの契機を個々人で具体化し、体験活動に参加することを目標とする。体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心や能動性を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEI/パーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」などを、グループを基本にして全員で考える。次に、基本理念、歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い、体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や、参加意識を深めていく。

授業計画

1. ボランティアとは？＝グループ討議＝
2. グループ発表
3. ボランティア活動のキーワードを見つける
4. 基本理念
5. 歴史
6. 地域での活動の実際
7. 社会福祉施設等での活動の実際
8. ボランティアセンターの機能と役割
9. 体験活動のための知識と準備
10. ボランティア活動の体験(1)
11. ボランティア活動の体験(2)
12. 災害と学生ボランティア
13. 体験活動の記録化と振り返り
14. グループ討議と発表
15. プレゼンテーション(体験活動の成果)

授業の方法

ボランティア体験を基本として事前学習と事後学習により進める。グループ討議とプレゼンテーションを多く取り入れる。

準備学修

発表に向けた事前準備やグループでの準備作業が必要になることがある。

課題・評価方法

ボランティア体験活動（必須）のレポート、及び平常点（随時進行資料の提出がある）による。

欠席について

グループ討議や作業を行うため原則認めない。

テキスト

特に指定しない。

参考図書

特にはない。必要な資料を配布する。

留意事項

3日間の体験活動への参加をはじめ主体的に取り組むことが必要である。実施にあたっては個別相談、指導を行う。

| 関連科目 < こども関連科目 > | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 図画工作 | ①/② | 17509 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 森 晴美 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達過程や特徴について学ぶ。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐくむ指導の在り方を理解することを目指す。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現を多面的に理解し、適切な評価ができる力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実技演習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートを活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにし、作品の一部は地域の子育て支援活動にいかす。

授業計画

1. 図画工作科の目標と内容
2. 造形表現の発達
3. パスによる様々な表現
4. 線による様々な表現
5. 紙による様々な表現
6. 水彩絵の具による様々な表現①
7. 水彩絵の具による様々な表現②
8. 染める技法による様々な表現
9. 版による様々な表現①
10. 版による様々な表現②
11. 土粘土による表現①
12. 土粘土による表現②
13. 身近な材料を使った表現①
14. 身近な材料を使った表現②
15. 生活に役立つものを作る

授業の方法

講義と実技演習を主とする。

準備学修

今回の授業に必要な構想の立案、下絵の完成他をすること。指示された教材を指定された期日までに収集すること。日頃から「作る・描く」ことに親しむこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省
『幼稚園教育要領解説』文部科学省

留意事項

実技演習は、学習課題により個人・及び小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目 < こども関連科目 > | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| 初等体育 | ①/② | 17513 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 木岡 正雄 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

小学校学習指導要領、及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫について学ぶ。グループワークを通して他への思いやり、協調、規律、実行力を養う。

授業の概要

体育の教材内容を実技をすることで、体で動くことや、運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通じて他との教員用や仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

授業計画

1. オリエンテーション。自己紹介。運動学習について概略を講義する。
2. 体づくり運動 体ほぐしの運動の実技をする。
3. 体づくり運動 体力を高める運動の実技をする。
4. 陸上運動系 かけっこの実技をする。
5. 陸上運動系 障害走の実技をする。
6. 陸上運動系 リレーの実技をする。
7. 器械運動系 マット運動の実技をする。
8. 器械運動系 跳び箱の実技をする。
9. 器械運動系 鉄棒の実技をする。
10. ゲーム 鬼遊びの実技をする。
11. ボール運動 ベースボール型のゲームをする。
12. ボール運動 ネット型の運動をする。
13. ボール運動 ゴール型のゲームをする。
14. 体ほぐしの運動 用具を操作する。運動の実技をする。
15. 学習のまとめ。体育学習の工夫等について講義する。

授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、自ら運動の工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 体育 を読んでおくとう理解しやすい。

課題・評価方法

平常点30点。毎授業の学習カードの記述内容70点。

欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

テキスト

小学校学習指導要領 文部科学省

参考図書

特になし

留意事項

1回目 室内シューズ、運動のできる服装を用意する。
登校できるなら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多4-7-20
自宅電話&Fax 078-962

| | | | | | |
|----------------|-----|-------|------|-----|------|
| 関連科目 <こども関連科目> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教育原理 | 教職小 | 17521 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 澤井 一夫 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

- 1 教育の意義と目的について理解する。
 - 2 教育の思想と歴史的変遷について理解する。
 - 3 日本と諸外国の教育制度について理解する。
 - 4 教育実践の取り組みについて理解する。
 - 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要概念について初歩的の理解を得たうえで、教育に関する様々な事柄から、最も基本的なもの、現在社会で注目されているもの等を選び紹介と解説によって講義を展開する。

授業計画

1. 授業の進め方と講義内容の概要を説明する
2. 人間にとって教育とは
3. 教育思想の変遷
4. 日本の(学校)教育の変遷
5. 現行法における日本の学校教育の目的
6. 教育に関係する法規
7. 教育課程と教育内容
8. 学習指導要領-教育課程の変遷
9. 教師の仕事と専門性
10. 教育の方法を考える一さまざまに工夫された授業のあり方
11. 現代社会と教育問題-いじめ・不登校問題など
12. 教育改革の新しい動きと方向
13. 日本と諸外国の教育制度
14. 生涯教育の意義と生涯学習の機会
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

これまで受けてきた教育について思い返しておくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するのではなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

| | | | | | |
|----------------|-----|-------|------|-----|------|
| 関連科目 <こども関連科目> | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 児童家庭福祉 | | 17526 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 中植 満美子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法
10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応-虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応-親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応-非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応-保育
14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応-一人親家庭
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応-貧困

授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

吉田眞理 編 「児童の福祉を支える児童家庭福祉」2012 萌文書林

参考図書

適時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈こども関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|---------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 情緒・学習障害の心理 | | | 17537 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

1. 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
2. 保育士・教師としてできる個別配慮
3. 介助者が加わったときの役割
4. 室内トラブルへの対応その1 解決のポイント
5. 室内トラブルへの対応その2 立ち歩きやエスケープ
6. 室内トラブルへの対応その3 人間関係のトラブル
7. 室内トラブルへの対応その4 パニックを起こしたときの対処
8. 保護者とともに子どもを育てるその1 保護者面談の進め方
9. 保護者とともに子どもを育てるその2 親から学ぶ支援のあり方
10. 周りの子どもやその保護者への対応その1 周辺の子どもの
11. 周りの子どもやその保護者への対応その2 保護者に対して
12. チーム支援その1 確かな情報を共有する
13. チーム支援その2 実態の把握方法
14. チーム支援その3 組織的支援の進め方
15. 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎
『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・表現（造形表現） | ①/② | | 17601 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 必修 | 1 | | | | |

授業の到達目標

乳幼児の造形表現活動を指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。また、教材や用具の扱い方の基礎を理解し、環境を構成する力や作品を読み取る力、そして保育指導案を立てる力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

乳幼児の造形表現における発達の過程や特徴について詳述する。また、造形表現活動で扱う材料・用具・技法について演習を行い、感性を高めるようにする。教材研究や環境構成の工夫などの実践力を身につけるようにし、作品の一部は地域の子育て支援活動にいかす。

授業計画

1. 領域「表現」の造形表現について
2. 乳幼児の造形表現の発達と保育指導案
3. 乳幼児の生活(行事)と造形表現
4. ごっこ遊びにおける造形表現
5. お話や季節のイメージと壁面装飾
6. 自然物を取り入れた造形表現
7. 様々な技法を取り入れた造形表現
8. 身近な素材を使った造形表現

授業の方法

講義と実技を中心とする。

準備学修

次時の課題の構想を立案したり、必要な材料を準備したりしておくこと。教材収集の努力は評価の対象とする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育原理 I | | | 17605 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 伊藤 美和子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針についての基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。

授業計画

1. 保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3. 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(1)
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(2)
6. 養護と教育の一体化について
7. 認定こども園について学ぶ
8. 保育実践の基本構造について
9. 保育内容とその方法
10. 保護者支援について学ぶ
11. 西洋と日本の保育の創成期
12. 西洋の保育実践の発展過程
13. 日本の保育実践の発展過程
14. 保育者の在り方を考える
15. これからの保育に向けて

授業の方法

前回の講義の振り返り、講義、討論、確認小テストで構成される。

準備学修

テキストの指定した範囲を音読すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席した分の課題をしてもらおう。

テキスト

『改訂2版 新保育士養成講座 第1巻 保育原理』新保育士養成講座編纂委員会/編、全国社会福祉協議会出版、2015年。

参考図書

適宜、指示する。

| | | | | | | |
|--------------|------|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教職概論 (幼小) | 教職幼小 | | 17613 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

教職の意義と役割を理解する。また、学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例から、学校教育に期待される様々な役割や今後の教員に求められる資質能力などについて学ぶ。そして、教職に就くための自らの適性と課題を見出すことを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

教職や学校教育について講義する。また、社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、ディスカッションや発表の機会をもつ。そして、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教職の意義
3. 教員の歴史
4. 教員の身分と服務義務
5. 教員の職務内容とカリキュラム
6. 学校の組織と運営
7. 教員のライフステージと研修制度
8. 国際化・情報化と教師の役割
9. 学校における社会体験とキャリア教育
10. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
11. 特別支援教育の推進
12. 人権教育の推進
13. 防災・安全教育の推進
14. 学校・家庭・地域社会の連携と役割
15. 今後の教員に求められる資質能力

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートや小テストにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された部分のテキストを事前に読んで理解したり、教育・保育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

保育士についても詳述するが「保育教諭」として採用されることが増えていることから、教師を目指す者としての意識をもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 幼児教育学原理 | | | 17617 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 須河内 優子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

幼児教育の意義や目的、歴史、さらに今日の幼児教育の課題について学び、幼児教育の原理について理解する。また、幼稚園教育要領や、子どもの遊びについての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を目指す。

授業の概要

幼児教育の意義や目的、歴史を学び、そのことを踏まえた上で、幼稚園教育要領を、具体的な園での子どもの姿と照らし合わせながら学んでいく。また、幼児教育におけるさまざまな問題について、ディスカッションや発表を通して、関心を深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 幼児教育の意義
3. 幼児教育の歴史 日本
4. 幼児教育の歴史 西洋
5. 幼稚園教育要領の歴史
6. 幼稚園教育要領(1)
7. 幼稚園教育要領(2)
8. 幼稚園教育要領(3)
9. 幼児教育における遊び
10. 積み木と組み立て遊び
11. ごっこ遊び
12. 造形活動
13. 日本の幼児教育の課題(1)
14. 日本の幼児教育の課題(2)
15. 日本の幼児教育の課題(3)

授業の方法

参考資料を配布し、それに沿って講義する。また、DVD視聴やディスカッション、発表も取り入れる。

準備学修

「教育原理」の復習

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『幼稚園教育要領解説』

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 幼児教育課程の研究 | | | 17621 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

幼児の心身の発達と生きる力の基礎の育成について理解を深め、教育課程の基本的な考え方について理解する。教育課程・保育課程の編成から指導計画の作成へとつなげ、保育を展開する重要性を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児が日々充実した園生活を送り、健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・保育課程編成のもと指導計画が作成され、それに基づいた環境構成や援助による教育実践が必要である。教育現場での実践例やDVD視聴等を通して、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解するとともに、指導案の作成と評価反省について習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、教育課程と保育課程の意義と編成
2. 教育・保育課程の編成、指導計画の作成について
3. ねらい及び内容、長期の指導計画と短期の指導計画
4. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)①
5. "②
6. 指導計画の作成における留意点について
7. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)③
8. "④
9. 月案作成の実際①
10. "②
11. 週案作成の実際①
12. "②
13. 日案作成の実際①
14. "②
15. 評価と反省について

授業の方法

参考資料を配付し、それに沿って講義する。DVD視聴や実践演習をもとにグループで話し合い意見発表をして、互いに学び合えるようにする。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」の熟読

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき、3点の減点とする。

テキスト

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
『保育所保育指針解説書』フレーベル館

参考図書

幼稚園教育指導資料集第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館 「保育とカリキュラム」ひかりのくに 「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

留意事項

図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育に関する視野を広げてください。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育課程論 (教職小) | 教職小 | | 17625 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 都賀 純 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、概観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、プレゼン・討論等を通して、その意味を学校現場の姿とつないで論理的に考えていく。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのⅠ（知性）を養う。

授業の概要

学校現場では学習指導要領に基づき、独自の教育課程を、各学校の実情に応じて工夫して編成している。そして、この教育課程で日々の教育活動は行われている。現行の教育課程が編成された背景、子供の姿、日々工夫して取り組んでいる教師の姿をつなぐ中で、教育課程の大切さについて学んでいく。また、学習指導要領の各文言が表す意味を、学校現場の具体的な姿とつなぐかたちで理解を図っていきたい。

授業計画

- 第1章 総説(1)
- 第1章 総説(2) (資料)学習指導要領の改訂の経過
- 第2章教育課程の基準 第1節教育課程の意義 第2節教育課程に関する法律(1)
- 第2章教育課程の基準 第2節教育課程に関する法律(2)
- 第3章教育課程の編成及び実施 第1節教育課程編成の一般方針(1)
- 第3章教育課程の編成及び実施 第1節教育課程編成の一般方針(2)
- 第3章教育課程の編成及び実施 第2節内容等の取扱いに関する共通的事項
- 第3章教育課程の編成及び実施 第3節授業時数等
- 第3章教育課程の編成及び実施 第4節指導計画の作成
- 第3章教育課程の編成及び実施 第5節教育課程実施上の配慮事項(1)
- 第3章教育課程の編成及び実施 第5節教育課程実施上の配慮事項(2)
- 第3章教育課程の編成及び実施 第5節教育課程実施上の配慮事項(3)
- 第3章教育課程の編成及び実施 第5節教育課程実施上の配慮事項(4)

14. 第3章教育課程の編成及び実施 第5節教育課程実施上の配慮事項(5)

15. 第4章教育課程編成の手順と評価

授業の方法

教育課程に対する学生の発表、論述を大切にし、そこから生まれる疑問について討議をする中で理解を深めていく。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲と積極性を持って授業に臨むこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・人間関係 | | | 17629 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命についても理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのⅠ（知性）とA（自律）をめざす。

授業の概要

幼稚園教育要領の「人間関係」では、身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つこととある。つまり、身近な人とかわるに留まらず深めていかなければならない。時には自己主張のぶつかり合い、いたわり合いなどの心の交流を、保育士、教師は積極的に仕組んでいく必要がある。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で、に共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解させたい。そのために役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

- 子どもを取り巻く環境から「人間関係」を考える
- 現代社会における人間関係の特徴
- 領域「人間関係」その1改訂の趣旨
- 領域「人間関係」その2幼児教育の新たな位置づけ
- これからの「人間関係」その1幼小をつなぐ「生きる力」
- これからの「人間関係」その2就学前に必要な道徳的実践力
- 人間関係づくりを支える園内協力体制
- いろいろな子育て支援
- 人間関係の発達その1自己意識
- 人間関係の発達その2愛着
- 人間関係の発達その3仲間との関係性において育つ力
- 人間関係の発達その4家庭との連携
- 「人間関係」と「遊び」その1遊びの意義
- 「人間関係」と「遊び」その2保育者と子どもの関係づくり
- 「人間関係」と「遊び」その3保育者の支援の基本技術

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜小集団でも話し合いや討議の機会を持つ。

準備学修

個々人の人間関係づくりの経験、問題点を整理しておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

谷田貝公昭 監修 谷口明子 編集『人間関係（実践 保育内容シリーズ）』一藝社

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

教育・福祉施策に関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・言葉 | | | 17633 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要について理解する。言葉を獲得し、多様な人間関係の中で思いを伝え合うようになるには、どのような環境や遊びが必要なのか、また身近な人がどのようにかわることが大切なのか等を学ぶ。そして、乳幼児の言葉の発達を支える指導の在り方について学び、保育指導案を立て読み取る力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

言葉の発達は、乳幼児の身体諸機能の発達や身近な人とのかわりを通した様々な感情体験、環境とのかわり等と関連する。これらを踏まえ、言葉の発達を促す保育者の援助、即ち環境構成や遊び・教材について講義を行い、実習や発表を通して理解を深める機会をもつ。

授業計画

1. 領域「言葉」のねらいと内容
2. 乳児の発達と言葉の獲得①
3. 乳児の発達と言葉の獲得②
4. 幼児の発達と言葉の獲得
5. 乳児期の言葉の発達を促す保育①
6. 乳児期の言葉の発達を促す保育②
7. 幼児期の言葉の発達を促す保育①
8. 幼児期の言葉の発達を促す保育②
9. 幼児期の言葉の発達を促す保育③
10. 言葉の発達と特別支援教育
11. 言葉の発達と人権教育
12. 伝え合う楽しい劇遊び
13. 文字に親しむ環境構成と教材
14. 豊かな言葉をはぐくむ教材・児童文化
15. 読み聞かせを主とした保育指導案

授業の方法

講義を主とするが、言葉をはぐくむ保育実践についての発表を加える。また、教材を作成し教育実習や保育実践にいかすようにする。知識の定着を図るため小テストを行う。

準備学修

毎回、指示した部分のテキストを読んで理解し講義内容と合わせて復習しておくこと。図書館で絵本やわらべ歌に関する本を主体的に読み、教材データの準備をすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

『保育・教育ネオシリーズ・言葉』岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修、太田光洋編著 同文書院

参考図書

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 社会的養護 | | | 17638 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐々木 勝一 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実際について理解を深めることを目標とする。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、課題レポート30% 出席状況20%

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 瑛治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているので、教科書は必ず購入すること。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 子どもの保健ⅠA | | | 17642 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 藪内 順子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが大切である。さらに、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目を向け総合的に判断し、対応できる力量を形成する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

命の誕生から身体の発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。また子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標
3. こどもの健康と保育の意義③地域における保健活動と児童虐待
4. 子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
5. 子どもの発育・発達②身体発育
6. 子どもの発育・発達③生理機能の発達
7. 子どもの発育・発達④生理機能の発達
8. 子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
9. 子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
10. 子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
11. 子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
12. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
14. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健衛生管理
15. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理

授業の方法

主に講義形式で進める。ディスカッションや発表も取り入れる。DVDやスライド等も使用する。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は減点対象とする。また、提出期限を守らない場合も減点対象とする。

テキスト

子どもの保健 1 佐藤益子編著 ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向（財）厚生統計編

留意事項

レポートの提出について未提出の場合は加点0点。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 子どもの保健Ⅱ | | | 17646 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 藪内 順子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をとおして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実践。成長・発達の観察と測定
3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
7. 子どもの疾病と適切な対応②個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動

授業の方法

講義および演習と実習

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60% 平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型の場合等は減点対象とする。提出期限を守らない場合も減点の対象となる。

欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止となった場合は認める。

テキスト

①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布

②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる）

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 子どもの食と栄養 | | | 17650 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石畠 多恵 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

子供の発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子供の食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。食育基本法や食育における食生活の支援が出来るようにする。保育士は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）を養う

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体づくりおよび発達などを理解する必要がある。子供の段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子供の食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

1. 子供の発育・発達と支援
2. 栄養・食品の知識＝栄養とは？消化と吸収、栄養素の働き＝
3. 栄養・食品の知識＝小児期の食べ物、食事摂取基準、望ましい献立と食べ方＝
4. 妊娠・胎児期の食生活
5. 乳児期の食生活＝乳児期の特徴、乳汁期の栄養＝
6. 乳児期の食生活＝離乳期の栄養＝
7. 幼児期の食生活～元気のもと食から～
8. 児童福祉施設における食事と栄養＝保育所給食、児童福祉施設の給食＝
9. 児童福祉施設における食事と栄養＝学校給食＝実践演習＝
10. 障害のある子どもの食生活

11. 子供の食生活＝子供の食生活への配慮＝
12. 子供の食生活＝子供を取り巻く食環境＝
13. 食育の基本＝食育とは？保育所における食育＝
14. 食育の実践＝食事環境、食事のマナー、保護者への支援＝
15. 食育の実践＝実践演習＝

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる

準備学修

毎回、子供の栄養に関するキーワードを提示するので、新聞、ニュース、調べた事などを、A4 1枚にまとめておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの食と栄養 峯木真知子 高橋淳子 編 その他（みらい） ISBN978-4-86015-348-9

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・表現（身体表現） | ①/② | | 17653 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石田 伸子 | 必修 | 1 | | | | |

授業の到達目標

幼児が伸び伸びと身体を動かし、表現の喜びを味わえるための身につけるべき指導力についての理解ができるようになる。また、様々な表現方法を学習し、自分自身が楽しんで、柔軟な発想で身体を動かせるようになる。学習した表現方法を用いて子どもたちが楽しめる物語を、グループで表現にまとめて発表する。このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、幼児の心と体を解放し、創造性を引き出す大切な活動である。幼児からの発信を受け止めながら、遊びの内容や活動を深めるにはどうすれば良いか、幼児の発達の筋道を理解し、興味・関心を探り、表現に繋げていける感性と指導力を身につける必要がある。そのために保育者自身が体を動かし、表現を楽しむこと大切である。身体を自由に動かし、工夫して表現できるよう、身体表現の基本から創作まで理論と実技で学習していく。

授業計画

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の「表現」についての理解
2. 乳幼児にとって、身体表現の持つ意味の理解
3. 生活及び発達段階に即した動きと基本リズム
4. 基本的な動き①
5. 基本的な動き②
6. リズム楽器の活用
7. 模倣表現①
8. 模倣表現②
9. フォークダンスとその展開①
10. フォークダンスとその展開②
11. 手具を使った表現
12. 物語を題材にした表現
13. 発表会のための創作表現、構成①
14. 発表会のための創作表現、構成②
15. 発表と評価・反省及びレポート

授業の方法

色々な表現方法があることを知り、音楽に合わせて、又は自由に身体で表現する。又様々な動きに関心を持ち、創意工夫をして身体を自

由に動かす。

準備学修

日ごろから身体を動かしておくこと。又周囲の事物の動きに関心を持ち、よく見ておくこと。

課題・評価方法

出席状況、授業態度、レポートの成績によって総合的に評価する。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

随時プリントを配布

参考図書

身体表現 古市久子著 北大路書房

留意事項

第2講義より2号館体育室で行う。体操服・体育館シューズ持参のこと。分かりやすいところに名札を付けておくこと。

| | | | | | |
|--------------|------|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教育方法論 (幼小) | 教職幼小 | 17657 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

教育実践の基本的な型を学び、「わかる」から「少しできる」技術を身につける。

- 1 実践事例から書物にない教育技術を理解する。
- 2 アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。
- 3 このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

1. 教育方法学の概要
2. 教育方法学の歴史 1 近代まで
3. 教育方法学の歴史 2 単元学習
4. 日本の授業と授業研究 1 戦後の教育
5. 日本の授業と授業研究 2 授業研究と教職研修
6. 「教材を教える」から「教材で教える」へ 1
7. 「教材を教える」から「教材で教える」へ 2
8. 教室の言語活動の分析
9. 子ども相互のコミュニケーションを構築する
10. 教職の専門性 1 めざす子ども像を持つ
11. 教職の専門性 2 良い授業とは
12. 教職の専門性 3 教師教育の課題
13. コンピューターと教育 1 情報化社会の実際
14. コンピューターと教育 2 教職勤務の適正化
15. 課題と展望

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

佐藤学「教育方法学」岩波書店、文部科学省「小学校学習指導要領」

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 初等国語科指導法 | | 17661 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 大岸 啓子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

国語科の目標と内容・指導計画・学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科の目標と内容①
3. 国語科の目標と内容②
4. 国語科の目標と内容③
5. 45分の授業づくり
6. 国語科学習指導案①
7. 国語科学習指導案②
8. 物語の授業①
9. 物語の授業②
10. 説明文の授業①
11. 説明文の授業②
12. 書写の授業
13. 模擬授業①
14. 模擬授業②
15. まとめ

授業の方法

実技やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

国語科の指導に関する教育雑誌、文献等を読んでおくこと。資料を収集して、学習指導案を作成すること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

参考図書

牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版

留意事項

出席と授業態度（授業準備やレポート等を含む）を重視する。国語科の指導法を取得しようとする意欲をもって、授業に臨むこと。毎回、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等社会科指導法 | | | 17665 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 山本 博 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

1. 「小学校学習指導要領 社会」の目指す理念や目標を理解することができる。
2. 「小学校学習指導要領 社会」の変遷と今求められている社会科学力について、理解することができる。
3. 具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。
4. 社会の出来事に関心を持つことができる。
5. このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

「小学校学習指導要領 社会」の変遷を概観し、現行の「小学校学習指導要領 社会」に基づき、教育内容と指導法を考察し、教材研究の方法や学習指導法、評価方法の習得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

授業計画

1. オリエンテーション:社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容 1
3. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容 2
4. 社会科教育の今日的課題
5. 社会科の教材研究と授業の構想 1 (資料の活用と教材化)
6. 社会科の教材研究と授業の構想 2 (授業の仕組みと展開)
7. 社会科の教材研究と授業の構想 3 (学習指導案の書き方と授業の見方・評価)
8. 地域学習の教材研究と授業化 1 (教材研究と学習指導案の作成)
9. 地域学習の教材研究と授業化 2 (模擬授業と相互評価)
10. 地理的学習の教材研究と授業化 1 (教材研究と学習指導案の作成)
11. 地理的学習の教材研究と授業化 2 (模擬授業と相互評価)
12. 歴史的学習の教材研究と授業化 1 (教材研究と学習指導案の作成)
13. 歴史的学習の教材研究と授業化 2 (模擬授業と相互評価)

14. 公民的学習の教材研究と授業化 1 (教材研究と学習指導案の作成)
15. 公民的学習の教材研究と授業化 2 (模擬授業と相互評価)

授業の方法

講義とグループワーク、模擬授業を中心に進める。

準備学修

- ・「小学校学習指導要領解説 社会編」を熟読する。
- ・普段から新聞の社会、政治、経済、文化等を読み、教材化を構想する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」平成20年8月 東洋館出版社

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等算数科指導法 | | | 17669 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 都賀 純 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法について習得する。子供の心理と発達に関する専門的な知識と技能を習得しつつ、学年の単元構成、指導展開や指導法の工夫、ポイントについて学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

算数科の学習内容の系統性、各領域の特性について学ぶ。模擬授業を通して、各学年の教材から子供のつまづきやすい内容や教師の指導上の留意点についても学びを深めていく。現場の実践とつなぎながら、ディスカッション、演習等で深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション ・ 算数科の目標
2. 数と計算領域・量と測定領域
3. 図形領域・数量関係領域
4. 指導案の書き方
5. 1年生の内容
6. 2年生の内容
7. 3年生の内容
8. 模擬授業A 1・批評会
9. 模擬授業A 2・批評会
10. 4年生の内容
11. 5年生の内容
12. 6年生の内容
13. 模擬授業B 1・批評会
14. 模擬授業B 2・批評会
15. 内容の取り扱い ・ ふりかえり

授業の方法

講義と共に、模擬授業、その授業についての学生相互のディスカッションなどの活動を大切にしていく。

準備学修

復習、予習をしっかりとすること。出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 東洋館出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等理科指導法 | | | 17673 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 山本 博 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得すること。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導のあり方について実践を通して学び、理科の授業作りの基礎を培うことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーI（知性）とS（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校理科学習指導要領の教科目標および学年目標・指導のあり方を把握する。生物・物質・地球を中心に具体的な内容を取り上げ、知識力を養う。さらに、理科の指導案作成や模擬授業を通して、実践力を育成していく。

授業計画

1. オリエンテーション 学習指導要領、教科用図書と学習指導案等について
2. 光の性質
3. 電気の通り道
4. 金属、水、空気の温度
5. 物の溶け方
6. 電流の働き
7. てこの規則性
8. 電気の利用
9. 太陽と地面の様子
10. 季節と生物
11. 植物の発芽、成長、結実
12. 動物の誕生
13. 人の体のつくりと働き
14. 植物の養分と水の通り道
15. 土地のつくりと変化

授業の方法

自然科学について、興味・関心が持てるよう具体的な事例を多く取り上げ、自作の資料やデジタル教材を使って講義をしていく。さらに、自分の考えを発表したりしながらディスカッションを深めていく。

準備学修

小・中学校の理科の内容を思い出ししておくこと。
自然科学に関する報道等に関心を持って、情報を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」（平成20年8月版）

留意事項

理科学習が楽しいと感じられるよう、具体事例を挙げながら授業を進める。
出席と授業態度を重視する。
理科学習に対して、興味関心を深めるため、日頃から自然科学に関する報道等の情報に関心を持つこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等生活科指導法 | | | 17677 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 東内 則子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

- ・生活科誕生の背景や経緯について理解する。
 - ・生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。
 - ・学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。
 - ・内容の組み合わせによる有効な指導計画を探る。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その、誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション 「私が学んだ生活科」レポート
2. 各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差
3. 生活科誕生の背景・生活科とはどんな教科か
4. 生活科の目標（生活科の抱える課題と新指導要領のねらい）
5. 生活科の内容（内容構成と階層性）
6. 生活科の内容1 「学校と生活」
7. 内容2 「家庭と生活」内容3「地域と生活」
8. 内容4 「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える
9. 内容5 「季節の変化と生活」
10. 内容の関連付けの意義と実際
11. 内容6 「自然や物を使った遊び」
12. 内容7 「動植物の飼育・栽培」内容8「生活や出来事ごとの交流」
13. 内容9 「自分の成長」
14. 年間計画を考える
15. まとめと確認

授業の方法

学習指導要領解説内容を一方通行の講義ではなく、個人・グループなど双方向形式で討議し理解を深める。

準備学修

今の子どもたちの置かれている環境を意識してみる。なぜ生活科が必要かが見えてくる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は2点減点し、遅刻は1点減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 特別活動論 (小) | 教職小 | | 17681 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 都賀 純 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

特別活動の意義や役割、今日的課題について具体的な実践例を学ぶ中で、子供の人間関係、望ましい集団活動の在り方について専門的な知識と技能を習得していく。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握すると共に、目標や内容を明らかにし、理解を深めていく。学校現場が抱えている課題を学生と共有したい。そのためにも、学校現場の姿を随時紹介したいと考えている。学生には子どもを見つめる教師としての温かい眼を養ってほしい。講義の中に、ディスカッションや演習を組み込み、共に考えていきたい。

授業計画

1. オリエンテーション・第1章 総説
2. 第2章 特別活動の目標 第1節 特別活動の目標
3. 第2章 特別活動の目標 第2節 特別活動の基本的な性格と教育的意義①
4. 第2章 特別活動の目標 第2節 特別活動の基本的な性格と教育的意義②
5. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動①
6. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動②
7. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動③
8. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動④
9. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第2節 児童会活動
10. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第3節 クラブ活動
11. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第4節 学校行事①
12. 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第4節 学校行事②
13. 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い 第1節 指導計画の作成にあたっての配慮事項
14. 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い 第2節 内容の取り扱いについての配慮事項
15. 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い 第3節 入学式や卒業式などにおける国旗及び国歌の取扱い 第4節 特別活動における評価

授業の方法

講義と演習（ロールプレイ、ディスカッション、プレゼンテーション等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

テキストを一読しておくこと。出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社

留意事項

出席と授業態度を重視する。特別活動の意義や指導法を学ぼうとする意欲と主体性をもって、授業に臨むこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育・教職実践演習 (幼・小) | | | 17686 | Ⅳ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石島 多恵/佐原 信江/大岸 啓子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬保育・模擬授業と討議①
12. 模擬保育・模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポート等を作成すること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説書』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、文部科学省『小学校学習指導要領』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|-------|------|-----|------|
| 教育実習の研究Ⅰ (幼) | 教職幼 | 17689 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 佐原 信江 | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教師の仕事とは何かなど、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのA (自律) とK (思いやり) の育成をめざす。

授業の概要

1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れている。

授業計画

1. 幼稚園教諭とは
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習園の選択と決定
4. 先輩の体験発表及びアドバイス
5. 教員に求められる人権感覚
6. 3週間実習に向け、園への依頼の仕方
7. 記録のとり方と書き方
8. 教育実習記録(1)の記入についての留意事項
9. 実習に際しての具体的な留意事項
10. 実習後について(礼状の作成など)
11. 1週間実習を終えての成果や課題について協議
12. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成
13. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成
14. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成
15. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、個人指導を実施する。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」第2章ねらい及び内容の熟読。絵本、歌、手あそびなどの教材研究とピアノレッスンに励むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

基本的に欠席は認められない。やむを得ない場合のみ、1回につき3点の減点とし、遅刻は2点減点する。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」

「あそぶうた大全集200」永岡書店 「実践!造形あそび」ナツメ社

参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項

資格取得のための教育実習に向けての授業である。1回の欠席も認められないことを十分理解しておくこと。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|-------|------|-----|------|
| 介護等の体験(事前指導) | 教職小 | 17697 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身につける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK (思いやり) A (自律) S (奉仕) E (倫理) を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設(5日間)と特別支援学校(2日間)において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身につけられるようにする。

授業計画

1. 「介護等体験」の意義
2. 社会福祉施設 1
3. 社会福祉施設 2
4. 介護の心構えと実際
5. 高齢者の心と身体
6. 特別支援学校
7. 障がいがある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
8. 「介護等体験」にあたっての心構え

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

教科書を読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。30時間。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会

全国特別支援学校長会『介護等体験ガイドブック フィリア』ジアース教育新社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育実習の研究Ⅱ (幼) | 教職幼 | | 17705 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した3週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は自己評価を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

1週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。
実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

1. 実習園でのオリエンテーション(依頼電話のかけ方、訪問に際して等)
2. 指導実習に向けての教材の作成①
3. "②
4. "③
5. 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
6. "②
7. 実習園のオリエンテーションを受ける。
8. 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
9. 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
10. "②
11. 実習記録の記入方法について
12. 実習に向けて留意事項の再確認
13. 礼状の作成
14. 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
15. まとめ

授業の方法

実習園の教育について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

準備学修

ピアノレッスンに励むこと。実習期間にあった絵本・歌曲・製作遊びなどの教材準備をしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず全回出席である。やむを得ない場合のみ、1回につき3点減点し遅刻は2点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成 「あそびうた大全集200」永岡書店 「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「教員をめざそう！」文部科学省

留意事項

資格取得のための教育実習に向けての授業である。遅刻はもちろん、1回の欠席も認められないことを十分理解しておくこと。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|--------|----|-------|------|-----|------|
| 教育経営論 (幼小) | 教職幼小PC | | 17713 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展①
3. 教育制度の歴史と発展②
4. 子どもの権利と人権①
5. 子どもの権利と人権②
6. 教育制度を学ぶ意義①
7. 教育制度を学ぶ意義②
8. 教育法①
9. 教育法②
10. 教育の目的と目標
11. 学校の制度
12. 義務教育の制度
13. 教育の機会均等
14. 教職員の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・健康 | | | 17717 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石田 伸子 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

現代の諸事情により生活スタイルが変容していることを踏まえ、乳幼児の「健康」を守ることの必要性を感じ取り、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKSAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

領域「健康」は、「健全な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う」領域である。毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活ができるようになるには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

授業計画

1. 健康の意義と乳幼児の健康な生活
2. 子どもの身体の発達
3. 運動能力と身体の発達
4. 安全の指導
5. 領域「健康」
6. 領域「健康」と保育の計画
7. 0～2歳児の生活と動き
8. 0～2歳児の身近自立・生活習慣の獲得と遊び
9. 3～5歳児の生活習慣の獲得
10. 3～5歳児の運動遊びの実際と指導のポイント
11. 運動遊びの指導と実技①
12. 運動遊び(実技)②
13. 運動遊び(実技)③
14. 安全への配慮
15. 保育者の役割

授業の方法

テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しやすいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体

得していけるようにする。

準備学修

幼稚園教育要領・保育所保育指針の「健康」の解説をよく読んでおくこと。

課題・評価方法

授業中の態度や、積極性、提出物などを中心に、テストの結果と合わせて評価する。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する。

テキスト

演習 保育内容 健康 河邊貴子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

留意事項

実技①②③は、運動しやすい服装・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・環境 | | | 17721 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 渋谷 美智 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

幼児を取り巻く様々な環境（物的・心理的）に目をむけ、環境が成長発達に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは、環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となる。自ら進んで自然に目をむけ、豊かな感性を身につけ、また現代社会の環境問題にも関心を持って取り組めるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。幼児にとって身近な環境は、心身の発達や人間らしい心を培うだけでなく、知的好奇心を誘う魅力的な存在でもある。幼児のときから人間を取り巻く環境に目を向けさせ、生活が豊かなものになるような環境作りに関心を持たせるためには、どう取り組めば良いのか、日常生活の中での環境についての理解を深める。

授業計画

1. 領域「環境」の意味
2. 領域「環境」のねらいと内容
3. 自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ち
4. 教室を出ての実際体験とグループワーク
5. 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち（動物を知る）
6. 物・生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
7. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題
8. 環境への興味とのかかわり方の発達 「子どもを育む保育の環境」DVD視聴
9. 子どもの活動を引き出す保育環境
10. 子どもの活動を引き出す保育環境（教室を出て、実際体験をする）
11. 地域社会・施設、情報化社会・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち
12. 数量・図形、文字・標識への興味と認識の育ち
13. 子どもの環境とのかかわりを促す保育者の役割
14. 子どもの環境とのかかわりを促す保育者の役割（グループワーク）
15. まとめ

授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修

日ごろから身近な環境に目を向け、疑問や問題意識を持つように心がけておく。テキスト、保育所保育指針をよく読んでおくこと。自然・社会事象について、身の回りに目を向け体験実感する。（学習時間として、授業時間の2倍程度を必要とする）

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

シードブック 保育内容 「環境」第2版

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

保育所保育指針 日本保育協会

3,4,5歳児が夢中になる実践！造形遊び 平田智久監修 ナツメ社

あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、授業課前のボードをよく注意して見ておくこと

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 幼児教育指導法 | | | 17725 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐原 信江 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

幼児教育の実践にあたり、基本となる教育内容を理解するとともに、いろいろな遊びや活動についての実践的な指導力を習得する。この科目では、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成をめざす。

授業の概要

「幼稚園教育要領解説」をもとに幼児期の教育の基本を再認識するとともに、具体的な事例を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものか学ぶ。また教材作成や演習を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

1. オリエンテーション・幼稚園教育の基本
2. 教師の役割（幼児理解・教材研究・計画的な環境構成など）
3. 保育内容の指導①＜基本的な生活習慣の育成・安全教育＞
4. 保育内容の指導②＜誕生会・園外保育・自然を取り入れた活動＞
5. 教材研究と演習①＜指人形劇を演じてみよう＞
6. 教材研究と演習②＜指人形劇を演じてみよう＞
7. 教材研究と演習③＜指人形劇を演じてみよう＞
8. 教材研究と演習④＜作ってあそぼう＞
9. 教材研究と演習⑤＜作ってあそぼう＞
10. 教材研究と演習⑥＜パネルシアターを作って演じてみよう＞
11. 教材研究と演習⑦＜パネルシアターを作って演じてみよう＞
12. 教材研究と演習⑧＜パネルシアターを作って演じてみよう＞
13. 保育内容の指導③＜保護者との良好な関係づくりに向けて＞
14. 保育内容の指導④＜小学校教育との円滑な接続＞
15. 保育内容の指導⑤＜子育て支援と預かり保育＞

授業の方法

子どもたちの園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションを通して、実践的な指導力をつけていく。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」の十分な再読。

課題・評価方法

実技演習30% レポート40% 平常点30%

欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）
「実践！造形あそび」（ナツメ社）
「あそびうた大全集200」（永岡書店）

参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 幼児指導論（カウンセリングを含む） | | | 17729 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 石島 多恵 | 必修 | 2 | | | | |

授業の到達目標

15. 園生活に困難を抱える子どもを支援する
幼児の心身の発達の道筋を理解し、幼児理解に基づく適切な援助・指導のあり方を学ぶ。幼児一人一人の発達課題に即した援助・指導や環境構成の意義がわかり、教師の役割についての理解を深める。保育相談についても学習し、幼児教育にとって必要なカウンセリングマインドの内容を理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、心の拠り所となれる保育者の役割を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのとA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた具体的な環境を整えることで、自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導することの本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、保育相談にも対応できるよう、具体的な事例を挙げながら指導する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 環境を通しての教育
3. 遊びを通しての教育
4. 幼児の主体性の育成
5. 保育者の役割
6. 遊びのなかの学びを育む保育①
7. 遊びのなかの学びを育む保育②
8. 保育形態による幼児の育ちと保育者の役割
9. 保育における評価
10. 小学校教育との関連
11. 家庭や地域との連携
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 基本的な生活習慣の育ちを支援する
14. 子どもの健やかな育ちを支援する

15. 園生活に困難を抱える子どもを支援する

授業の方法

教科書を中心に、事例を多く取り入れ講義をに進める。意見を発表したり、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

テキストを読んでおくこと。

課題・評価方法

授業中の態度や、積極性、提出物などを中心に、グループでの話し合いやテストの結果と合わせて評価する。

欠席について

欠席は成績評価に反映する。

テキスト

新保育ライブラリ「幼児教育の方法」 小田豊・青井倫子編著 北大路書房

参考図書

保育カウンセリングマインドへの招待 富田久恵・杉原一昭編著 北大路書房

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等音楽科指導法 | | | 17733 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 南 夏世 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

小学校音楽科の教育課程に関する知識・技能及び指導力を身につけることを目的とする。今日的教育課題である意欲・興味・関心といった意識の向上を促しつつ、幅広い音楽活動の指導ができる指導者の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

概説として、『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得する。特に明治以降の音楽教育について考察を深め、これからの音楽教育についてのディスカッションも行う。実践としては、歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習を行い、音楽の基礎知識を習得しながら各自の音楽技能を高めていく。さらに、模擬授業や音楽会のための計画ならびに発表を行うことにより実践力を身につけ、子どもの豊かな表現を引き出せる音楽指導法を研究する。

授業計画

- 1.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 2.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 3.楽典の基礎 ピアノ演習
- 4.リコーダーの理解と合奏
- 5.いろいろな楽器の理解と奏法
- 6.合奏教材と指揮法基礎演習
- 7.歌唱教材の研究と演習
- 8.歌唱教材の研究と演習
- 9.鑑賞教材の研究
- 10.鑑賞教材の研究 西洋音楽の理解
- 11.日本の伝統音楽の理解
- 12.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 13.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 14.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習
- 15.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習

授業の方法

項目ごとに、講義を行ってから個人であるいはグループで演習や研究発表を行う。

準備学修

バイエル終了程度の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき2点減点

テキスト

小学校学習指導要領解説音楽編

参考図書

初等科音楽教育法（音楽之友社）

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等図画工作科指導法 | | | 17737 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 花房 雅剛 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

小学校学習指導要領 図画工作科の目標および内容を理解し、授業を実践できる力を身につける。更に低・中・高学年それぞれの学習内容を具体的に理解し、作品づくりをとおして指導上必要な知識と技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

講義やディスカッション、作品づくりをとおして図画工作科の学習内容や指導方法、評価の仕方、指導案づくり等について学ぶ。また、鑑賞の能力を高める手立てとして博物館や美術館など社会教育施設等の活用方法についても学習する。

授業計画

- 1.図画工作科の目標等と役割
- 2.年間計画と指導案づくり(授業のすすめかた)
- 3.図画工作科と横断的学習
- 4.図画工作科の言語活動とアクティブ・ラーニング
- 5.点・線・面で表現①
- 6.点・線・面で表現②
- 7.版画で表現①
- 8.版画で表現②
- 9.立体で表現①
- 10.立体で表現②
- 11.造形遊び
- 12.ミクスト・メディア いろいろな材料を使って①
- 13.ミクスト・メディア いろいろな材料を使って②
- 14.鑑賞活動と博物館
- 15.まとめ

授業の方法

作品づくりを中心に講義、ディスカッションを行う。

準備学修

事前配布資料を読み、作品づくりに必要な資料・材料等の準備して授業に臨む。

課題・評価方法

平常点30% 作品40% 定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』
 日本文教出版『図画工作』『すがこうさく』
 明治図書『小学校 新学習指導要領の展開 図画工作編』新野貴則・石賀直之編著

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等家庭科指導法 | | | 17741 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身につける。現代社会の要請や小学生の発達段階・生活実態をふまえた家庭科の授業づくりができるようする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科教育のために必要な学習指導の理論、知識、技術を学ぶ。現代社会の要請をとらえ、小学生の発達段階や生活実態をふまえた家庭科の教材開発を行う。小学校教育における家庭科の位置づけだけでなく、変動する経済・社会との関連で、家庭科教育のあり方を考えていく。

授業計画

1. 家庭科教育の本質
2. 家庭科教育の目標
3. 家庭科教育の内容 1
4. 家庭科教育の内容 2
5. 家庭科の学習指導
6. 家庭科教育の指導計画 1
7. 家庭科教育の指導計画 2
8. 家庭科教育の評価・家庭科教育の施設・設備
9. 家庭科の教材研究と授業 1
10. 家庭科の教材研究と授業 2
11. 模擬授業 1
12. 模擬授業 2
13. 模擬授業 3
14. 家庭科教育の課題と展望
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとり入れる。

準備学修

高等学校までの家庭科を復習する。教材研究と模擬授業の準備をする。60時間。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 初等体育科指導法 | | | 17745 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 木岡 正雄 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

体育科の指導案を作成することができ、模擬授業を行う力を養う。また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、他への思いやりと規律、実行力を養う。

授業の概要

小学校体育科の目標、教材内容について理解する。理解した知識を基に模擬授業を実施する。授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。体育科の目指す授業について
2. 小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。
3. これから目指す体育授業について。運動の特性について
4. 低学年の目標と学習内容について
5. 中学年の目標と学習内容について
6. 高学年の目標と学習内容について
7. 学指導案の書き方について
8. 指導案を作成する。①
9. 指導案を作成する。②
10. 指導案を作成する。③
11. 模擬授業を実施する。①
12. 模擬授業を実施する。②
13. 模擬授業を実施する。③
14. 模擬授業を振り返る。学習評価について。
15. 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

少グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実技も実施予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 文部科学省、小学校学習指導要領解説体育編を読んでおく。

課題・評価方法

平常点20点。学習指導案30点。模擬授業20点。授業観察力

30点。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら見学でも出席すること。

テキスト

小学校学習指導要領 文部科学省

小学校学習指導要領解説体育編 文部科学省

参考図書

新しい体育授業の運動学 三木四郎 著 明和出版

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多台4-7-20
自宅電話番号&Fax 078-961-4362

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|-------|------|-----|------|
| 道徳教育指導論 (小) | 教職小 | 17749 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 大岸 啓子 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

道徳教育の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の時間の指導法を把握するための講義を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育改定の要点
2. [特別の教科 道徳]
3. 道徳の目標と内容①
4. 道徳の目標と内容②
5. 道徳の指導計画①
6. 道徳の指導計画②
7. 道徳の指導①
8. 道徳の指導②
9. 道徳の指導③
10. 教育活動全体を通じて行う道徳の指導
11. 道徳の授業づくり①
12. 道徳の授業づくり②
13. 道徳の授業づくり③
14. 道徳の授業づくり④
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

道徳に関する教育雑誌、文献等を読んでおくこと。参考資料を収集して、学習指導案を作成すること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(準備や提出物含む)を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|-------|------|-----|------|
| 生徒指導論 | 教職小 | 17753 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 花房 雅剛 | 選択 | 2 | | | |

授業の到達目標

学校現場における生徒指導・進路指導の内容と課題を理解し、教員として必要な資質・能力を高め、実践的な指導力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導上の課題を新聞等の資料を使い把握し、『生徒指導提要』や教育委員会発行の資料に基づき、生徒の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

授業計画

1. オリエンテーション(生徒指導の意義)
2. 生徒指導(進路指導)における教員の役割
3. 教育課程と生徒指導
4. 学校組織としての生徒指導
5. 児童生徒理解を図る方法とその活用
6. 学級担任としての生徒指導
7. 集団指導と個別指導
8. 教育相談の進め方
9. 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10. 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11. 生徒指導に関する法制度
12. 問題行動の未然防止と早期発見
13. いじめと不登校
14. 情報教育と生徒指導
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション

準備学修

児童生徒に関する社会・教育時事に関心を持ち、自分なりの考えを持って授業に参加する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『生徒指導提要』
兵庫県教育委員会『指導の重点』

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 子どもの保健 I B | | | 17762 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 藪内 順子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

「子どもの保健 I A」の子どもの心身の発育・発達について学習したことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防方法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。また施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制についても理解する。このクラスではKAISEパーソナリティーのK(思いやり)を考える。

授業の概要

子どもはさまざまな面で未熟で、事故発生の危険性や感染症に罹ることが多い。日々子どもの心身の健康を守り、健康増進に努め順調な発育・発達を促すことは、保育する上で最も基本的な要件である。「子どもの保健 I A」で学んだ基本的な知識を理解したうえで、子どもの感染症や病気について学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度の現状について学ぶ。保育者自身の心身の健康管理についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの病気と保育①子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育②子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育③主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育④子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育⑤子どもによく見られる疾患(Ⅰ.感染症)
6. 子どもの病気と保育⑥子どもによくみられる疾患(Ⅱ.感染症)
7. 子どもの病気と保育⑦子どもによくみられる疾患(Ⅲ.感染症以外の疾患)
8. 子どもの病気と保育⑧子どもによくみられる疾患(Ⅳ.感染症以外の疾患)
9. 子どもの病気と保育⑨障害のある子どもたち
10. 子どもの病気と保育⑩発達障害への理解と対応(DVD)
11. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
12. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
13. 健康および安全の実施体制保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
14. 保育所と家庭の連携

15. 母と子どもの保健

授業の方法
主に講義形式で進める

準備学修
日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもに関する情報や感染症の流行などについて、新聞や報道など身近なこととして捉える。

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%

欠席について
出席状況・授業態度も成績評価の対象とする。提出期限を守らない場合も評価の対象となる。

テキスト
①子どもの保健 I 佐藤益子編著 ななみ書房 必要時プリント配布
②子どもの保健 II 佐藤益子編著 ななみ書房

参考図書
国民衛生の動向(財)厚生統計協会編 授業時に適時紹介する。

留意事項
受講条件として「子どもの保健 I A」を履修した者

教員連絡先
juno73@yahoo.co.jp

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会的養護内容 | | | 17766 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐々木 勝一 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化している。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスでは海星パーソナリティーのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
児童の社会的養護の理念と概念
2. 施設における子どもの社会的養護
施設養護の特質と機能、被虐待児への対応
3. 施設における子どもの社会的養護
施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
4. 社会的養護における支援の計画と内容
個別支援計画作成の留意点と作成事例
5. 虐待問題と児童養護
増加する児童虐待の要因と課題
6. 社会的養護の実際
学校教育や地域社会との連携、自立支援
7. 里親制度と課題
日本と海外の相違、保育士としての役割
8. 障害児、その保護者への支援
事例からの考察、まとめ

授業の方法
VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とする。積

極的な参加を求める。また、指定教科書はないが、ノートはしっかり取ること。

準備学修
児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておくこと。

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
理由のある欠欠以外は、認めない。

テキスト
『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項
将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講すること。
「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 相談援助 | | | 17770 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐々木 勝一 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

1. 社会福祉援助技術の体系と歴史
2. 人間関係と自己理解 ①
3. 人間関係と自己理解 ②
4. 社会福祉専門職の価値・倫理 ①
5. 社会福祉専門職の価値・倫理 ②
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

授業の方法

VTR,DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

準備学修

子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深めること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 壱 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

対人援助技術は、これからの保育士には必要なものである。関心を深めること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育相談支援 | | | 17772 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 佐々木 勝一 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実践について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面に必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
コミュニケーション技法 ①
2. ケースワーク、グループワークの理解
3. 面接技法 ①
4. 面接技法 ②
5. コミュニティーワーク
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

授業の方法

VTR,DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深める。また、双方向の授業であるから、積極的な参加を求める。

準備学修

日常から子どもに関わることに関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 壱 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会とすること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 家庭支援論 | | | 17774 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割、子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。ニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携を考えることができるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の支援体制
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

家族や家庭生活についての基本的テキストを読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 乳児保育 | | | 17777 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは 乳児保育はなぜ必要か
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味
5. 胎児の世界と謎
6. 乳児期の発達と保育内容
7. 乳児期の発達と保育内容
8. 乳児の環境と人間関係
9. 乳児期の生活と保育
10. 乳児期の保育課程と指導計画
11. 保育の記録と評価の方法
12. 乳児期の成長の実態(DVD視聴)
13. 伸びやかさを育てる遊びと保育
14. さまざまな発達の考え方、乳幼児健診による早期発見と保育の役割
15. 地域における子育て支援、まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れる。

準備学修

日常生活の中で目にする乳児の生活や遊び・保護者との関わりの様子を関心を持って見る。乳児の発達過程と援助についてまとめ、理解を深める。乳児が喜ぶ手作りおもちゃを作ってみる。（学習時間として、授業時間の2倍程度を必要とする）

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育（株）みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榎原洋一 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房
保育所保育指針 日本保育協会
あそびうた大全集 永岡書店

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 障害児保育 | | | 17782 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史の変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題の一つである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）I（知性）を考える。

授業の概要

障害児保育は特別支援教育へつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個々人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

授業計画

1. 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2. 肢体不自由児・難聴幼児通園施設の実際
3. 知的障害がある子どもの理解と支援
4. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 1
5. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 2
6. 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7. 障害がある子どもの受け入れポイント
8. 障害がある子どもの受け入れに関する施設・設備の工夫と課題
9. 障害がある子どもの面談法
10. 障害がある子どもの行動観察法
11. 関係諸機関 専門医の診断法
12. 関係諸機関 保健センター、福祉関係機関
13. 家庭への子育て支援 幼児期の障害児への支援
14. 家庭への支援 健常者の保護者への啓発
15. 就学に向けての保護者との連携支援

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

岩井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教育実習指導（小学校） | 教職小 | | 17785 | Ⅲ | 集 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 大岸 啓子 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に際して必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例を通して、小学校教師の様々な仕事について学び、教育実習に備える。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
2. 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
3. 実習中の心得①
4. 実習中の心得②
5. 児童や教職員との接し方
6. 実習記録の書き方①
7. 実習記録の書き方②
8. 模擬授業

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

模擬授業の教科を指定するので、学習指導案を作成すること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修に費やすこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して、参加すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育実習指導A | | | 17811 | Ⅲ | 秋／春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 渋谷 美智／石畠 多恵 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所の役割と機能を理解する
3. 発達過程の理解を深める
4. 保育内容の実践
5. 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習記録の書き方を知る
6. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
7. 保育内容の実践（遊びの指導）
8. 実習に際しての心構え、留意事項（事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む）
9. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

保育所、保育士について事前調査しておく。また発達過程にあった手遊びなど数多く知るようしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。実習記録を書いて見る。（学習時間として、授業時間の2倍程度を必要とする）

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。
あそびうた大全集 永岡書店

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育実習指導B | | | 17820 | Ⅳ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を自覚して学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取り組むことができたものとする。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取り組めるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

1. 保育実習ⅠAについて自己評価・報告と課題の明確化 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
2. 保育実習Ⅱに関する事務手続き、書類等の配布と指導
3. 保育実習に向けての遊びの指導①
4. 保育実習に向けての遊びの指導②
5. 保育実習に向けての遊びの指導③
6. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践①
7. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践②
8. 実習の心構え、留意事項（事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む）
9. 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

実習保育所について特徴や保育のとりくみ、立地条件など事前に情報の把握しておく。乳幼児の発達を理解し、手遊びや遊び、絵本など数多く知っておく。指導計画を書く。（学習時間として、授業時間の2倍程度を必要とする）

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。
あそびうた大全集 永岡書店

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3、4、5歳児が夢になる実践！造形遊び 平田智久監修 ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

現代人間学部 英語観光学科

教職に関する科目

| ET 教職科目 <ET 教職科目> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|------|----|-------|------|-----|------|
| 教職概論 (中等) | 教職中等 | | 14101 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 森 晴美 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

教職の意義と役割を理解する。また、学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例から、学校教育に期待される様々な役割や今後の教員に求められる資質能力などについて学ぶ。そして、教職に就くための自らの適性と課題を見出すことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

教職や学校教育について講義する。また、社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、ディスカッションや発表の機会をもつ。そして、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教職の意義
3. 教員の歴史
4. 教員の身分と服務義務
5. 中等教育と職務内容及びカリキュラム
6. 学校の組織と運営
7. 教員のライフステージと研修制度
8. 国際化・情報化と教師の役割
9. 学校における社会体験とキャリア教育
10. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
11. 特別支援教育の推進
12. 人権教育の推進
13. 防災・安全教育の推進
14. 学校・家庭・地域社会の連携と役割
15. 今後の教員に求められる資質能力

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートや小テストにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された部分のテキストを事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

秋田喜代美・佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| ET 教職科目 <ET 教職科目> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|------|----|-------|------|-----|------|
| 教育原理 (中等) | 教職中等 | | 14115 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 澤井 一夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

- 1 教育の意義と目的について理解する。
 - 2 教育の思想と歴史の変遷について理解する。
 - 3 日本と諸外国の教育の制度について理解する。
 - 4 教育実践の取り組みについて理解する。
 - 5 生涯学習における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

教育学上の重要概念について初歩的な理解を得た上で、教育に関する様々な事柄から、最も基本的なもの、現在社会で注目されているもの等を選び紹介と解説によって講義を展開する。

授業計画

1. 授業の進め方と講義内容の概要を説明する。
2. 人間にとって教育とは
3. 教育思想の変遷
4. 日本の(学校)教育の変遷
5. 現行法における日本の学校教育の目的
6. 教育に関係する法規
7. 教育課程と教育内容
8. 学習指導要領・教育課程の変遷
9. 教師の仕事と専門性
10. 教育の方法を考える一々に工夫された授業のあり方
11. 現代社会と教育問題－いじめ・不登校問題など
12. 教育改革の新しい動きと方向
13. 日本と諸外国の教育制度
14. 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

これまで受けてきた教育について思い返しておくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

| ET 教職科目 <ET 教職科目> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|------|----|-------|------|-----|------|
| 介護等の体験(事前指導) | 教職中等 | | 14147 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 浅井 由美 | 選択 | 1 | | | | |

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身につける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身につけられるようにする。

授業計画

1. 「介護等体験」の意義
2. 社会福祉施設 1
3. 社会福祉施設 2
4. 介護の心構えと実際
5. 高齢者の心と身体
6. 特別支援学校
7. 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
8. 「介護等体験」にあたっての心構え

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

教科書を読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。30時間。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校校長会『介護等体験ガイドブック フィリア』ジ
アース教育新社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

| ET 教職科目 <ET 教職科目> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|------|----|-------|------|-----|------|
| 特別活動論 (中等) | 教職中等 | | 14185 | Ⅱ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 澤井 一夫 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

- 1 教員に必要な特別活動に関する基礎知識を習得する。
- 2 特別活動の各内容を理解し年間計画を立て実践能力を養う。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

授業計画

1. 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
2. 教育課程における特別活動の位置づけ
3. 特別活動の歴史の変遷
4. 特別活動の校種ごとの内容
5. 特別活動の内容① 学級活動・ホームルーム
6. 特別活動の内容② 学校行事
7. 特別活動の内容③ クラブ活動・部活動
8. 特別活動の内容④ 生徒会・児童会活動
9. 特別活動における学校安全と危機管理
10. 特別活動の指導計画の作成演習① (学級活動・ホームルーム)
11. 特別活動の指導計画の作成演習② (児童会・生徒会活動)
12. 特別活動の指導計画の作成演習③ (学校行事)
13. 特別活動の指導計画の作成演習④ (クラブ活動・部活動)
14. 特別活動と社会とのかかわり
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

「中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編」を熟読しておくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

文部科学省「中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編」
ぎょうせい

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ需要するだけでなく、自ら問題意識をもって主体的に研究し学ぶこと。

| ET 教職科目 <ET 教職科目> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|-----|----|-------|------|-----|------|
| 教職実践演習 (中・高) | ET | | 14214 | IV | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 惣谷 美智子／小野 礼子 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA (自律)、I (知性)、及びE (倫理) を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクション—これまでの学習と振り返りについて(1)～講義
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認・まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認・まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の後、グループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

う。

準備学修

今回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

常に熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp
onoreiko@kaisei.ac.jp

| ET 教職科目 <ET 教職科目> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|-------------------|------|----|-------|------|-----|------|
| 生徒指導論 教職中等 | 教職中等 | | 14217 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | | |
| 堀 正人 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA (自律) でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK (傾聴力) とI (知性) 状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書(文部科学省「生徒指導提要」)を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導の関連
3. 教育課程と生徒指導Ⅰ(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導Ⅱ(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育と生徒指導の関わり
6. 生徒の心理と生徒理解の方法
7. 学校における生徒指導体制(組織、年間計画、指導体制)のありかた
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導について
12. 課題別生徒指導の考察
13. 生徒指導に関する法制度について
14. 生徒指導短縮事例研究Ⅰ
15. 生徒指導短縮事例研究Ⅱ、課題テスト

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

生徒指導提要(文部科学省編)、13歳のハローワーク(村上龍著)

を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後の講義終了時に届け出ることを。

テキスト

文部科学省 編「生徒指導提要」教育図書

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、毎回レポートを作成する。

| | | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-----|------|
| ET 教職科目〈ET 教職科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教育実習の研究 | 教職中 | 14229 | IV | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 特記事項 | | |
| 小野 礼子 | 選択 | 1 | | | |

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の目的、教育実習の心構え、実習前の準備
2. 教育実習の展開
3. 教育実習の内容(1)
4. 教育実習の内容(2)
5. 教育実習の実際(1)
6. 教育実習の実際(2)
7. 授業の評価と実習のまとめ
8. 教育実習事後指導

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

索 引

- ・ シラバス索引 (科目コード順) P. 313
- ・ シラバス索引 (五十音順) P. 320

H29年度 シラバス索引 (科目コード順)

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|--------------|-------|------------------------------|------|-----|
| 共通科目 | | | | |
| キリスト教入門 | 11101 | 尾崎 秀夫 | I | 141 |
| 聖書概論 | 11105 | Emmanuel Poppon | I | 141 |
| キリスト教海外研修 | 11109 | 尾崎 秀夫 | I | 142 |
| 聖書と現代 | 11113 | Emmanuel Poppon | II | 142 |
| キリスト教と文化 | 11117 | 尾崎 秀夫 | III | 143 |
| 基礎演習 I | 11201 | 各学科教員 | I | 143 |
| 基礎演習 II | 11205 | 各学科教員 | I | 144 |
| 海星学 I | 11206 | 各学科教員 | II | 144 |
| 海星学 II | 11207 | 各学科教員 | II | 145 |
| 人間学 1 | 11209 | 尾崎 秀夫 | I | 145 |
| 人間学 2 | 11213 | 岡村 祥子 | III | 146 |
| キャリアデザイン入門 | 11301 | 箕野 聡子 | I | 146 |
| キャリアデザイン入門 | 11301 | 箕野 聡子 | I | 147 |
| 文学入門 | 11309 | 箕野 聡子 | I | 147 |
| 情報活用の基礎知識 | 11313 | 埴岡 忠清 | I | 148 |
| 心理学概論 | 11317 | 中植 満美子 | I | 148 |
| 統計学入門 | 11321 | 埴岡 忠清 | I | 149 |
| ジェンダー論 | 11325 | 浅井 由美 | I | 149 |
| 日本国憲法 | 11329 | 浅野 宜之 | I | 150 |
| 健康科学 | 11333 | 柳本 有二 | I | 150 |
| 健康スポーツ 1 | 11337 | 後藤 磨也子/片岡 安美子 | I | 151 |
| 日本文化史 | 11353 | 箕野 聡子 | II | 151 |
| 簿記会計学 | 11357 | 埴岡 忠清 | II | 152 |
| 現代家族関係論 | 11365 | 浅井 由美 | II | 152 |
| 社会福祉論 | 11369 | 加藤 雅典 | I | 153 |
| 人権教育論 | 11373 | 堀 正人 | II | 153 |
| 社会科学概論 | 11377 | 尾崎 秀夫 | II | 154 |
| 家政学概論 | 11381 | 浅井 由美 | II | 154 |
| オーストラリア幼稚園実習 | 11383 | 福智 佳代子 | II | 155 |
| 日本語表現法 | 11401 | 箕野 聡子 | I | 155 |
| 日本語表現法 | 11401 | 大岸 啓子 | I | 156 |
| 日本語文章構成法 | 11405 | 箕野 聡子 | II | 156 |
| 情報リテラシー 1 | 11501 | 米田 里香 | I | 157 |
| 情報リテラシー 2 | 11505 | 米田 里香 | I | 157 |
| オフィス情報処理 1 | 11509 | 米田 里香 | II | 158 |
| オフィス情報処理 2 | 11513 | 米田 里香 | II | 158 |
| 英語 1 | 11601 | 福智 佳代子 | I | 159 |
| 英語 1 | 11601 | 釜須 久夫 | I | 160 |
| 英語 2 | 11605 | 入江 和子 | I | 160 |
| 英語 2 | 11605 | 木下 奈美 | I | 161 |
| 英語 3 | 11609 | 入江 和子 | I | 161 |
| 英語 4 | 11613 | 木下 奈美 | I | 162 |
| 英語 5 | 11617 | Tina D. MATHERS | II | 162 |
| 英語 6 | 11621 | 石原 敬子/國本 恵理香 | II | 163 |
| 英語 7 | 11625 | Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON | II | 163 |
| 英語 8 | 11629 | 佐伯 瑠璃子 | II | 164 |
| フランス語 1 | 11633 | 平田 淳子 | I | 164 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|---|-----------|-----------------|------|-----|
| フランス語 2 | 1 1 6 3 7 | 平田 淳子 | I | 165 |
| フランス語 3 | 1 1 6 4 1 | 平田 淳子 | I | 165 |
| フランス語 4 | 1 1 6 4 5 | 平田 淳子 | I | 166 |
| フランス語 5 | 1 1 6 4 9 | 平田 淳子 | II | 166 |
| フランス語 6 | 1 1 6 5 3 | 平田 淳子 | II | 167 |
| フランス語 7 | 1 1 6 5 7 | 平田 淳子 | II | 167 |
| フランス語 8 | 1 1 6 6 1 | 平田 淳子 | II | 168 |
| 中国語 1 | 1 1 6 6 5 | 坂口 文馨 | I | 168 |
| 中国語 2 | 1 1 6 6 9 | 沈 竑 | I | 169 |
| 中国語 3 | 1 1 6 7 3 | 坂口 文馨 | I | 169 |
| 中国語 4 | 1 1 6 7 7 | 沈 竑 | I | 170 |
| 中国語 5 | 1 1 6 8 1 | 坂口 文馨 | II | 170 |
| 中国語 6 | 1 1 6 8 5 | 沈 竑 | II | 171 |
| 中国語 7 | 1 1 6 8 9 | 坂口 文馨 | II | 171 |
| 中国語 8 | 1 1 6 9 3 | 沈 竑 | II | 172 |
| 韓国語 1 | 1 1 6 9 7 | 宋 京珠 | I | 172 |
| 韓国語 2 | 1 1 7 0 1 | 宋 京珠 | I | 173 |
| 韓国語 3 | 1 1 7 0 5 | 宋 京珠 | I | 173 |
| 韓国語 4 | 1 1 7 0 9 | 宋 京珠 | I | 174 |
| 専門科目 (英語観光学科) | | | | |
| 演習 I | 1 3 1 0 1 | 有村 理 | III | 177 |
| 演習 I | 1 3 1 0 1 | 福智 佳代子 | III | 178 |
| 演習 I | 1 3 1 0 1 | 一尾 敏正 | III | 178 |
| 演習 I | 1 3 1 0 1 | 石原 敬子 | III | 179 |
| 演習 II | 1 3 1 0 5 | 有村 理 | III | 179 |
| 演習 II | 1 3 1 0 5 | 福智 佳代子 | III | 180 |
| 演習 II | 1 3 1 0 5 | 一尾 敏正 | III | 180 |
| 演習 II | 1 3 1 0 5 | 石原 敬子 | III | 181 |
| 演習 III | 1 3 1 0 9 | 有村 理 | IV | 181 |
| 演習 III | 1 3 1 0 9 | 一尾 敏正 | IV | 182 |
| 演習 III | 1 3 1 0 9 | 石原 敬子 | IV | 182 |
| 演習 III | 1 3 1 0 9 | 小野 礼子 | IV | 183 |
| 演習 IV | 1 3 1 1 3 | 有村 理 | IV | 183 |
| 演習 IV | 1 3 1 1 3 | 一尾 敏正 | IV | 184 |
| 演習 IV | 1 3 1 1 3 | 石原 敬子 | IV | 184 |
| 演習 IV | 1 3 1 1 3 | 小野 礼子 | IV | 185 |
| ホスピタリティ精神論 | 1 3 2 7 2 | 國本 恵理香 | I | 185 |
| 日本文化論 | 1 3 2 7 3 | 箕野 聡子 | II | 186 |
| 翻訳・通訳論入門 | 1 3 3 0 1 | 和泉 有香 | II | 186 |
| Advanced Oral Communication 1 | 1 3 3 0 9 | Kevin MUNSON | III | 187 |
| Advanced Oral Communication 1 | 1 3 3 0 9 | 服部 幸正 | III | 187 |
| Advanced Oral Communication 2 | 1 3 3 1 3 | Kevin MUNSON | III | 188 |
| Advanced Oral Communication 2 | 1 3 3 1 3 | 服部 幸正 | III | 188 |
| Academic Reading/Writing 1 | 1 3 3 1 8 | Kevin MUNSON | III | 189 |
| Academic Reading/Writing 1 | 1 3 3 1 8 | Tina D. MATHERS | III | 189 |
| Academic Reading/Writing 2 | 1 3 3 2 2 | Tina D. MATHERS | III | 190 |
| Academic Reading/Writing 2 | 1 3 3 2 2 | Kevin MUNSON | III | 190 |
| Public Speaking and Oral Interpretation | 1 3 3 3 3 | Tina D. MATHERS | III | 191 |
| Academic Reading/Writing 3 | 1 3 3 3 8 | Kevin MUNSON | IV | 191 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|---------------------------------|-----------|--------------|------|-----|
| Debating and Persuasion | 1 3 3 4 5 | Kevin MUNSON | IV | 192 |
| ことばと社会 | 1 3 4 0 5 | 佐伯 瑠璃子 | II | 192 |
| 異文化理解 | 1 3 4 0 9 | 有村 理 | II | 193 |
| 英米文学入門 | 1 3 4 1 3 | 吉野 美智子 | I | 194 |
| ことばの意味・文化 | 1 3 4 1 7 | 服部 幸正 | II | 194 |
| 観光概論 | 1 3 4 2 6 | 一尾 敏正 | I | 195 |
| 国際観光交流論 | 1 3 4 2 7 | 青木 幹生 | I | 195 |
| 手話コミュニケーションⅠ | 1 3 4 2 8 | 若生 茂嗣／岩橋 博子 | II | 196 |
| 手話コミュニケーションⅡ | 1 3 4 2 9 | 若生 茂嗣 | II | 196 |
| 環境ツーリズム論 | 1 3 4 3 0 | 有村 理 | II | 197 |
| 観光事業総論 | 1 3 4 3 1 | 一尾 敏正 | II | 197 |
| 観光と世界遺産 | 1 3 4 3 2 | 有村 理 | II | 198 |
| 観光ビジネス実務論 | 1 3 4 3 4 | 有村 理 | II | 198 |
| 韓国語入門Ⅰ | 1 3 4 3 5 | 宋 京珠 | II | 199 |
| 韓国語入門Ⅱ | 1 3 4 3 6 | 宋 京珠 | II | 199 |
| 企業研究 | 1 3 4 4 0 | 有村 理／一尾 敏正 | II | 200 |
| 海外ツーリズム研修 | 1 3 4 4 5 | 有村 理／一尾 敏正 | I・II | 201 |
| 児童文学 | 1 3 5 0 1 | 福智 佳代子／箕野 聡子 | II | 202 |
| Cross-cultural Communication | 1 3 5 0 5 | Kevin MUNSON | III | 202 |
| English/American Culture | 1 3 5 1 3 | Kevin MUNSON | III | 203 |
| 英米文学研究 | 1 3 5 2 1 | 惣谷 美智子 | III | 203 |
| 女性と社会 | 1 3 5 2 5 | 浅井 由美 | III | 204 |
| American Studies in U. S. A. | 1 3 5 2 9 | | I | 204 |
| Australian Studies in Australia | 1 3 5 3 7 | | I | 205 |
| Canadian Studies in Canada | 1 3 5 3 9 | | I | 205 |
| ビジネス翻訳 | 1 3 6 2 1 | 檜本 雄三 | III | 206 |
| インターンシップ1 (企業) | 1 3 6 3 1 | 有村 理／一尾 敏正 | III | 206 |
| 児童英語教育概論 | 1 3 7 0 1 | 福智 佳代子 | I | 207 |
| 英語科教育法Ⅰ | 1 3 7 0 5 | 惣谷 美智子 | I | 207 |
| 英語科教育法Ⅱ | 1 3 7 0 9 | 惣谷 美智子 | II | 208 |
| 英語学概論 | 1 3 7 1 3 | 服部 幸正 | II | 208 |
| キッズ・イングリッシュⅠ | 1 3 7 2 5 | 福智 佳代子 | II | 209 |
| キッズ・イングリッシュⅡ | 1 3 7 2 9 | 福智 佳代子 | II | 209 |
| キッズ・イングリッシュⅢ (実習) | 1 3 7 3 3 | 福智 佳代子 | III | 210 |
| 英語科教育法Ⅲ | 1 3 7 3 7 | 小野 礼子／吉野 美智子 | III | 210 |
| 英語科教育法Ⅳ | 1 3 7 4 1 | 小野 礼子／吉野 美智子 | III | 211 |
| 外国語教授法 | 1 3 7 4 5 | 福智 佳代子 | III | 211 |
| TOEIC/TOEFL入門 1 | 1 3 8 0 6 | 和泉 有香 | I | 212 |
| TOEIC/TOEFL入門 1 | 1 3 8 0 6 | 入江 和子 | I | 212 |
| TOEIC/TOEFL入門 2 | 1 3 8 0 7 | 佐伯 瑠璃子 | I | 213 |
| TOEIC/TOEFL入門 2 | 1 3 8 0 7 | 入江 和子 | I | 213 |
| 教職概論 (初等) | 1 3 8 0 9 | 森 晴美 | I | 214 |
| 教育心理学 | 1 3 8 1 3 | 濱田 誠二郎 | I | 214 |
| TOEIC/TOEFL 1 | 1 3 8 2 2 | 和泉 有香 | II | 215 |
| TOEIC/TOEFL 2 | 1 3 8 2 3 | 和泉 有香 | II | 215 |
| 道徳教育指導論 (中等) | 1 3 8 2 9 | 堀 正人 | III | 216 |
| 比較文化論 | 1 3 8 3 0 | 福智 佳代子 | III | 216 |
| ホスピタリティ・マネジメント | 1 3 8 3 1 | 一尾 敏正 | III | 217 |
| ビジネス中国語 | 1 3 8 3 2 | 王 嬌 | III | 217 |
| 観光マーケティング論 | 1 3 8 3 3 | 一尾 敏正 | III | 218 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|------------------------|-------|-------------------------------------|------|-----|
| 宿泊事業論 | 13835 | 一尾 敏正 | Ⅲ | 218 |
| 航空ツーリズム論 | 13836 | 有村 理 | Ⅲ | 219 |
| 観光文化地理論 | 13838 | 釜須 久夫 | Ⅰ | 219 |
| WEBトラベルプレゼンテーション | 13839 | 釜須 久夫 | Ⅲ | 220 |
| 神戸学 | 13841 | 箕野 聡子 | Ⅲ | 220 |
| 観光英検3級 | 13845 | 國本 恵理香 | Ⅰ | 221 |
| 観光英検2級 | 13846 | 入江 和子 | Ⅰ | 221 |
| 観光英検1級 | 13847 | 入江 和子 | Ⅱ | 222 |
| 教育課程論 | 13850 | 堀 正人 | Ⅱ | 222 |
| 教育方法論 | 13851 | 堀 正人 | Ⅱ | 223 |
| 教育相談(カウンセリングを含む) (中等) | 13852 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 223 |
| 教育経営論 (中高) | 13853 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 224 |
| Oral Communication 100 | 13901 | 國本 恵理香 | Ⅰ | 224 |
| Oral Communication 100 | 13901 | Tina D. MATHERS/國本 恵理香 | Ⅰ | 225 |
| Reading 101 | 13903 | 入江 和子 | Ⅰ | 225 |
| Reading 101 | 13903 | 和泉 有香/佐伯 瑠璃子/岡村 祥子 | Ⅰ | 226 |
| Writing 102 | 13905 | 和泉 有香 | Ⅰ | 226 |
| Writing 102 | 13905 | Kevin MUNSON/入江 和子 | Ⅰ | 227 |
| Grammar 103 | 13907 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅰ | 227 |
| Grammar 103 | 13907 | 吉野 美智子/入江 和子/岡村 祥子 | Ⅰ | 228 |
| Oral Communication 200 | 13909 | 國本 恵理香 | Ⅰ | 228 |
| Oral Communication 200 | 13909 | Kevin MUNSON/佐伯 瑠璃子 | Ⅰ | 229 |
| Reading 201 | 13911 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅰ | 229 |
| Reading 201 | 13911 | 惣谷 美智子/石原 敬子/入江 和子/岡村 祥子 | Ⅰ | 230 |
| Writing 202 | 13913 | 國本 恵理香 | Ⅰ | 230 |
| Writing 202 | 13913 | Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON/吉野 美智子 | Ⅰ | 231 |
| Grammar 203 | 13915 | 吉野 美智子 | Ⅰ | 231 |
| Grammar 203 | 13915 | 石原 敬子/和泉 有香/入江 和子 | Ⅰ | 232 |
| Oral Communication 300 | 13917 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 232 |
| Oral Communication 300 | 13917 | Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | Ⅱ・Ⅰ | 233 |
| Reading 301 | 13919 | 岡村 祥子 | Ⅱ | 233 |
| Reading 301 | 13919 | 入江 和子/國本 恵理香/石原 敬子/惣谷 美智子 | Ⅱ・Ⅰ | 234 |
| Writing 302 | 13921 | 國本 恵理香 | Ⅱ | 234 |
| Writing 302 | 13921 | Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON | Ⅱ・Ⅰ | 235 |
| Grammar 303 | 13923 | 和泉 有香 | Ⅱ | 235 |
| Grammar 303 | 13923 | 和泉 有香/吉野 美智子/木下 奈美 | Ⅱ・Ⅰ | 236 |
| Oral Communication 400 | 13925 | 吉野 美智子 | Ⅱ | 236 |
| Oral Communication 400 | 13925 | Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | Ⅱ | 237 |
| Reading 401 | 13927 | 國本 恵理香 | Ⅱ | 237 |
| Reading 401 | 13927 | 佐伯 瑠璃子/木下 奈美/石原 敬子 | Ⅱ | 238 |
| Writing 402 | 13929 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 238 |
| Writing 402 | 13929 | 和泉 有香/Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | Ⅱ | 239 |
| Grammar 403 | 13931 | 吉野 美智子 | Ⅱ | 239 |
| Grammar 403 | 13931 | 佐伯 瑠璃子/和泉 有香/吉野 美智子 | Ⅱ | 240 |
| Business English | 13935 | 青木 幹生 | Ⅱ | 240 |
| English for Tourism | 13937 | 青木 幹生 | Ⅱ | 241 |
| ハワイ文化研究 | 13965 | 釜須 久夫 | Ⅰ | 241 |
| インターンシップ (海外) | 13967 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 242 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|-----------------------|-------|--------------|------|-----|
| 専門科目 (心理こども学科) | | | | |
| 演習 I | 17101 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 245 |
| 演習 I | 17101 | 森 晴美 | Ⅲ | 245 |
| 演習 I | 17101 | 中植 満美子 | Ⅲ | 246 |
| 演習 I | 17101 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 246 |
| 演習 I | 17101 | 佐原 信江 | Ⅲ | 247 |
| 演習 II | 17105 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 247 |
| 演習 II | 17105 | 森 晴美 | Ⅲ | 248 |
| 演習 II | 17105 | 中植 満美子 | Ⅲ | 248 |
| 演習 II | 17105 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 249 |
| 演習 II | 17105 | 佐原 信江 | Ⅲ | 249 |
| 演習 III | 17109 | 濱田 誠二郎 | IV | 250 |
| 演習 III | 17109 | 森 晴美 | IV | 250 |
| 演習 III | 17109 | 中植 満美子 | IV | 251 |
| 演習 III | 17109 | 大岸 啓子 | IV | 251 |
| 演習 III | 17109 | 佐原 信江 | IV | 252 |
| 演習 IV | 17113 | 濱田 誠二郎 | IV | 252 |
| 演習 IV | 17113 | 森 晴美 | IV | 253 |
| 演習 IV | 17113 | 中植 満美子 | IV | 253 |
| 演習 IV | 17113 | 大岸 啓子 | IV | 254 |
| 演習 IV | 17113 | 佐原 信江 | IV | 254 |
| 発達心理学 | 17201 | 中植 満美子 | I | 255 |
| 保育内容総論 | 17205 | 佐原 信江 | I | 255 |
| 性格心理学 | 17309 | 吉村 友子 | I | 256 |
| 感情心理学 | 17317 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 256 |
| 人格発達心理学 | 17321 | 中植 満美子 | Ⅱ | 257 |
| 臨床心理学 | 17325 | 津田 明子 | Ⅱ | 257 |
| 認知心理学 | 17329 | 中植 満美子 | Ⅱ | 258 |
| 心理統計学 | 17337 | 須崎 暁世 | Ⅱ | 258 |
| 心理学基礎実験 | 17341 | 澤田 瑞也 | Ⅱ | 259 |
| 心理検査法実習 | 17343 | 中植 満美子 | Ⅱ | 259 |
| 心理調査・データ処理法 | 17345 | 須崎 暁世 | Ⅱ | 260 |
| 人格発達障害論 | 17361 | 中植 満美子 | Ⅲ | 260 |
| 臨床心理学実習 1 (心理テスト法) | 17373 | 中植 満美子 | Ⅲ | 261 |
| 臨床心理学実習 2 (カウンセリング法) | 17377 | 津田 明子 | Ⅲ | 261 |
| 心理学文献講読 1 | 17385 | 澤田 瑞也 | Ⅲ | 262 |
| 生活文化概論 | 17405 | 渋谷 美智 | I | 262 |
| 教育心理学 | 17409 | 濱田 誠二郎 | I | 263 |
| 初等音楽 1 | 17417 | 南 夏世/由井 敦子 | I | 263 |
| 初等音楽 2 | 17421 | 南 夏世/由井 敦子 | I | 264 |
| 児童文学 | 17437 | 福智 佳代子/箕野 聡子 | Ⅱ | 264 |
| 学習・発達論 | 17441 | 中植 満美子 | Ⅱ | 265 |
| 乳幼児心理学 | 17445 | 吉村 友子 | Ⅱ | 265 |
| ことばの発達・学習 | 17461 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 266 |
| キッズ・イングリッシュ I | 17465 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 266 |
| キッズ・イングリッシュ II | 17469 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 267 |
| 初等音楽 3 | 17473 | 南 夏世 | Ⅱ | 267 |
| 初等音楽 4 | 17477 | 南 夏世 | Ⅲ | 268 |
| 教育相談(カウンセリングを含む) (初等) | 17497 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 268 |
| 子育て支援と地域社会 | 17501 | 渋谷 美智 | Ⅲ | 269 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|-------------------|-------|-------------------|------|-----|
| ボランティア論 | 17505 | 加藤 雅典 | I | 269 |
| 図画工作 | 17509 | 森 晴美 | I | 270 |
| 初等体育 | 17513 | 木岡 正雄 | II | 270 |
| 教育原理 | 17521 | 澤井 一夫 | II | 271 |
| 児童家庭福祉 | 17526 | 中植 満美子 | II | 271 |
| 情緒・学習障害の心理 | 17537 | 濱田 誠二郎 | III | 272 |
| 保育内容の研究・表現（造形表現） | 17601 | 森 晴美 | I | 272 |
| 保育原理 I | 17605 | 伊藤 美和子 | I | 273 |
| 教職概論（幼小） | 17613 | 森 晴美 | I | 273 |
| 幼児教育学原理 | 17617 | 須河内 優子 | II | 274 |
| 幼児教育課程の研究 | 17621 | 佐原 信江 | II | 274 |
| 教育課程論（教職小） | 17625 | 都賀 純 | II | 275 |
| 保育内容の研究・人間関係 | 17629 | 濱田 誠二郎 | II | 275 |
| 保育内容の研究・言葉 | 17633 | 森 晴美 | II | 276 |
| 社会的養護 | 17638 | 佐々木 勝一 | II | 276 |
| 子どもの保健 I A | 17642 | 藪内 順子 | II | 277 |
| 子どもの保健 II | 17646 | 藪内 順子 | II | 277 |
| 子どもの食と栄養 | 17650 | 石島 多恵 | II | 278 |
| 保育内容の研究・表現（身体表現） | 17653 | 石田 伸子 | II | 278 |
| 教育方法論（幼小） | 17657 | 濱田 誠二郎 | II | 279 |
| 初等国語科指導法 | 17661 | 大岸 啓子 | III | 279 |
| 初等社会科指導法 | 17665 | 山本 博 | II | 280 |
| 初等算数科指導法 | 17669 | 都賀 純 | II | 280 |
| 初等理科指導法 | 17673 | 山本 博 | II | 281 |
| 初等生活科指導法 | 17677 | 東内 則子 | II | 281 |
| 特別活動論（小） | 17681 | 都賀 純 | II | 282 |
| 保育・教職実践演習（幼・小） | 17686 | 石島 多恵／佐原 信江／大岸 啓子 | IV | 282 |
| 教育実習の研究 I（幼） | 17689 | 佐原 信江 | II | 283 |
| 介護等の体験（事前指導） | 17697 | 浅井 由美 | II | 283 |
| 教育実習の研究 II（幼） | 17705 | 佐原 信江 | III | 284 |
| 教育経営論（幼小） | 17713 | 大岸 啓子 | III | 284 |
| 保育内容の研究・健康 | 17717 | 石田 伸子 | III | 285 |
| 保育内容の研究・環境 | 17721 | 渋谷 美智 | III | 285 |
| 幼児教育指導法 | 17725 | 佐原 信江 | III | 286 |
| 幼児指導論（カウンセリングを含む） | 17729 | 石島 多恵 | III | 286 |
| 初等音楽科指導法 | 17733 | 南 夏世 | III | 287 |
| 初等図画工作科指導法 | 17737 | 花房 雅剛 | III | 287 |
| 初等家庭科指導法 | 17741 | 浅井 由美 | III | 288 |
| 初等体育科指導法 | 17745 | 木岡 正雄 | III | 288 |
| 道徳教育指導論（小） | 17749 | 大岸 啓子 | II | 289 |
| 生徒指導論 | 17753 | 花房 雅剛 | III | 289 |
| 子どもの保健 I B | 17762 | 藪内 順子 | III | 290 |
| 社会的養護内容 | 17766 | 佐々木 勝一 | III | 290 |
| 相談援助 | 17770 | 佐々木 勝一 | III | 291 |
| 保育相談支援 | 17772 | 佐々木 勝一 | III | 291 |
| 家庭支援論 | 17774 | 浅井 由美 | III | 292 |
| 乳児保育 | 17777 | 渋谷 美智 | I | 292 |
| 障害児保育 | 17782 | 濱田 誠二郎 | II | 293 |
| 教育実習指導（小学校） | 17785 | 大岸 啓子 | III | 293 |
| 保育実習指導 A | 17811 | 渋谷 美智／石島 多恵 | III | 294 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|--------------|-------|--------------|------|-----|
| 保育実習指導B | 17820 | 渋谷 美智 | IV | 294 |
| 教職に関する科目 | | | | |
| 教職概論 (中等) | 14101 | 森 晴美 | I | 297 |
| 教育原理 (中等) | 14115 | 澤井 一夫 | II | 297 |
| 介護等の体験(事前指導) | 14147 | 浅井 由美 | II | 298 |
| 特別活動論 (中等) | 14185 | 澤井 一夫 | II | 298 |
| 教職実践演習 (中・高) | 14214 | 惣谷 美智子/小野 礼子 | IV | 299 |
| 生徒指導論 教職中等 | 14217 | 堀 正人 | III | 299 |
| 教育実習の研究 | 14229 | 小野 礼子 | IV | 300 |

H29年度 シラバス索引 (五十音順)

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|---|-----------|------------------------------|------|-----|
| A Academic Reading/Writing 1 | 1 3 3 1 8 | Kevin MUNSON | Ⅲ | 189 |
| Academic Reading/Writing 1 | 1 3 3 1 8 | Tina D. MATHERS | Ⅲ | 189 |
| Academic Reading/Writing 2 | 1 3 3 2 2 | Tina D. MATHERS | Ⅲ | 190 |
| Academic Reading/Writing 2 | 1 3 3 2 2 | Kevin MUNSON | Ⅲ | 190 |
| Academic Reading/Writing 3 | 1 3 3 3 8 | Kevin MUNSON | Ⅳ | 191 |
| Advanced Oral Communication 1 | 1 3 3 0 9 | Kevin MUNSON | Ⅲ | 187 |
| Advanced Oral Communication 1 | 1 3 3 0 9 | 服部 幸正 | Ⅲ | 187 |
| Advanced Oral Communication 2 | 1 3 3 1 3 | Kevin MUNSON | Ⅲ | 188 |
| Advanced Oral Communication 2 | 1 3 3 1 3 | 服部 幸正 | Ⅲ | 188 |
| American Studies in U.S.A. | 1 3 5 2 9 | | I | 204 |
| Australian Studies in Australia | 1 3 5 3 7 | | I | 205 |
| B Business English | 1 3 9 3 5 | 青木 幹生 | Ⅱ | 240 |
| C Canadian Studies in Canada | 1 3 5 3 9 | | I | 205 |
| Cross-cultural Communication | 1 3 5 0 5 | Kevin MUNSON | Ⅲ | 202 |
| D Debating and Persuasion | 1 3 3 4 5 | Kevin MUNSON | Ⅳ | 192 |
| E English for Tourism | 1 3 9 3 7 | 青木 幹生 | Ⅱ | 241 |
| English/American Culture | 1 3 5 1 3 | Kevin MUNSON | Ⅲ | 203 |
| G Grammar 103 | 1 3 9 0 7 | 佐伯 瑠璃子 | I | 227 |
| Grammar 103 | 1 3 9 0 7 | 吉野 美智子/入江 和子/岡村 祥子 | I | 228 |
| Grammar 203 | 1 3 9 1 5 | 吉野 美智子 | I | 231 |
| Grammar 203 | 1 3 9 1 5 | 石原 敬子/和泉 有香/入江 和子 | I | 232 |
| Grammar 303 | 1 3 9 2 3 | 和泉 有香 | Ⅱ | 235 |
| Grammar 303 | 1 3 9 2 3 | 和泉 有香/吉野 美智子/木下 奈美 | Ⅱ・I | 236 |
| Grammar 403 | 1 3 9 3 1 | 吉野 美智子 | Ⅱ | 239 |
| Grammar 403 | 1 3 9 3 1 | 佐伯 瑠璃子/和泉 有香/吉野 美智子 | Ⅱ | 240 |
| O Oral Communication 100 | 1 3 9 0 1 | 國本 恵理香 | I | 224 |
| Oral Communication 100 | 1 3 9 0 1 | Tina D. MATHERS/國本 恵理香 | I | 225 |
| Oral Communication 200 | 1 3 9 0 9 | 國本 恵理香 | I | 228 |
| Oral Communication 200 | 1 3 9 0 9 | Kevin MUNSON/佐伯 瑠璃子 | I | 229 |
| Oral Communication 300 | 1 3 9 1 7 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 232 |
| Oral Communication 300 | 1 3 9 1 7 | Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | Ⅱ・I | 233 |
| Oral Communication 400 | 1 3 9 2 5 | 吉野 美智子 | Ⅱ | 236 |
| Oral Communication 400 | 1 3 9 2 5 | Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | Ⅱ | 237 |
| P Public Speaking and Oral Interpretation | 1 3 3 3 3 | Tina D. MATHERS | Ⅲ | 191 |
| R Reading 101 | 1 3 9 0 3 | 入江 和子 | I | 225 |
| Reading 101 | 1 3 9 0 3 | 和泉 有香/佐伯 瑠璃子/岡村 祥子 | I | 226 |
| Reading 201 | 1 3 9 1 1 | 佐伯 瑠璃子 | I | 229 |
| Reading 201 | 1 3 9 1 1 | 惣谷 美智子/石原 敬子/入江 和子/岡村 祥子 | I | 230 |
| Reading 301 | 1 3 9 1 9 | 岡村 祥子 | Ⅱ | 233 |
| Reading 301 | 1 3 9 1 9 | 入江 和子/國本 恵理香/石原 敬子/惣谷 美智子 | Ⅱ・I | 234 |
| Reading 401 | 1 3 9 2 7 | 國本 恵理香 | Ⅱ | 237 |
| Reading 401 | 1 3 9 2 7 | 佐伯 瑠璃子/木下 奈美/石原 敬子 | Ⅱ | 238 |
| T TOEIC/TOEFL 1 | 1 3 8 2 2 | 和泉 有香 | Ⅱ | 215 |
| TOEIC/TOEFL 2 | 1 3 8 2 3 | 和泉 有香 | Ⅱ | 215 |
| TOEIC/TOEFL入門 1 | 1 3 8 0 6 | 和泉 有香 | I | 212 |
| TOEIC/TOEFL入門 1 | 1 3 8 0 6 | 入江 和子 | I | 212 |
| TOEIC/TOEFL入門 2 | 1 3 8 0 7 | 佐伯 瑠璃子 | I | 213 |
| TOEIC/TOEFL入門 2 | 1 3 8 0 7 | 入江 和子 | I | 213 |

| | 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|---|------------------|-------|-------------------------------------|------|-----|
| W | WEBトラベルプレゼンテーション | 13839 | 釜須 久夫 | Ⅲ | 220 |
| | Writing 102 | 13905 | 和泉 有香 | I | 226 |
| | Writing 102 | 13905 | Kevin MUNSON/入江 和子 | I | 227 |
| | Writing 202 | 13913 | 國本 恵理香 | I | 230 |
| | Writing 202 | 13913 | Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON/吉野 美智子 | I | 231 |
| | Writing 302 | 13921 | 國本 恵理香 | Ⅱ | 234 |
| | Writing 302 | 13921 | Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON | Ⅱ・I | 235 |
| | Writing 402 | 13929 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 238 |
| | Writing 402 | 13929 | 和泉 有香/Kevin MUNSON/Tina D. MATHERS | Ⅱ | 239 |
| い | 異文化理解 | 13409 | 有村 理 | Ⅱ | 193 |
| | インターンシップ1 (企業) | 13631 | 有村 理/一尾 敏正 | Ⅲ | 206 |
| | インターンシップ (海外) | 13967 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 242 |
| え | 英語1 | 11601 | 福智 佳代子 | I | 159 |
| | 英語1 | 11601 | 釜須 久夫 | I | 160 |
| | 英語2 | 11605 | 入江 和子 | I | 160 |
| | 英語2 | 11605 | 木下 奈美 | I | 161 |
| | 英語3 | 11609 | 入江 和子 | I | 161 |
| | 英語4 | 11613 | 木下 奈美 | I | 162 |
| | 英語5 | 11617 | Tina D. MATHERS | Ⅱ | 162 |
| | 英語6 | 11621 | 石原 敬子/國本 恵理香 | Ⅱ | 163 |
| | 英語7 | 11625 | Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON | Ⅱ | 163 |
| | 英語8 | 11629 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 164 |
| | 英語科教育法Ⅰ | 13705 | 惣谷 美智子 | I | 207 |
| | 英語科教育法Ⅱ | 13709 | 惣谷 美智子 | Ⅱ | 208 |
| | 英語科教育法Ⅲ | 13737 | 小野 礼子/吉野 美智子 | Ⅲ | 210 |
| | 英語科教育法Ⅳ | 13741 | 小野 礼子/吉野 美智子 | Ⅲ | 211 |
| | 英語学概論 | 13713 | 服部 幸正 | Ⅱ | 208 |
| | 英米文学研究 | 13521 | 惣谷 美智子 | Ⅲ | 203 |
| | 英米文学入門 | 13413 | 吉野 美智子 | I | 194 |
| | 演習Ⅰ | 13101 | 有村 理 | Ⅲ | 177 |
| | 演習Ⅰ | 13101 | 福智 佳代子 | Ⅲ | 178 |
| | 演習Ⅰ | 13101 | 一尾 敏正 | Ⅲ | 178 |
| | 演習Ⅰ | 13101 | 石原 敬子 | Ⅲ | 179 |
| | 演習Ⅰ | 17101 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 245 |
| | 演習Ⅰ | 17101 | 森 晴美 | Ⅲ | 245 |
| | 演習Ⅰ | 17101 | 中植 満美子 | Ⅲ | 246 |
| | 演習Ⅰ | 17101 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 246 |
| | 演習Ⅰ | 17101 | 佐原 信江 | Ⅲ | 247 |
| | 演習Ⅱ | 13105 | 有村 理 | Ⅲ | 179 |
| | 演習Ⅱ | 13105 | 福智 佳代子 | Ⅲ | 180 |
| | 演習Ⅱ | 13105 | 一尾 敏正 | Ⅲ | 180 |
| | 演習Ⅱ | 13105 | 石原 敬子 | Ⅲ | 181 |
| | 演習Ⅱ | 17105 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 247 |
| | 演習Ⅱ | 17105 | 森 晴美 | Ⅲ | 248 |
| | 演習Ⅱ | 17105 | 中植 満美子 | Ⅲ | 248 |
| | 演習Ⅱ | 17105 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 249 |
| | 演習Ⅱ | 17105 | 佐原 信江 | Ⅲ | 249 |
| | 演習Ⅲ | 13109 | 有村 理 | Ⅳ | 181 |
| | 演習Ⅲ | 13109 | 一尾 敏正 | Ⅳ | 182 |
| | 演習Ⅲ | 13109 | 石原 敬子 | Ⅳ | 182 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|----------------|-------|------------|------|-----|
| 演習Ⅲ | 13109 | 小野 礼子 | Ⅳ | 183 |
| 演習Ⅲ | 17109 | 濱田 誠二郎 | Ⅳ | 250 |
| 演習Ⅲ | 17109 | 森 晴美 | Ⅳ | 250 |
| 演習Ⅲ | 17109 | 中植 満美子 | Ⅳ | 251 |
| 演習Ⅲ | 17109 | 大岸 啓子 | Ⅳ | 251 |
| 演習Ⅲ | 17109 | 佐原 信江 | Ⅳ | 252 |
| 演習Ⅳ | 13113 | 有村 理 | Ⅳ | 183 |
| 演習Ⅳ | 13113 | 一尾 敏正 | Ⅳ | 184 |
| 演習Ⅳ | 13113 | 石原 敬子 | Ⅳ | 184 |
| 演習Ⅳ | 13113 | 小野 礼子 | Ⅳ | 185 |
| 演習Ⅳ | 17113 | 濱田 誠二郎 | Ⅳ | 252 |
| 演習Ⅳ | 17113 | 森 晴美 | Ⅳ | 253 |
| 演習Ⅳ | 17113 | 中植 満美子 | Ⅳ | 253 |
| 演習Ⅳ | 17113 | 大岸 啓子 | Ⅳ | 254 |
| 演習Ⅳ | 17113 | 佐原 信江 | Ⅳ | 254 |
| お オーストラリア幼稚園実習 | 11383 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 155 |
| オフィス情報処理1 | 11509 | 米田 里香 | Ⅱ | 158 |
| オフィス情報処理2 | 11513 | 米田 里香 | Ⅱ | 158 |
| か 海外ツーリズム研修 | 13445 | 有村 理／一尾 敏正 | Ⅰ・Ⅱ | 201 |
| 外国語教授法 | 13745 | 福智 佳代子 | Ⅲ | 211 |
| 介護等の体験(事前指導) | 17697 | 浅井 由美 | Ⅱ | 283 |
| 介護等の体験(事前指導) | 14147 | 浅井 由美 | Ⅱ | 298 |
| 海星学Ⅰ | 11206 | 各学科教員 | Ⅱ | 144 |
| 海星学Ⅱ | 11207 | 各学科教員 | Ⅱ | 145 |
| 学習・発達論 | 17441 | 中植 満美子 | Ⅱ | 265 |
| 家政学概論 | 11381 | 浅井 由美 | Ⅱ | 154 |
| 家庭支援論 | 17774 | 浅井 由美 | Ⅲ | 292 |
| 環境ツーリズム論 | 13430 | 有村 理 | Ⅱ | 197 |
| 観光英検1級 | 13847 | 入江 和子 | Ⅱ | 222 |
| 観光英検2級 | 13846 | 入江 和子 | Ⅰ | 221 |
| 観光英検3級 | 13845 | 國本 恵理香 | Ⅰ | 221 |
| 観光概論 | 13426 | 一尾 敏正 | Ⅰ | 195 |
| 観光事業総論 | 13431 | 一尾 敏正 | Ⅱ | 197 |
| 観光と世界遺産 | 13432 | 有村 理 | Ⅱ | 198 |
| 観光ビジネス実務論 | 13434 | 有村 理 | Ⅱ | 198 |
| 観光文化地理論 | 13838 | 釜須 久夫 | Ⅰ | 219 |
| 観光マーケティング論 | 13833 | 一尾 敏正 | Ⅲ | 218 |
| 韓国語1 | 11697 | 宋 京珠 | Ⅰ | 172 |
| 韓国語2 | 11701 | 宋 京珠 | Ⅰ | 173 |
| 韓国語3 | 11705 | 宋 京珠 | Ⅰ | 173 |
| 韓国語4 | 11709 | 宋 京珠 | Ⅰ | 174 |
| 韓国語入門Ⅰ | 13435 | 宋 京珠 | Ⅱ | 199 |
| 韓国語入門Ⅱ | 13436 | 宋 京珠 | Ⅱ | 199 |
| 感情心理学 | 17317 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 256 |
| き 企業研究 | 13440 | 有村 理／一尾 敏正 | Ⅱ | 200 |
| 基礎演習Ⅰ | 11201 | 各学科教員 | Ⅰ | 143 |
| 基礎演習Ⅱ | 11205 | 各学科教員 | Ⅰ | 144 |
| キッズ・イングリッシュⅠ | 13725 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 209 |
| キッズ・イングリッシュⅠ | 17465 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 266 |
| キッズ・イングリッシュⅡ | 13729 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 209 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|-----------------------|-------|---------------|------|-----|
| キッズ・イングリッシュⅡ | 17469 | 福智 佳代子 | Ⅱ | 267 |
| キッズ・イングリッシュⅢ (実習) | 13733 | 福智 佳代子 | Ⅲ | 210 |
| キャリアデザイン入門 | 11301 | 箕野 聡子 | Ⅰ | 146 |
| キャリアデザイン入門 | 11301 | 箕野 聡子 | Ⅰ | 147 |
| 教育課程論 | 13850 | 堀 正人 | Ⅱ | 222 |
| 教育課程論 (教職小) | 17625 | 都賀 純 | Ⅱ | 275 |
| 教育経営論 (中高) | 13853 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 224 |
| 教育経営論 (幼小) | 17713 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 284 |
| 教育原理 | 17521 | 澤井 一夫 | Ⅱ | 271 |
| 教育原理 (中等) | 14115 | 澤井 一夫 | Ⅱ | 297 |
| 教育実習指導 (小学校) | 17785 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 293 |
| 教育実習の研究 | 14229 | 小野 礼子 | Ⅳ | 300 |
| 教育実習の研究Ⅰ (幼) | 17689 | 佐原 信江 | Ⅱ | 283 |
| 教育実習の研究Ⅱ (幼) | 17705 | 佐原 信江 | Ⅲ | 284 |
| 教育心理学 | 13813 | 濱田 誠二郎 | Ⅰ | 214 |
| 教育心理学 | 17409 | 濱田 誠二郎 | Ⅰ | 263 |
| 教育相談(カウンセリングを含む) (初等) | 17497 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 268 |
| 教育相談(カウンセリングを含む) (中等) | 13852 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 223 |
| 教育方法論 | 13851 | 堀 正人 | Ⅱ | 223 |
| 教育方法論 (幼小) | 17657 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 279 |
| 教職概論 (初等) | 13809 | 森 晴美 | Ⅰ | 214 |
| 教職概論 (中等) | 14101 | 森 晴美 | Ⅰ | 297 |
| 教職概論 (幼小) | 17613 | 森 晴美 | Ⅰ | 273 |
| 教職実践演習(中・高) | 14214 | 惣谷 美智子/小野 礼子 | Ⅳ | 299 |
| キリスト教海外研修 | 11109 | 尾崎 秀夫 | Ⅰ | 142 |
| キリスト教と文化 | 11117 | 尾崎 秀夫 | Ⅲ | 143 |
| キリスト教入門 | 11101 | 尾崎 秀夫 | Ⅰ | 141 |
| け 健康科学 | 11333 | 柳本 有二 | Ⅰ | 150 |
| 健康スポーツⅠ | 11337 | 後藤 磨也子/片岡 安美子 | Ⅰ | 151 |
| 現代家族関係論 | 11365 | 浅井 由美 | Ⅱ | 152 |
| こ 航空ツーリズム論 | 13836 | 有村 理 | Ⅲ | 219 |
| 神戸学 | 13841 | 箕野 聡子 | Ⅲ | 220 |
| 国際観光交流論 | 13427 | 青木 幹生 | Ⅰ | 195 |
| 子育て支援と地域社会 | 17501 | 渋谷 美智 | Ⅲ | 269 |
| ことばと社会 | 13405 | 佐伯 瑠璃子 | Ⅱ | 192 |
| ことばの意味・文化 | 13417 | 服部 幸正 | Ⅱ | 194 |
| ことばの発達・学習 | 17461 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 266 |
| 子どもの食と栄養 | 17650 | 石島 多恵 | Ⅱ | 278 |
| 子どもの保健ⅠA | 17642 | 藪内 順子 | Ⅱ | 277 |
| 子どもの保健ⅠB | 17762 | 藪内 順子 | Ⅲ | 290 |
| 子どもの保健Ⅱ | 17646 | 藪内 順子 | Ⅱ | 277 |
| し ジェンダー論 | 11325 | 浅井 由美 | Ⅰ | 149 |
| 児童英語教育概論 | 13701 | 福智 佳代子 | Ⅰ | 207 |
| 児童家庭福祉 | 17526 | 中植 満美子 | Ⅱ | 271 |
| 児童文学 | 13501 | 福智 佳代子/箕野 聡子 | Ⅱ | 202 |
| 児童文学 | 17437 | 福智 佳代子/箕野 聡子 | Ⅱ | 264 |
| 社会科学概論 | 11377 | 尾崎 秀夫 | Ⅱ | 154 |
| 社会的養護内容 | 17766 | 佐々木 勝一 | Ⅲ | 290 |
| 社会的養護 | 17638 | 佐々木 勝一 | Ⅱ | 276 |
| 社会福祉論 | 11369 | 加藤 雅典 | Ⅰ | 153 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|--------------|-------|-----------------|------|-----|
| 宿泊事業論 | 13835 | 一尾 敏正 | Ⅲ | 218 |
| 手話コミュニケーションⅠ | 13428 | 若生 茂嗣／岩橋 博子 | Ⅱ | 196 |
| 手話コミュニケーションⅡ | 13429 | 若生 茂嗣 | Ⅱ | 196 |
| 障害児保育 | 17782 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 293 |
| 情緒・学習障害の心理 | 17537 | 濱田 誠二郎 | Ⅲ | 272 |
| 情報活用の基礎知識 | 11313 | 埴岡 忠清 | Ⅰ | 148 |
| 情報リテラシー 1 | 11501 | 米田 里香 | Ⅰ | 157 |
| 情報リテラシー 2 | 11505 | 米田 里香 | Ⅰ | 157 |
| 女性と社会 | 13525 | 浅井 由美 | Ⅲ | 204 |
| 初等音楽 1 | 17417 | 南 夏世／由井 敦子 | Ⅰ | 263 |
| 初等音楽 2 | 17421 | 南 夏世／由井 敦子 | Ⅰ | 264 |
| 初等音楽 3 | 17473 | 南 夏世 | Ⅱ | 267 |
| 初等音楽 4 | 17477 | 南 夏世 | Ⅲ | 268 |
| 初等音楽科指導法 | 17733 | 南 夏世 | Ⅲ | 287 |
| 初等家庭科指導法 | 17741 | 浅井 由美 | Ⅲ | 288 |
| 初等国語科指導法 | 17661 | 大岸 啓子 | Ⅲ | 279 |
| 初等算数科指導法 | 17669 | 都賀 純 | Ⅱ | 280 |
| 初等社会科指導法 | 17665 | 山本 博 | Ⅱ | 280 |
| 初等図画工作科指導法 | 17737 | 花房 雅剛 | Ⅲ | 287 |
| 初等生活科指導法 | 17677 | 東内 則子 | Ⅱ | 281 |
| 初等体育 | 17513 | 木岡 正雄 | Ⅱ | 270 |
| 初等体育科指導法 | 17745 | 木岡 正雄 | Ⅲ | 288 |
| 初等理科指導法 | 17673 | 山本 博 | Ⅱ | 281 |
| 人格発達障害論 | 17361 | 中植 満美子 | Ⅲ | 260 |
| 人格発達心理学 | 17321 | 中植 満美子 | Ⅱ | 257 |
| 人権教育論 | 11373 | 堀 正人 | Ⅱ | 153 |
| 心理学概論 | 11317 | 中植 満美子 | Ⅰ | 148 |
| 心理学基礎実験 | 17341 | 澤田 瑞也 | Ⅱ | 259 |
| 心理学文献講読 1 | 17385 | 澤田 瑞也 | Ⅲ | 262 |
| 心理検査法実習 | 17343 | 中植 満美子 | Ⅱ | 259 |
| 心理調査・データ処理法 | 17345 | 須崎 暁世 | Ⅱ | 260 |
| 心理統計学 | 17337 | 須崎 暁世 | Ⅱ | 258 |
| す 図画工作 | 17509 | 森 晴美 | Ⅰ | 270 |
| せ 性格心理学 | 17309 | 吉村 友子 | Ⅰ | 256 |
| 生活文化概論 | 17405 | 渋谷 美智 | Ⅰ | 262 |
| 聖書概論 | 11105 | Emmanuel Poppon | Ⅰ | 141 |
| 聖書と現代 | 11113 | Emmanuel Poppon | Ⅱ | 142 |
| 生徒指導論 | 17753 | 花房 雅剛 | Ⅲ | 289 |
| 生徒指導論 教職中等 | 14217 | 堀 正人 | Ⅲ | 299 |
| そ 相談援助 | 17770 | 佐々木 勝一 | Ⅲ | 291 |
| ち 中国語 1 | 11665 | 坂口 文馨 | Ⅰ | 168 |
| 中国語 2 | 11669 | 沈 竑 | Ⅰ | 169 |
| 中国語 3 | 11673 | 坂口 文馨 | Ⅰ | 169 |
| 中国語 4 | 11677 | 沈 竑 | Ⅰ | 170 |
| 中国語 5 | 11681 | 坂口 文馨 | Ⅱ | 170 |
| 中国語 6 | 11685 | 沈 竑 | Ⅱ | 171 |
| 中国語 7 | 11689 | 坂口 文馨 | Ⅱ | 171 |
| 中国語 8 | 11693 | 沈 竑 | Ⅱ | 172 |
| と 統計学入門 | 11321 | 埴岡 忠清 | Ⅰ | 149 |
| 道徳教育指導論 (小) | 17749 | 大岸 啓子 | Ⅱ | 289 |

| | 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|---|--------------------|-------|-------------------|------|-----|
| | 道徳教育指導論 (中等) | 13829 | 堀 正人 | Ⅲ | 216 |
| | 特別活動論 (小) | 17681 | 都賀 純 | Ⅱ | 282 |
| | 特別活動論 (中等) | 14185 | 澤井 一夫 | Ⅱ | 298 |
| に | 日本国憲法 | 11329 | 浅野 宜之 | Ⅰ | 150 |
| | 日本語表現法 | 11401 | 箕野 聡子 | Ⅰ | 155 |
| | 日本語表現法 | 11401 | 大岸 啓子 | Ⅰ | 156 |
| | 日本語文章構成法 | 11405 | 箕野 聡子 | Ⅱ | 156 |
| | 日本文化史 | 11353 | 箕野 聡子 | Ⅱ | 151 |
| | 日本文化論 | 13273 | 箕野 聡子 | Ⅱ | 186 |
| | 乳児保育 | 17777 | 渋谷 美智 | Ⅰ | 292 |
| | 乳幼児心理学 | 17445 | 吉村 友子 | Ⅱ | 265 |
| | 人間学1 | 11209 | 尾崎 秀夫 | Ⅰ | 145 |
| | 人間学2 | 11213 | 岡村 祥子 | Ⅲ | 146 |
| | 認知心理学 | 17329 | 中植 満美子 | Ⅱ | 258 |
| は | 発達心理学 | 17201 | 中植 満美子 | Ⅰ | 255 |
| | ハワイ文化研究 | 13965 | 釜須 久夫 | Ⅰ | 241 |
| ひ | 比較文化論 | 13830 | 福智 佳代子 | Ⅲ | 216 |
| | ビジネス中国語 | 13832 | 王 嫣 | Ⅲ | 217 |
| | ビジネス翻訳 | 13621 | 檜本 雄三 | Ⅲ | 206 |
| ふ | フランス語1 | 11633 | 平田 淳子 | Ⅰ | 164 |
| | フランス語2 | 11637 | 平田 淳子 | Ⅰ | 165 |
| | フランス語3 | 11641 | 平田 淳子 | Ⅰ | 165 |
| | フランス語4 | 11645 | 平田 淳子 | Ⅰ | 166 |
| | フランス語5 | 11649 | 平田 淳子 | Ⅱ | 166 |
| | フランス語6 | 11653 | 平田 淳子 | Ⅱ | 167 |
| | フランス語7 | 11657 | 平田 淳子 | Ⅱ | 167 |
| | フランス語8 | 11661 | 平田 淳子 | Ⅱ | 168 |
| | 文学入門 | 11309 | 箕野 聡子 | Ⅰ | 147 |
| ほ | 保育・教職実践演習 (幼・小) | 17686 | 石島 多恵/佐原 信江/大岸 啓子 | Ⅳ | 282 |
| | 保育原理Ⅰ | 17605 | 伊藤 美和子 | Ⅰ | 273 |
| | 保育実習指導A | 17811 | 渋谷 美智/石島 多恵 | Ⅲ | 294 |
| | 保育実習指導B | 17820 | 渋谷 美智 | Ⅳ | 294 |
| | 保育相談支援 | 17772 | 佐々木 勝一 | Ⅲ | 291 |
| | 保育内容総論 | 17205 | 佐原 信江 | Ⅰ | 255 |
| | 保育内容の研究・言葉 | 17633 | 森 晴美 | Ⅱ | 276 |
| | 保育内容の研究・環境 | 17721 | 渋谷 美智 | Ⅲ | 285 |
| | 保育内容の研究・健康 | 17717 | 石田 伸子 | Ⅲ | 285 |
| | 保育内容の研究・人間関係 | 17629 | 濱田 誠二郎 | Ⅱ | 275 |
| | 保育内容の研究・表現 (身体表現) | 17653 | 石田 伸子 | Ⅱ | 278 |
| | 保育内容の研究・表現 (造形表現) | 17601 | 森 晴美 | Ⅰ | 272 |
| | 簿記会計学 | 11357 | 埴岡 忠清 | Ⅱ | 152 |
| | ホスピタリティ精神論 | 13272 | 國本 恵理香 | Ⅰ | 185 |
| | ホスピタリティ・マネジメント | 13831 | 一尾 敏正 | Ⅲ | 217 |
| | ボランティア論 | 17505 | 加藤 雅典 | Ⅰ | 269 |
| | 翻訳・通訳論入門 | 13301 | 和泉 有香 | Ⅱ | 186 |
| よ | 幼児教育学原理 | 17617 | 須河内 優子 | Ⅱ | 274 |
| | 幼児教育課程の研究 | 17621 | 佐原 信江 | Ⅱ | 274 |
| | 幼児教育指導法 | 17725 | 佐原 信江 | Ⅲ | 286 |
| | 幼児指導論 (カウンセリングを含む) | 17729 | 石島 多恵 | Ⅲ | 286 |
| り | 臨床心理学 | 17325 | 津田 明子 | Ⅱ | 257 |

| 科目名 | コード | 教員名 | 配当年次 | ページ |
|---------------------|-------|--------|------|-----|
| 臨床心理学実習1 (心理テスト法) | 17373 | 中植 満美子 | Ⅲ | 261 |
| 臨床心理学実習2 (カウンセリング法) | 17377 | 津田 明子 | Ⅲ | 261 |